

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第197集

しら いわ じょう せき
白 岩 城 跡 III

—長野県佐久市上平尾中世城館跡の発掘調査報告書—

(中 世)

2012. 3

セブン—イレブンジャパン株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第197集

しら いわ じょう せき
白 岩 城 跡 III

—長野県佐久市上平尾中世城館跡の発掘調査報告書—

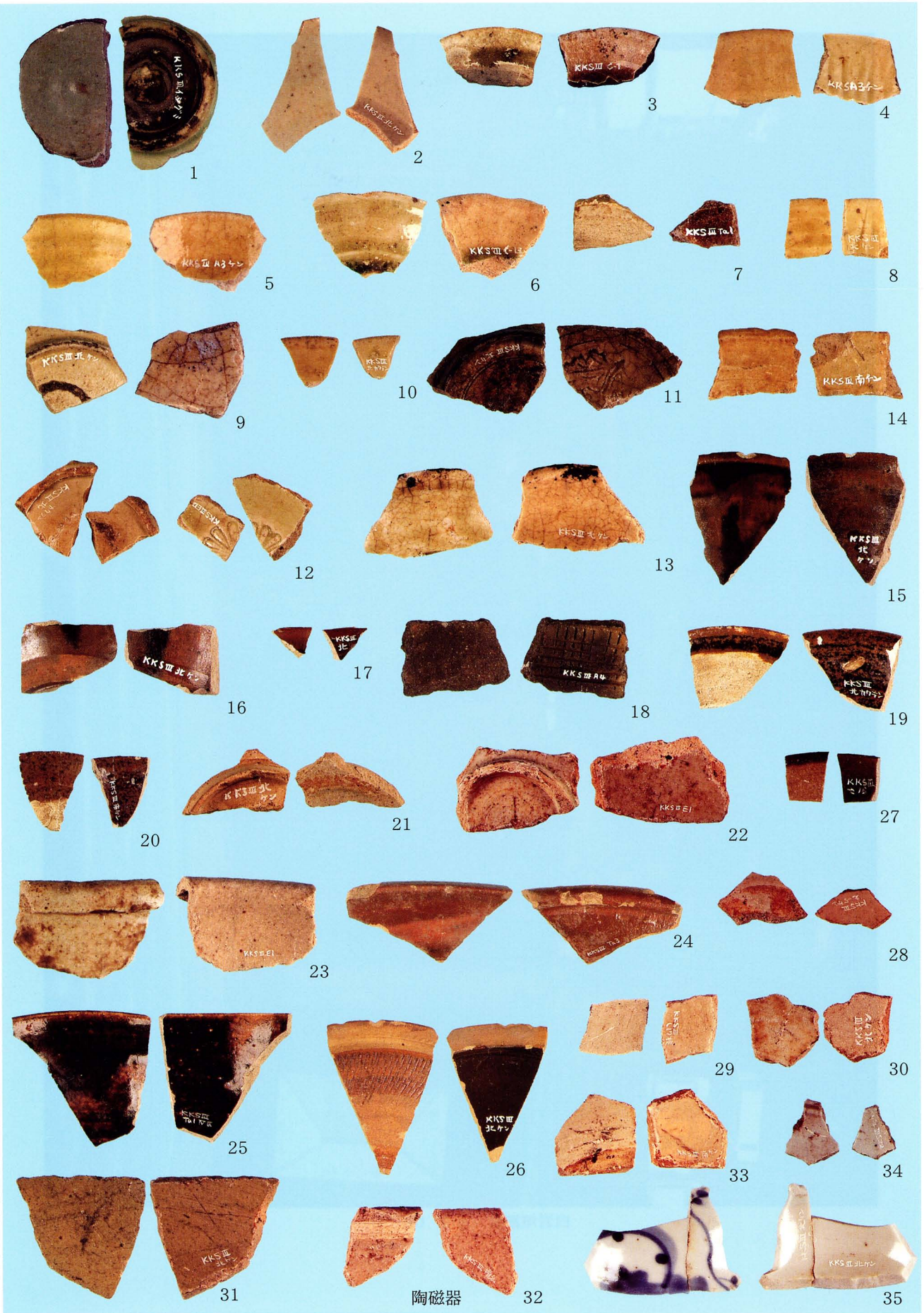
(中 世)

2012. 3

セブニーイレブンジャパン株式会社
佐久市教育委員会



白岩城跡Ⅲ 全景（南より）



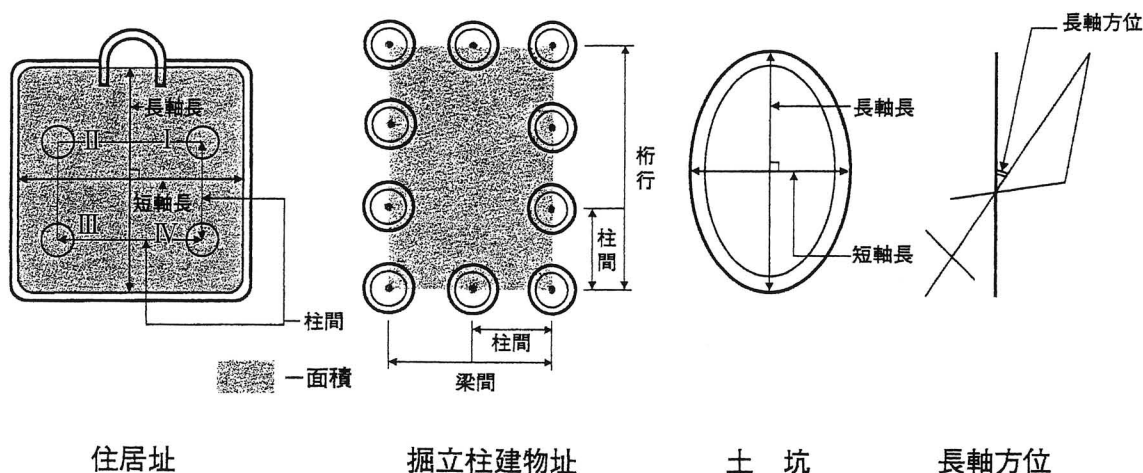
白岩城跡Ⅲ 出土陶磁器 (1:2)

例 言

1. 本書は店舗新設工事に伴う発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 セブーンイレブンジャパン株式会社
3. 調査主体者 佐久市教育委員会文化財課
4. 遺跡名および所在地
白岩（しらいわ）城跡Ⅲ（略号KKSⅢ）
佐久市上平尾古城跡967-1外2筆
5. 調査期間及面積
発掘調査 平成21年(2009)9月2日～10月30日
整理期間 平成21年11月～22年3月・平成23年(2011)12月～平成24年3月
調査面積 1,720㎡
6. 本報告書に関わる担当は、発掘調査は出澤力、報告書の編集・執筆は森泉かよ子が行った。
7. 陶磁器類は（財）長野県埋蔵文化財センター 市川隆之氏にご教示いただいた。ここに記して御礼申し上げます。
8. 本書及び本遺跡の出土遺物の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略号は以下の通りである。
竪穴状遺構—Ta 掘立柱建物跡—F 土坑—D ピット—P 溝・堀址—M
2. 挿図の縮尺は原則として以下の通りである。異なる場合は図中に明記してある。
遺構—1/80 遺物 土器—1/4 大型石製品—1/8 陶磁器・鉄製品—1/2
小品 1/1
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」とした。
4. 土層の色調は2005年版『新版 標準土色帖』に基づいて示した。
5. 挿図の遺物番号は写真図版中の遺物番号と同一である。図版中の縮尺はほぼ挿図と同じであるが、異なるものもある。
6. 遺構の計測は下図に示した測定値である。
長軸長と短軸長の差が1割を越えたものを長方形とした。



7. 本調査は整地層がみられ、検出を上下の二段階にわたって行っている。上面は4mグリットを設定後メッシュ測量、下面は平板測量である。

また、下面で検出された遺構の中には上面に帰属するものもあり得る。掘立柱建物址とした柱穴は、上面と下面にあった場合上面に引き上げて修正をしている。下面検出の遺構は青線で表記している。


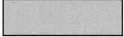

8. 遺物一覧表の()は推定値、〈 〉残存値、-は測定不可能であることを示す。

9. 本報告書挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構

地山断面  堀  土 塁 

遺物

赤色塗彩  釉  礫 

主な検出遺構・遺物

遺構

掘立柱建物址 9棟
竪穴状遺構 3棟
土 坑 45基
石 組 1基
堀 址 1本
溝 址 4本
単独ピット 426個（掘立柱建物址分含む）

遺物

陶磁器—青磁碗・白磁皿・瀬戸大窯灰釉小皿・瀬戸美濃丸皿・前山灰釉碗・かわらけ・内耳鍋
鉄製品—鉄鏝・刀子・火打金具・角釘・毛抜・角軸
青銅製品—柄縁・鞘尻・渡金製品
古銭—渡来銭—唐銭・北宋銭・明銭
邦鑄銭—寛永通寶
石製品—編物石・軽石製品・砥石・台石・硯・スクレイパー・茶臼・粉挽臼・五輪塔・石鏝・石匙
骨—ウシかうマの骨・歯

目 次

巻頭図版

例 言

凡 例

主な検出遺構・遺物

目 次

第Ⅰ章 発掘調査の概要	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査日誌	2
第4節 調査の概要	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	4
第1節 自然環境	4
第2節 歴史的環境	4
第Ⅲ章 基本層序	7
第Ⅳ章 遺構と遺物	11
第1節 遺構	11
1. 掘立柱建物址	11
2. 竪穴状遺構	13
3. 土坑	15
4. 単独ピット	22
5. 南堀・土塁・溝址	22
第2節 遺物	23
1. 陶磁器	23
2. 内耳鍋・火鉢・土板	23
3. かわらけ	23
4. 金属製品	23
5. 古銭	25
6. 石製品	25
7. 羽口	31
8. 骨	31
9. 中世以前の遺物	31
第Ⅴ章 まとめ	32
引用参考文献	36
付表	41
図版	55

挿図目次

第1図 白岩城跡位置図 (1:50,000)	1
第2図 グリット設定図 (1:500)	3
第3図 発掘区設定図 (1:2,000)	3
第4図 周辺遺跡分布図 (1:20,000)	5

第5図	白岩城跡・平尾（秋葉山）城縄張図（1：10,000）	6
第6図	基本層序模式図	7
第7図	白岩城跡Ⅲ全体図	9・10
第8図	F1・F2号掘立柱建物址	12
第9図	F3号掘立柱建物址	13
第10図	F4・F8号掘立柱建物址	14
第11図	F5・F6号掘立柱建物址	15
第12図	F7号掘立柱建物址・M4号溝址	16
第13図	竪穴状遺構	17
第14図	土坑（1）	18
第15図	土坑（2）	19
第16図	土坑（3）	20
第17図	土坑（4）	21
第18図	土坑（5）	22
第19図	南堀断面図	23
第20図	陶磁器（1）	24
第21図	陶磁器（2）	25
第22図	内耳鍋・火鉢・かわらけ・土板	26
第23図	金属製品	27
第24図	古銭	28
第25図	石製品（砥石・磨石・台石他）	29
第26図	石製品（五輪塔・石臼）	30
第27図	石製品（石鏃・石匙）	31
第28図	骨・歯	31
第29図	中世以前の出土遺物	31
第30図	『白岩城跡Ⅰ』瀬戸灰釉端反皿・かわらけ	32
第31図	北山寺遺跡中世遺構図	33
第32図	白岩城跡Ⅲの虎口	34
第33図	白岩城跡Ⅲ出土の主たる遺物分布図	37・38
第34図	白岩城跡地形測量図	39・40
付図	白岩城跡Ⅲ横断面図	
挿図目次		
第1表	白岩城跡Ⅲ遺構一覧表	41
	竪穴状遺構	41
	掘立柱建物址	41
	溝址	41
	土坑	42
	単独ピット	44
第2表	白岩城跡Ⅲ出土遺物一覧表	49

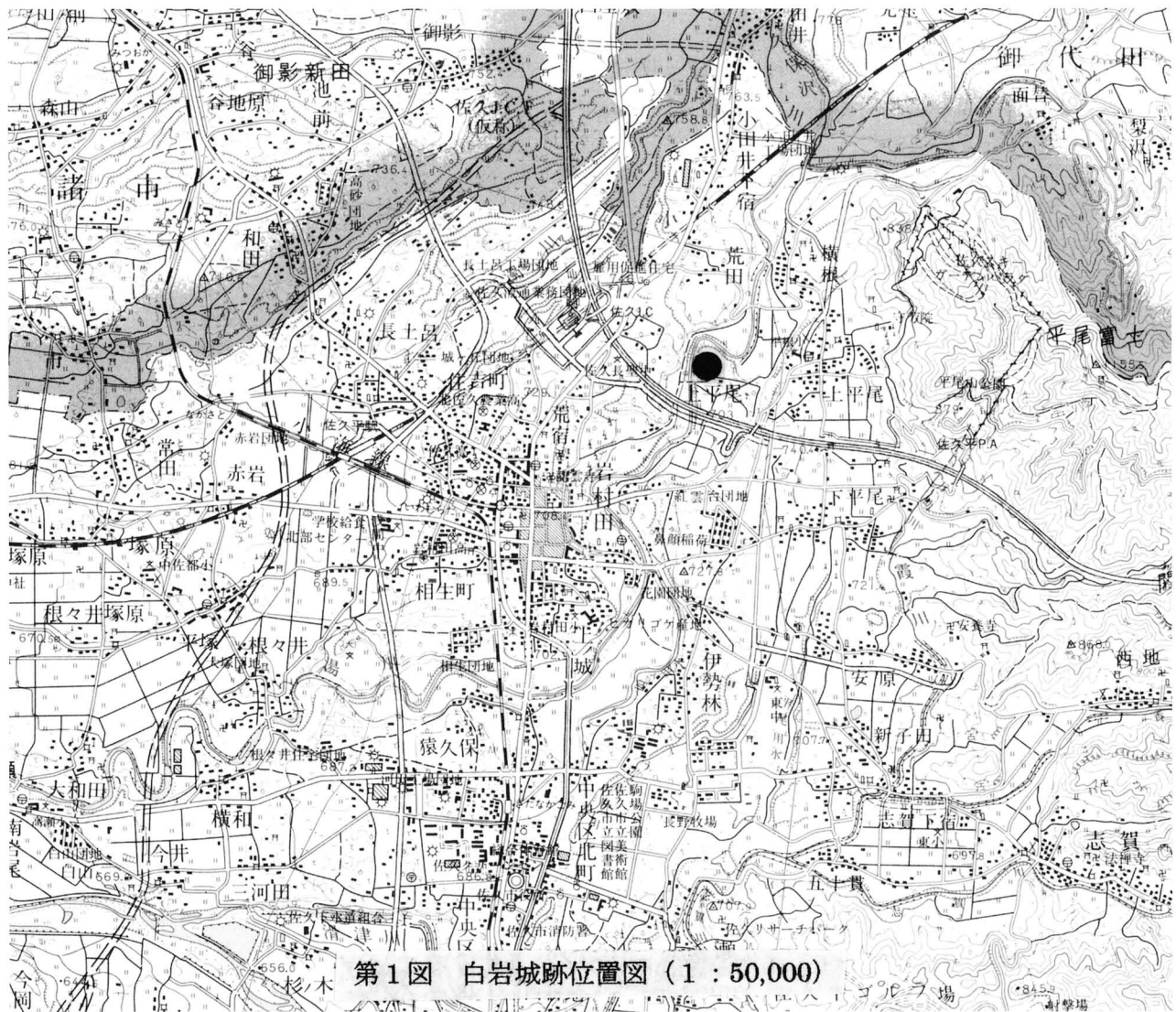
第I章 発掘調査の概要

第1節 発掘調査に至る経緯

白岩城跡は佐久市の北部中央にあり、南流する湯川左岸の河岸段丘にのぞむ第2段丘崖上にある。今回、セブン-イレブンジャパン株式会社の店舗新設が計画され、城跡として周知のところであり、試掘調査の結果遺構・遺物を検出した。立地は浅間山南麓の西にのびる田切り地形の台地にあたり、湯川が屈曲して三方を囲み、浸食により断崖となっている。台地側は堀で切断して内郭を作り出している。標高は742mを測る。

昭和63年（1988）に県道草越・豊昇・佐久線の改良工事事業に伴い拡幅部の発掘調査がなされている。道路拡幅部である現道の西側から南北に延びる堀の西側面を検出している。工事区の北側では郭の上面の調査で5基の土坑と溝がある。

今回の開発地点は昭和63年の白岩城跡Ⅰの調査と一部連続する主郭の南東部にあたる地点である。試掘の結果遺構・遺物が検出され、店舗新設により遺跡が破壊されるため、遺跡の記録保存を目的として発掘調査を行った。



第2節 調査体制

佐久市教育委員会

平成21年度(2009)

教 育 長 木内 清 (～5月) 土屋盛夫 (5月～)

社会教育部長 内藤孝徳 (～6月) 工藤秀康 (7月～)

社会教育部次長 金澤英人 (～6月)

文化財課長 森角吉晴 文化財調査係長 三石宗一

文化財調査係 林 幸彦 並木節子 須藤隆司 小林眞寿

羽毛田卓也 富沢一明 上原 学 出澤 力

神津 格 (～9月) 井出泰章 (10月～)

調査担当者 出澤 力

平成23年度(2011)

教 育 長 土屋盛夫

社会教育部長 伊藤明弘

社会教育部次長 藤牧 浩

文化財課長 吉澤 隆 文化財調査係長 三石宗一

文化財調査係 林 幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也

富沢一明 上原 学 並木節子 出澤 力 (～6月)

井出泰章 (～9月) 神津一明 (10月～)

調査担当者 森泉かよ子

調 査 員

浅沼ノブエ 甘利隆雄 安藤孝司 岡村千代美 小井戸秀元 小林百合子

小山 功 土屋武士 中島フクジ 細萱ミスズ 日向昭次 百瀬秋男

山田英輝 油井満芳 渡辺久美子 渡辺 学

報告書作成分担

堺 益子 柳澤孝子(遺物実測) 副島充子 上山貴恵(トレース) 菊池喜重(復元)

林美智子(版下作成) 細谷秀子(図面修正) 吉田信行(図版作成) 依田好行(遺物撮影)

柳沢亜矢子(割付・表作成)

第3節 調査日誌

平成21年度(2009)

9月 2日 本日より現地に調査員を入れ、検出作業。

10月30日 現場の作業を終了、機材の撤収。

11月 2日 室内で図面整理・遺物洗浄・注記作業を行う。

平成23年度(2011)

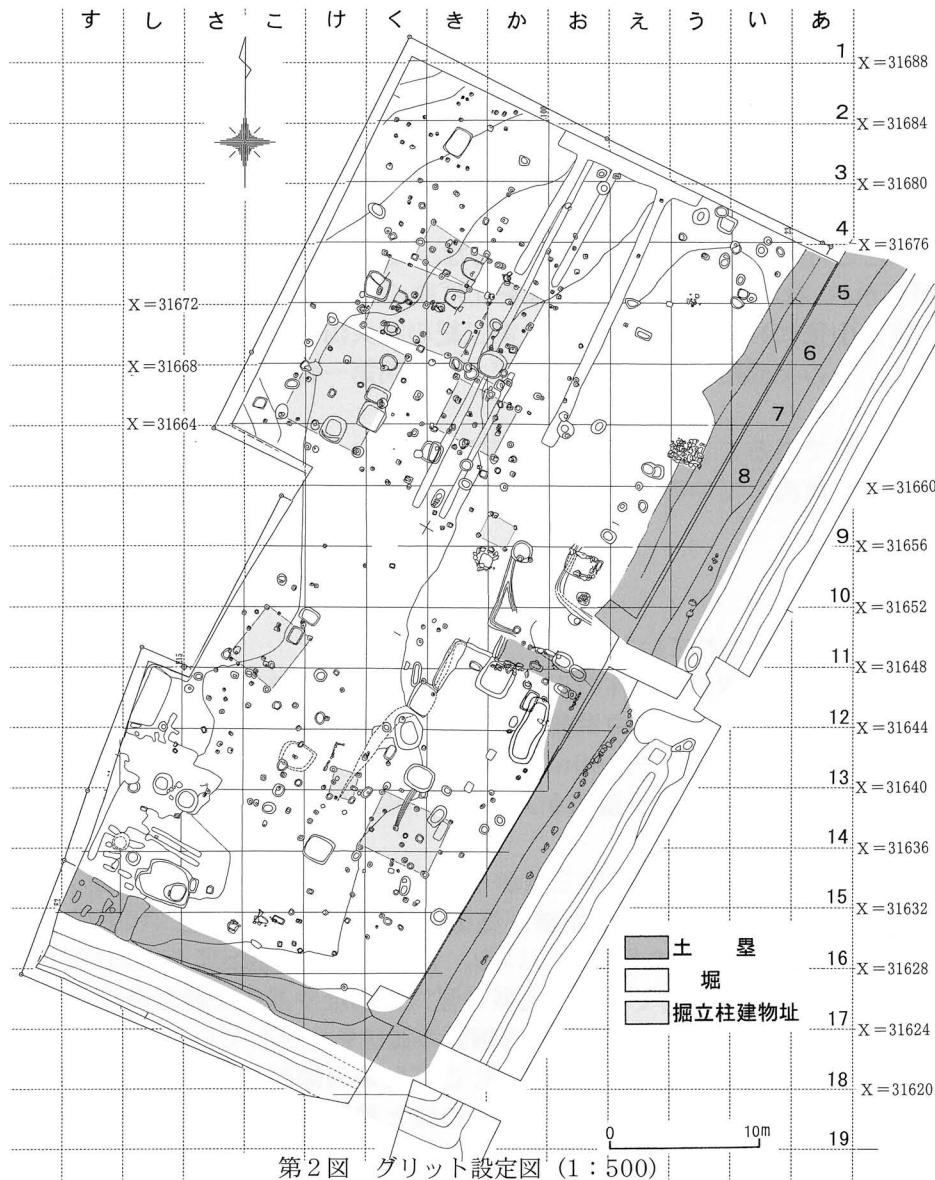
12月～2月 図面修正、遺物実測、トレース、遺物写真撮影、
報告書版下作成、編集・執筆。

3月 報告書刊行。

第4節 調査の概要

主郭の南東部の調査で、南東を堀と土塁が方形に囲んでいたことが確認された。土塁の上面は削平され、基底部にわずかな痕跡を残すのみである。東側の土塁は底幅5m、南側の土塁は底幅3mほどを測ると推定される。

館の入りである虎口について、推測を含むものの明らかにすることができた。白岩城跡Iの調査では、調査区の東中央で堀が切れて、土橋が検出されており、今回の調査では土橋のところから続



第2図 グリッド設定図 (1:500)

く土壘が西に折れて4mほど続き、さらに直角に曲がり北に折れた痕跡がみられた。

建物は掘立柱建物址が中心で、北西と南中央にまとまっている。竪穴状遺構は少なく、工房的なものはみられない。

遺物では瀬戸大窯製品の小皿、かわらけ、内耳鍋、鉄鏃や刀の金具がある。石製品では砥石、茶臼、粉挽臼などが出土している。

遺物の年代は15C末～16Cに該当する資料であり、また刀の金具や鉄鏃など武器関連の遺物があり、平尾氏が15C中頃に佐久平尾の地に土着し、16C末に藤岡に移動した伝承や史実とあうことが明らかになった。

17C代の瀬戸美濃製品もあり、江戸時代初めにも一部は営みが継続したものとみられる。



第3図 発掘区設定図 (1:2,000)

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 自然環境

本調査地点は佐久市の北部、浅間山麓裾野にあたり、千曲川支流の湯川に臨む台地上にある。湯川は浅間山の東裾から流出して南流、岩村田で西に方向を変える。御代田・岩村田地域では河岸段丘を二段にわたって形成し、いたるところで極端な蛇行曲流の河川となっている。

白岩城の東1kmには山城が築かれ、秋葉山に平尾城、尾根を北にゆくと白山砦、そこから東に向かうと烽火台址といわれる平尾富士山頂にいたる。平尾富士は第三紀の死火山といわれている。白岩城跡は平尾富士の裾を巻くように、その上部に浅間火山噴出物である浅間第一軽石流（P1）が厚く堆積しているところである。

本遺跡は湯川の第二河岸段丘の縁であることから第一軽石流は浸食され、西は断崖となり、低い河岸段丘面があり、さらに下を湯川が南流している。蛇行する湯川が屈曲し城郭の三方を囲んでおり、天然の要害となっている地点である。

第2節 歴史的環境

本調査地点は、原始・古代の遺構は確認されていない。

岩村田を中心とした中世遺跡群では、初頭の根々井の正法寺がある根井氏館跡は木曾義仲に従った根井行親の館とされ県の史跡となっている。次いで中世前半の遺跡では、佐久市中央図書館の南、野馬窪遺跡Ⅱ・Ⅲは二重の溝で囲まれ、外側の溝は一辺90m以上の「一丁四方」を測る館がある。掘立柱建物を中心として、竪穴状遺構・井戸などの中世遺構があり、遺物は12C後半～14C前半代の陶磁器・土器・刀を出土している。

岩村田市街の東にあって湯川の断崖に望む大井城跡は三城からなり、4.王城は中世佐久の北の領主であった大井氏の居城とされている。その南の5.黒岩城跡が発掘調査され、54棟の竪穴状遺構・掘立柱建物址・土坑などからは15・16世紀の遺物を出土している。大井城跡の400mほど南の13.下信濃石遺跡では、大井氏の氏寺である龍雲寺伝承地であり、大型の竪穴建物址や基壇を持ち石積で囲み整地をした平場、そして遺物は14～15C代の古瀬戸の水滴や青銅製の鏡片を出土している。

岩村田市街地の南にある観音堂遺跡は観音堂を取り巻く町屋、こども未来館のある柳堂遺跡は掘立柱建物と苑池、それらを囲む溝やかかわらけ溜まりがあり、有力者の館と推測される。岩村田市街の南西にある北一本柳遺跡Ⅲでは、漆刷毛や漆製品が竪穴建物址から出土し、漆の工房址が調査されている。

新幹線佐久平駅北西1kmの長土呂の周防畑遺跡群の堂常遺跡の中世の遺構は、竪穴状遺構と井戸で構成される。岩村田市街の北にある10.栗毛坂遺跡群B区（高速道路地点）では100m四方の溝により区画され、中に馬屋であろう竪穴状遺構があり、武士化した農民の館と推測されている。浅間中学校の旧校庭の南側からは中世の水田址が調査され、五輪塔を転用して尻水口に利用している。小田井の前藤部遺跡では中世の集落全容が調査されている。

江戸の歴史書『四隣譚藪』に「国府にまされり」とは大井氏の城下町の賑わいを語っている。岩村田を基点としたこれらの中世遺跡群は大井氏の活躍した時代と一致しており多彩な遺構群である。

本調査である白岩城跡はその岩村田を中心に佐久の中世の覇者である大井氏の幕下、5代にわたって仕えた平尾氏の根拠地とされている。

『佐久市志』中世編P590「平尾氏館と平尾城」によれば、

「白岩城は「しらいわ」と呼称され、古城または里古城と呼んでいる地域は、現平根小学校の裏一帯であるが、南は「うとう坂」の堀切におよんでいる。平尾氏の居館とされ、白色城・平尾屋敷城と呼んでいる記録もある。

小県郡依田に根拠を置く依田氏は、宝徳・享徳年間（1449－1454）佐久の大井持光に連年攻めら

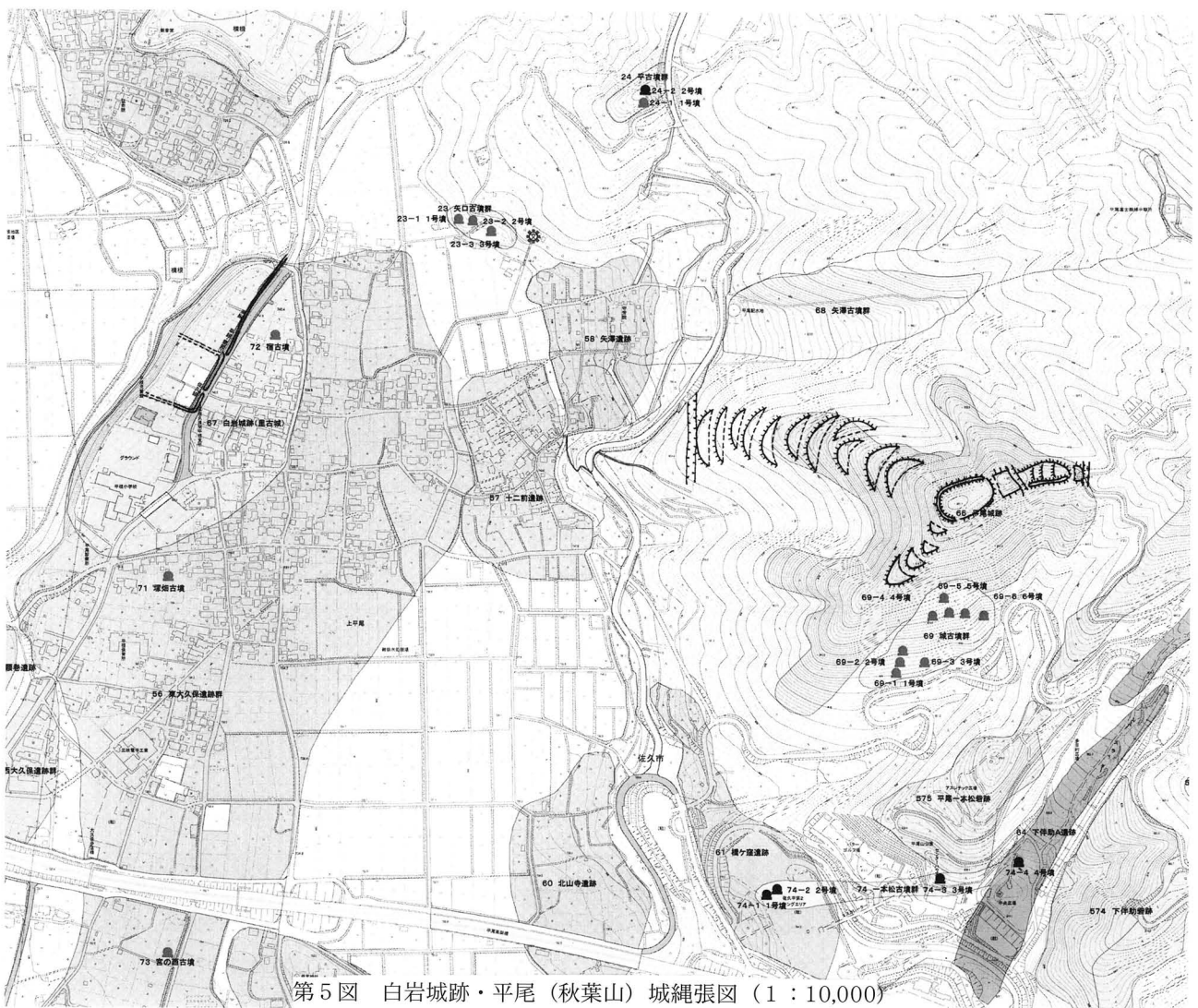


第4図 周辺遺跡分布図 (1 : 20,000)

れ、ついにその幕下となり、修理亮為泰は平尾に居を移して、平尾氏を称した。天正18年（1590）小諸城主依田（松平）康勝が、藤岡に転封になるにおよんで、平尾守芳がこれに従って平尾の地をさる。その間戦火にあうことはなかった。応仁の乱の始まる直前の永正年中（1504～20）1.1km東にある、平尾（秋葉山）頂に山城を、白山に一郭、平尾富士山頂（1,155m）には五郭と堀切りを構築した砦がある。」と記述している。

発掘調査では、昭和63年に県道草越・豊昇・佐久線の道路改良の拡幅工事に伴い、南北の堀と虎口と思われる土橋とピットが検出されている。

平尾（秋葉山）城の南西の裾野の3.北山寺遺跡（1991『上信越自動車道2』P352）は、高速道路の建設に際して調査された。掘立柱建物址1棟、竪穴建物址6棟、土坑50基、火葬墓一基を検出し、出土した銭・内耳鍋からは15C中頃～16C前半と推測され、内側石列を巡らせた竪穴状遺構内からは太刀金具が出土し、武士との関連を示すとしている。この一郭も平尾氏に関連するのであろう。出土遺物の年代が、白岩城跡より古く、小県郡から平尾に定着した頃の年代である。



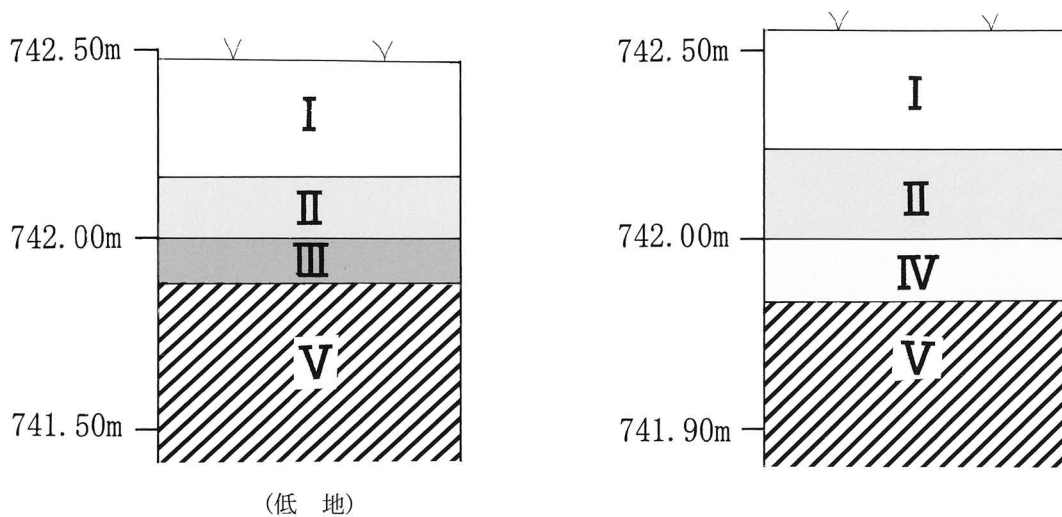
第三章 基本層序

第Ⅱ章遺跡の環境で述べたように、本遺跡は湯川の左岸の上段の河岸段丘上にある。湯川は浅間山の東裾から流出して南流、南軽井沢地域からの泥川と合流して、西に向きを変え、御代田・岩村田地域では、地殻変動の隆起運動の影響から下刻作用顕著な河岸段丘を二段に渡って形成し、しかもいたるところで、極端な蛇行曲流の河川となっている。

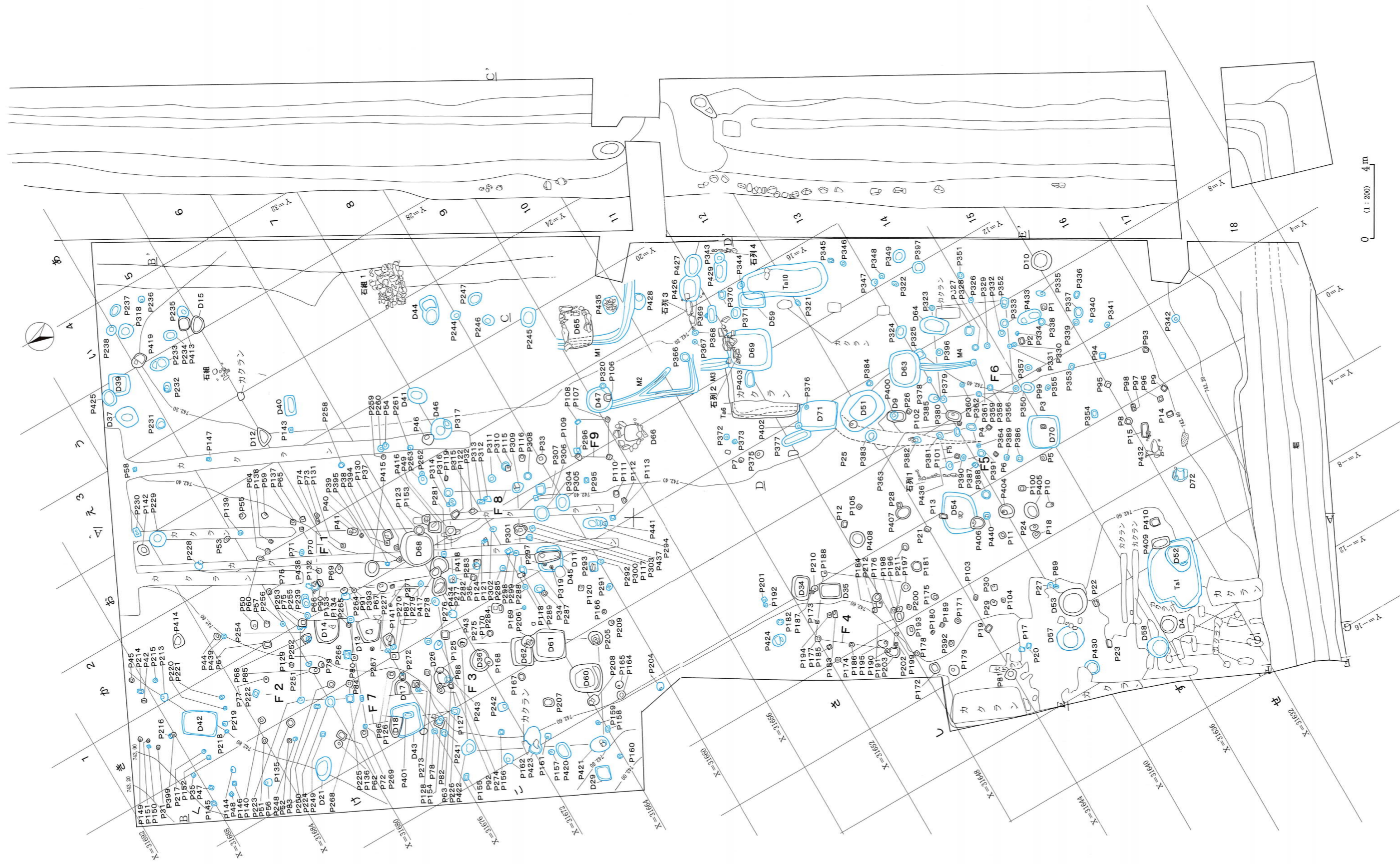
この付近の地層はすべて浅間火山の噴出物によって構成される。2回の軽石流の噴出は、最初の噴出物を第一軽石流（1万3千年前）、後から噴出したものを第二軽石流という。浅間山南麓に、広く展開した軽石流は、塚原泥流の地域に達すると、西と南に分かれ、南にむかった軽石流は湯川の谷を埋めた。（1988.『佐久市志 自然編』P83、1986白倉盛男『大井城跡』）

本遺跡の基盤は第一軽石流が地盤である。その上面には漸移層、低地には黒色土が堆積しており、調査地点には整地層がみられた。整地層は炭化物・ロームブロックを含み、人為的に埋土されている。

- I層 黒褐色土層（耕作土）
- II層 黒褐色土層（10YR2/3）整地層。
ロームブロック・黒褐色土ブロック・炭化物・ローム粒子・パミスを含む。
- III層 暗褐色土層（10YR3/3）整地層。ロームブロック・炭化物・ローム粒子・パミスを含む。
- IV層 黒褐色土層（10YR2/2）地山層。わずかにローム粒子・パミスを含む。
- V層 暗褐色土層（10YR3/4）漸移層。ローム粒子・パミスを含む。
- VI層 黄褐色土層（10YR5/6）第一軽石流



第6図 基本層序模式図



第7図 白岩城跡Ⅲ全体図

第IV章 遺構と遺物

第1節 遺構

1. 掘立柱建物址

掘立柱建物址は調査時点では単独ピットとして記録されており、報告書作成時に組んでいる。8棟を抽出し、同じ棟の柱穴の検出面が上・下にわたるものは、上面にあげて断面図を作成している。F2・F5・F6は下面である。

(1) F1号掘立柱建物址

か5グリッドにあり、検出ピットは2間×1間、6.4m×3.2mを測る南北棟である。柱穴に礎石のあるP66・P434・P416・P130でピット形が方形基調の比較的浅い掘り込みに石を置いている。これらの柱間は桁行3.2m梁間2.4mを測り、中間に柱がない。浅い遺構であるため、検出時に削平されたためか、明確な建物としては成り立たない可能性があるが、しかし、何らかの建物は想定したい。

(2) F2号掘立柱建物址

か5グリッドにあり、下面で検出された。2間×1間、4.0m×2.48mを測る東西棟である。側柱で方形と円形のピット形で構成される。

付近にピットが多く、他にも建物址があるようである。

(3) F3号掘立柱建物址

く6グリッドにあり、3間×2間で、7.2m×5.6mを測る。柱穴の底面に扁平な石を置いて、礎石とするものがP275・P423・P421・P205・P206の5個ある。総柱としたが、中央列は西に寄っており、P242・P156・P162・P157・P159・P208で2間×2間、4.96m×2.64mに組むことができる。

(4) F4号掘立柱建物址

け11グリッドにあり、2間×2間の東西棟で、4.12m×3.6mを測る。柱穴は整った位置にはない。

(5) F5号掘立柱建物址

け13グリッドにあり、下面で検出された。1間×1間で、1.8m×1.6mを測る。柱穴の深さが西側のみ深く異なる。桁行の中間にP363・P390があり、2間×1間ともいえる。

(6) F6号掘立柱建物址

き14グリッドにあり、下面で検出された。2間×2間の総柱である。4.8m×3.88mを測り、桁行柱間2.4m梁間柱間1.94mである。

(7) F7号掘立柱建物址

か5グリッドにあり、3間×2間+縁の総柱で、東に縁側が付く。桁行7.4m、梁間2.4mを測る。検出面が異なることから上面で断面図を作成している。柱穴はほぼ同一地点に2個あり、立て替えがなされたようである。

(8) F8号掘立柱建物址

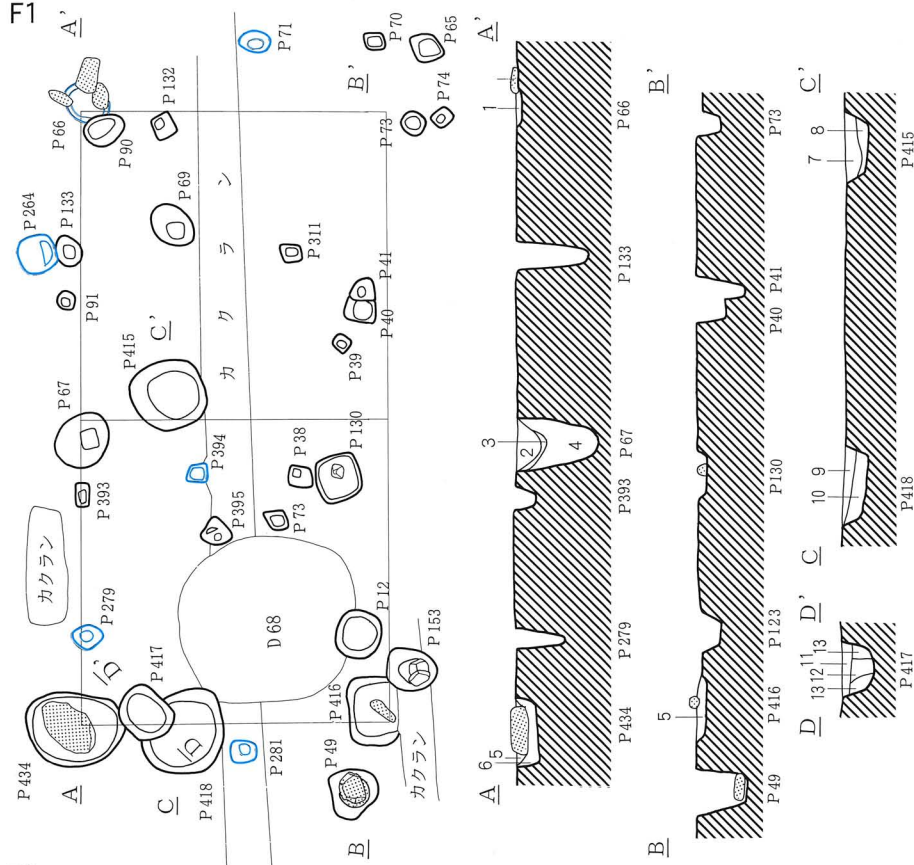
か7グリッドにあり、2間×1間の側柱で、4.4m×3.6mを測る。ピットの底に礎石を置くピットP49・P282・P287・P309があり、P49・P282・P287は平面形が方形を呈す。煩雑になるので省いたが梁間の間に内周して小ピットがあり（全体図参照）、間数は増えるかも知れない。上面と下面で検出され上面にあわせて断面図を作成している。

(9) F9号掘立柱建物址（全体図参照）

か9グリッドにあって、P108・P109・P110・P107が1間×1間の1.96×1.6mを測る。南に接して石組みを伴うD66号土坑がある。

柱穴はいずれも浅く6～28cmを測る。

F1

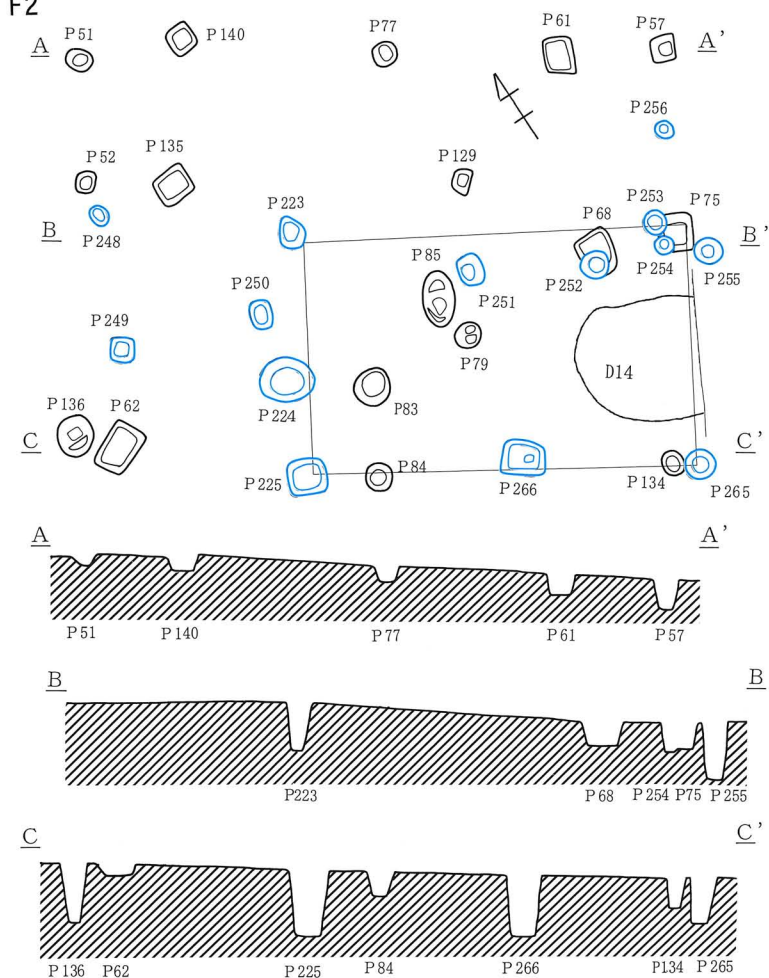


F1 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
パミスを多量に含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4)
パミス、ロームを多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
ロームブロックを含む。
4. 褐色土層 (10YR4/4)
ローム主体。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3)
ロームブロックを多量に含む。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2)
締まり強い。
7. 褐色土層 (10YR4/6)
ロームブロック、パミスを多量に含む。
8. 黒褐色土層 (10YR2/2)
パミス少量混入。
9. 褐色土層 (10YR4/4)
パミス、ローム粒子を含む。
10. 黒褐色土層 (10YR2/3)
パミス、ローム粒子を少し含む。
11. 褐色土層 (10YR4/4)
ローム、シルト粒混入。
12. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山ブロック混入。
13. 黒褐色土層 (10YR2/3)

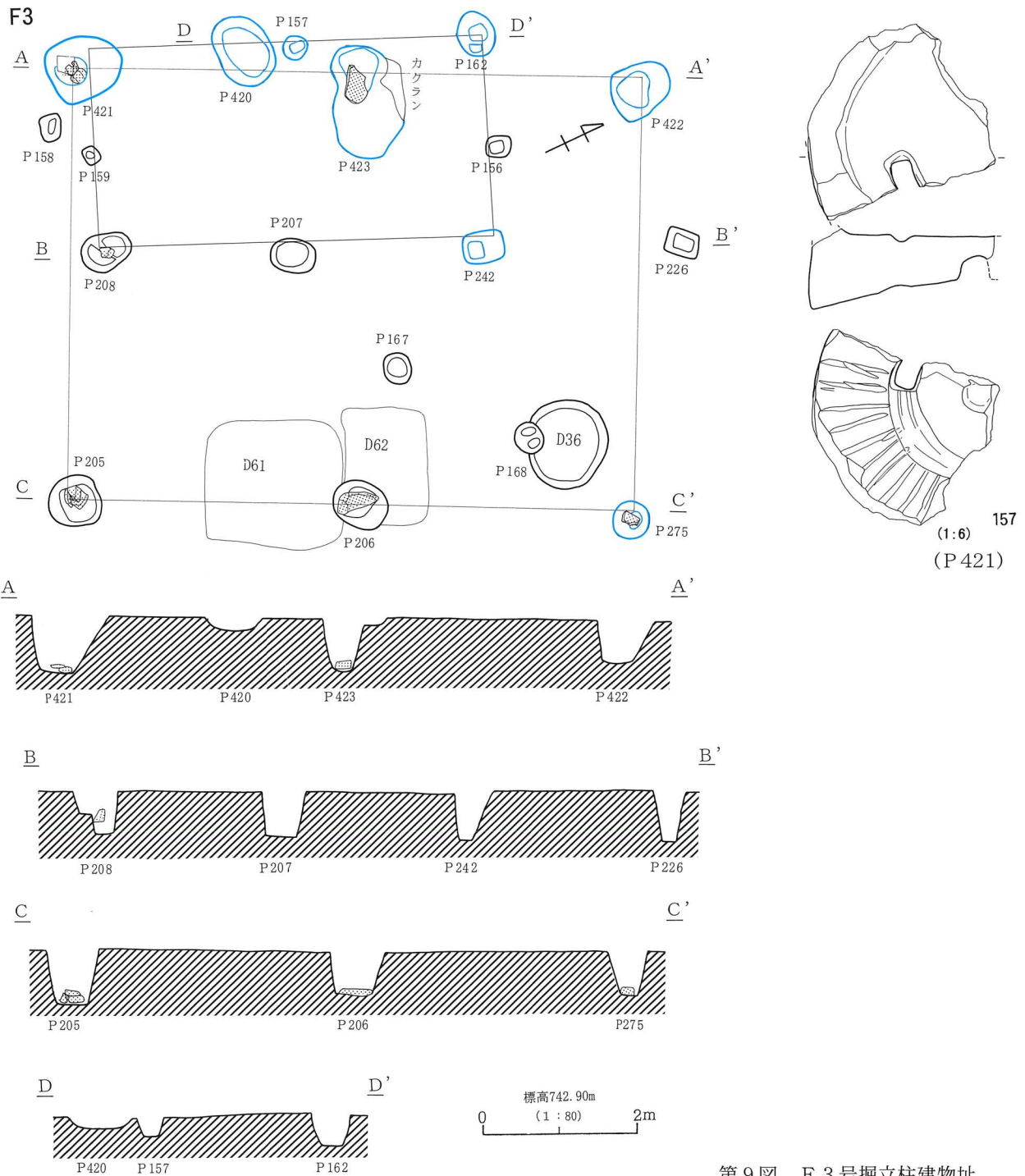
標高742.70m
(1 : 80)
0 2m

F2



標高742.90m
(1 : 80)
0 2m

第8図 F1・F2号掘立柱建物址



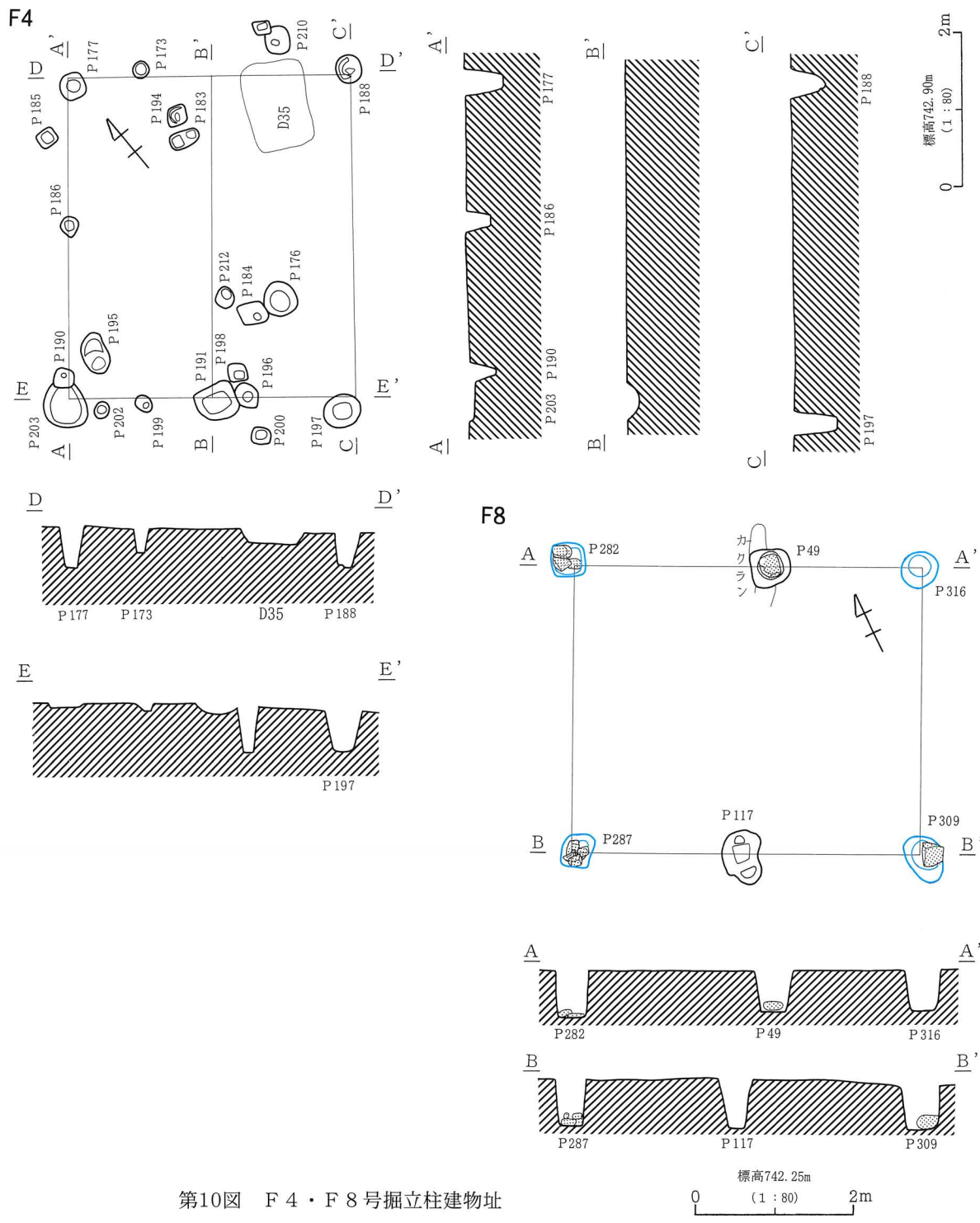
第9図 F3号掘立柱建物址

2. 竪穴状遺構

竪穴状遺構は3棟と数が少なく、柱穴や、火床を持つものは検出されていない。

(1) T a 1 竪穴状遺構

し15グリッドにあり、長軸3.36m、短軸2.46mを測り、南西に張り出しを持つ隅丸長方形を呈し、深さは最大で25cmを測る。D52と重複するが伴うものか新旧については不明である。底面は平坦である。



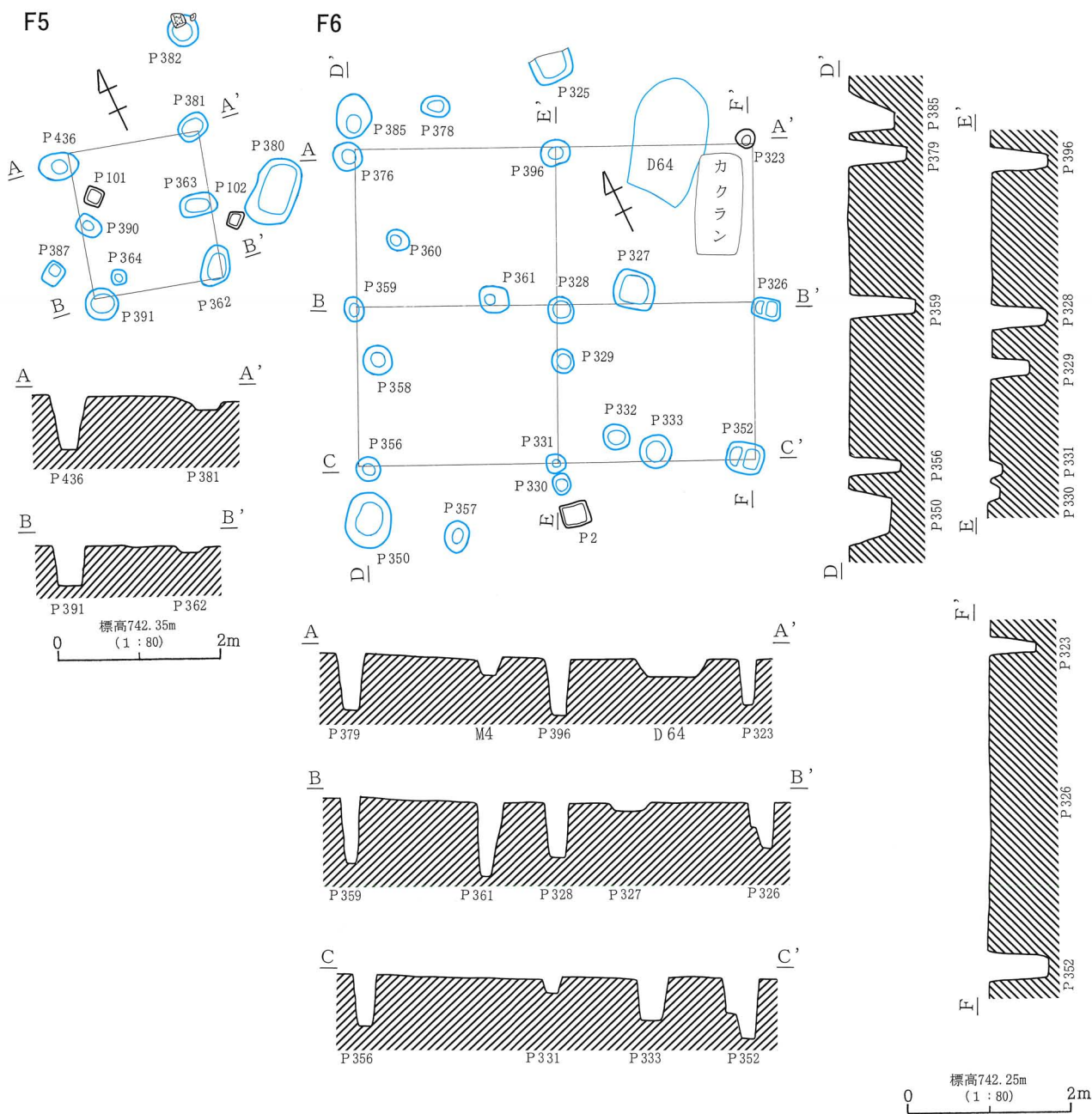
第10図 F4・F8号掘立柱建物址

(2) Ta6 竪穴状遺構

き11グリッドにあり、東は攪乱（トレンチ）に切られて不明である。長軸3.37mを測り、長細い長方形を呈す。

(3) Ta10 竪穴状遺構

お12グリッドにあり、長軸3.96m短軸1.2mを測り、不整形な長方形を呈す。土塁の脇にあり、断面は船底形を呈す。



第11図 F5・F6号掘立柱建物址

3. 土坑

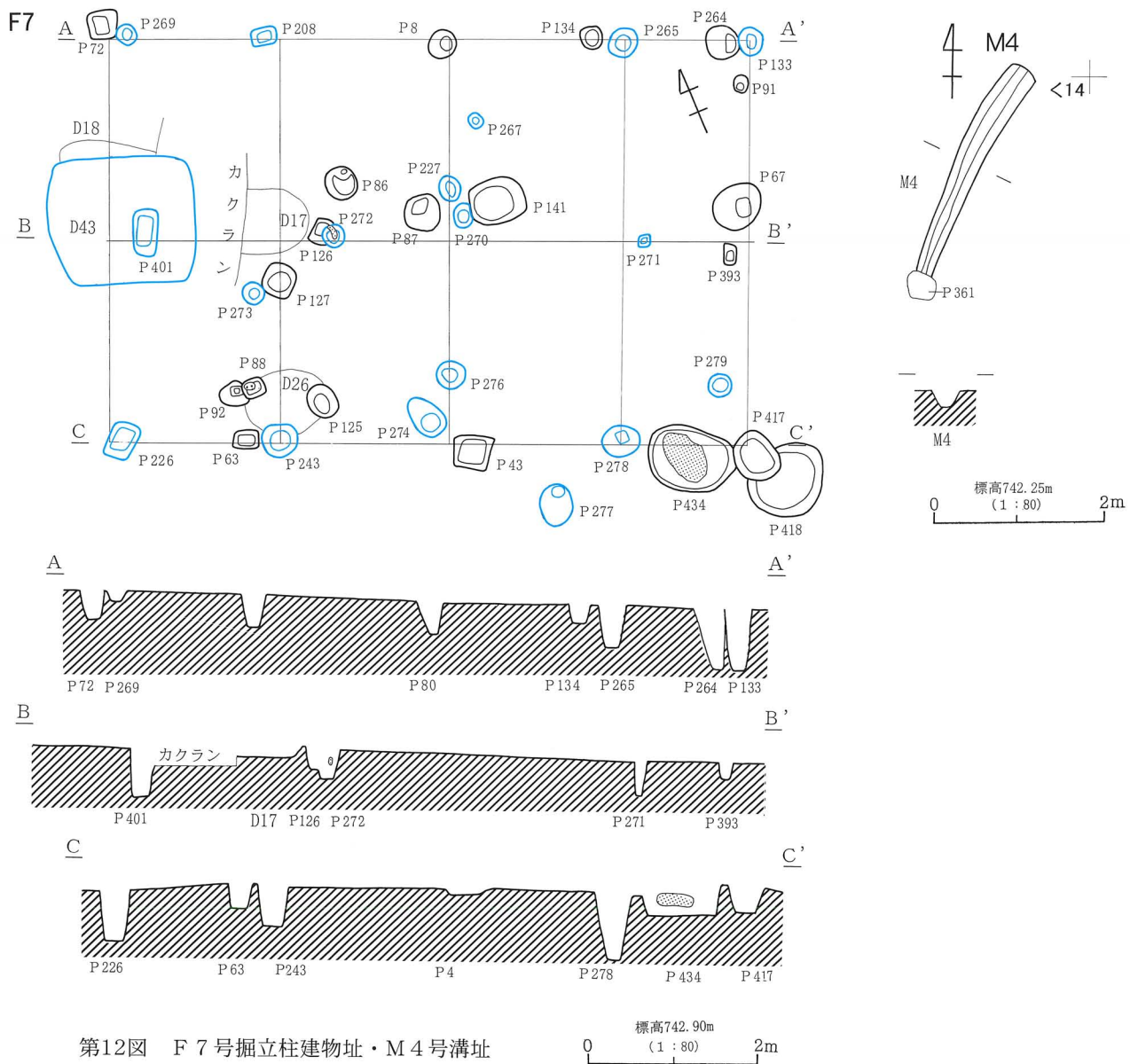
土坑は45基調査した。規模・形態で分類し、その中で形態等で特徴のある土坑について述べる。

(1) 方形を呈し、長軸180cm前後の規模の土坑

D43・D54・D61・D63・D68・D69・D70は 竪穴状遺構と同様平坦な底面を持ち、内耳鍋片・かわらけなどの中世遺物を出土する。

☆D54号土坑 (I B4)

こ13にあり、長軸5.12m短軸1.8m深さ59cmのやや歪んだ長方形を呈し、P13・P406に切られる。出土遺物には五輪塔の水輪、軽石製品、内耳鍋、青銅製の刀柄縁、鉄製の角軸が出土している。柄縁の刃幅は3.4cm厚さ1.2cmを測る。



第12図 F 7号掘立柱建物址・M 4号溝址

★D61号土坑 (IB4)

く7グリッドにあり、長軸1.74m短軸1.62m深さ0.69mを測るほぼ方形の土坑である。F 3号掘立柱址 (P 206) に切れ、D61と接している。播鉢、かわらけ、内耳鍋、須恵器の杯片を出土する。近世の遺物を混入する。

(2) 長方形または楕円形で中規模の土坑

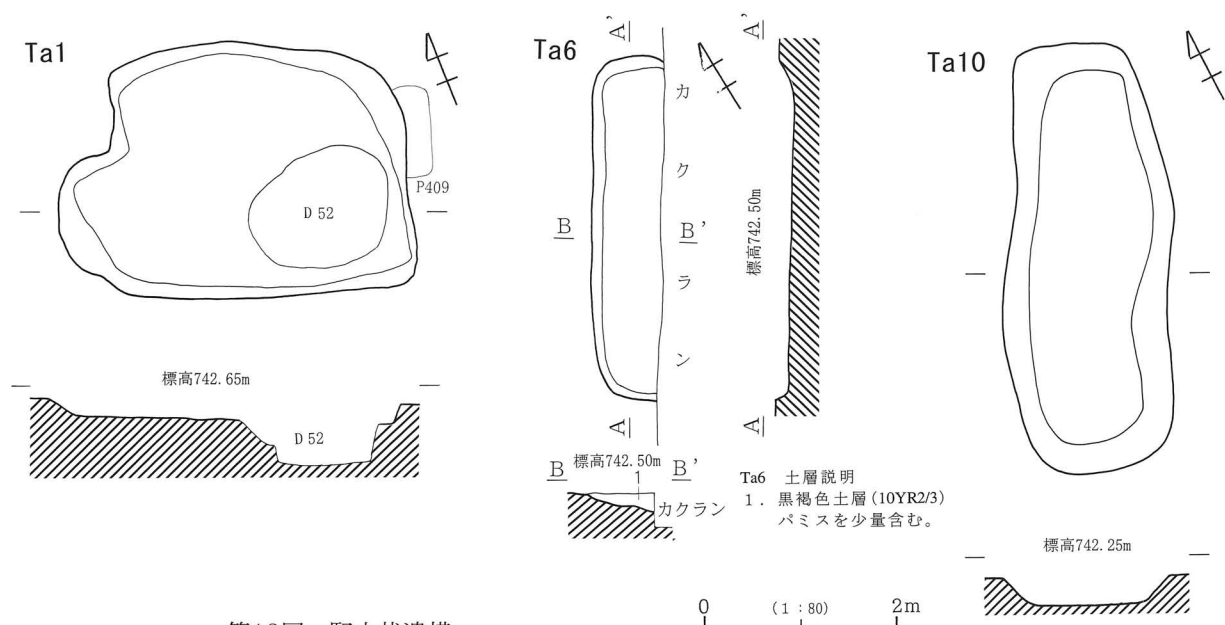
長方形ないし楕円形を呈し、比較的規模が大きく、底面が船底状である。

★D11号土坑 (IC3)

き8グリッドにあり、長軸1.36m短軸0.58m深さ0.28mを測り、長方形を呈す。内耳鍋ほぼ1個体を出土し、火熱を受けた石と砥石を出土している。ただし、土坑の覆土に炭化物・焼土がみられないことから、焼成坑ではないようである。

★D51号土坑 (IB4)

く12グリッドにあり、楕円ないし隅丸長方形で長軸2.48m短軸1.80m深さ0.76mを測り、底面は船底状である。かわらけ・火鉢を出土する。



第13図 竪穴状遺構

☆D65号土坑 (I B 4)

お10グリッドにあり、土坑内側の縁に石組を持つ土坑で、長軸2.16m短軸1.56m深さ0.82mを測る。青磁碗、周辺からであるが、外面に金メッキの管状の青銅製品、角釘が出土している。西端で幅50cmほどの溝M 1と重複している。底面は片側が落ち込んでいる。

(3) 小型の円形・楕円形土坑

やや不整な楕円形で、長軸で1m前後を測り、深さを持たず浅く、底面が船底状の土坑。内耳鍋を出土する土坑が多い。焼成坑などが推測される。

☆12号土坑 (II B 3)

え5グリッドにあり、長軸0.94m短軸0.76m深さ0.24mを測り、内耳片を出土する

☆D15号土坑 (II B 3)

い5グリッドにあり、長軸1.0m短軸0.62m深さ0.17mを測り、内耳鍋片を出土する。

☆D21号土坑 (II B 3)

く4グリッドにあり、長軸1.28m短軸0.88m深さ0.25mを測る。覆土に焼土ブロック・炭化物を多く含んでいる。

☆D37号土坑 (II A 3)

う4グリッドにあり、長軸1.1m短軸1.04m深さ0.25mを測る。内耳鍋片を出土する。

☆D44号土坑 (III)

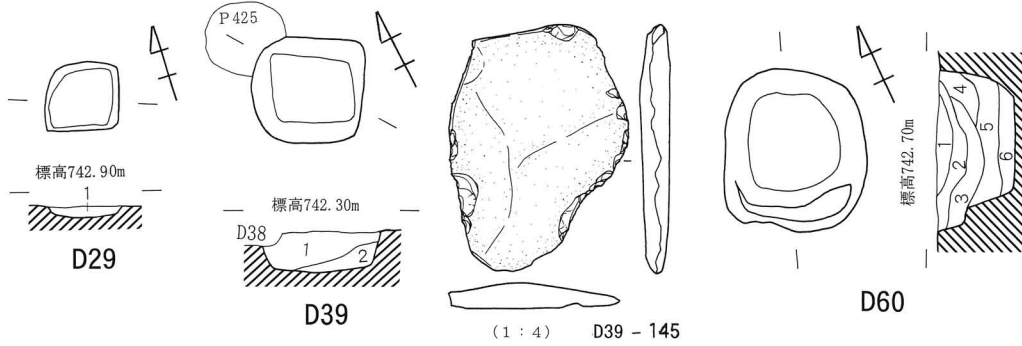
え8グリッドにあり、長軸1.48m短軸0.88m深さ0.41mを測り、楕円形に浅い方形部が接続している。底面に炭化物を多量に含む。出土遺物には内耳鍋片と磨石がある。

☆D66号土坑 (II B 4)

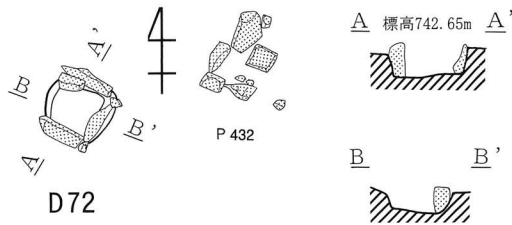
か10グリッドにあり、土坑の上面で石が方形に組まれ、内周で1.2×0.9mを測る。堀方は楕円形で長軸2.12m短軸1.88m深さ0.42mを測る。

(4) 小型の方形土坑

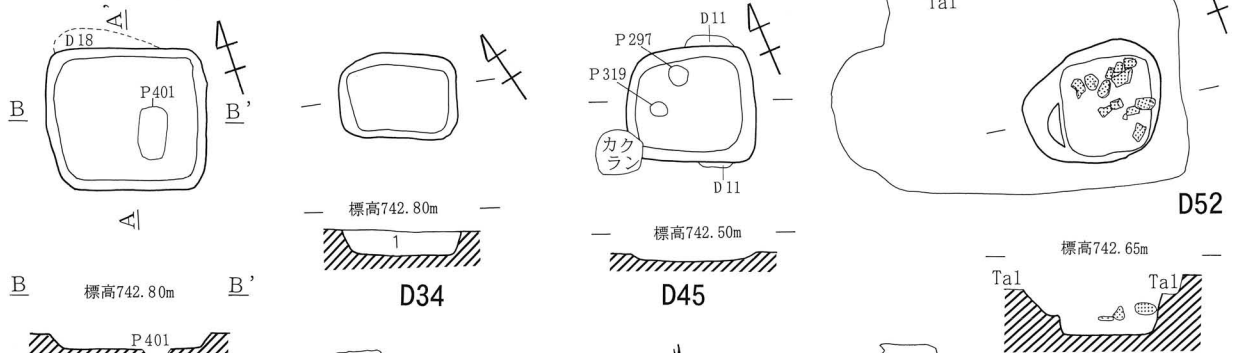
I A 2 (方形 60~90 cm) ・ I A 3 (方形 90~170 cm)



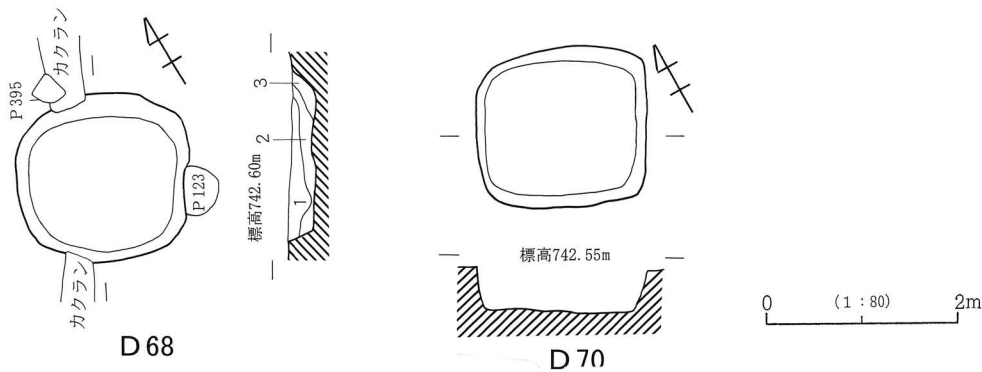
- D29 土層説明
1. 褐色土層 (10YR4/4)
ローム、黒褐色土ブロック混入。
- D34 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
ローム粒子、パミス少量含む。
- D39 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
ロームブロックがマーブル状に混入。
2. 褐色土層 (10YR4/4)
ロームブロック、パミス混入。



I B 3 (やや長方形 長軸 90~170cm)



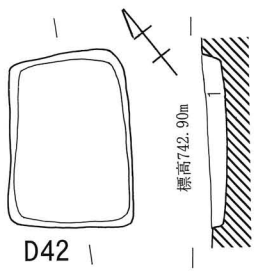
- D60 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
パミスを含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
ロームブロック多く混入。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
ロームブロック多く混入。
4. 黒褐色土層 (10YR4/4)
地山ローム、多量に混入。
5. 暗褐色土層 (10YR3/4)
ローム粒子、パミス多く混入。
6. 褐色土層 (10YR4/4)
ローム、パミス多く混入。



- D68 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
パミス、ローム微量に含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
ロームを少量を含む。縮まりあり。
3. 暗褐色土層 (10YR3/4)
ローム多く混入。(崩壊か)

第14図 土坑 (1)

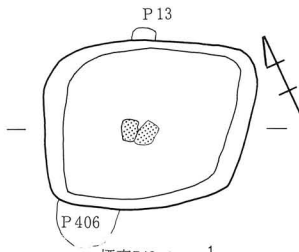
I B 4 (やや長方形・長軸/短軸1~1.5・規模(長軸) 4(170~250cm))



D42

D42 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/4) パミス・、ローム粒子が多く混入。



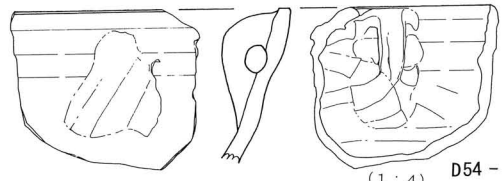
D54

D54 土層説明

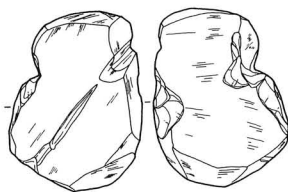
1. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロックを多量に混入。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック混入。
3. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体、上層に黒褐色土ブロック少量混入。



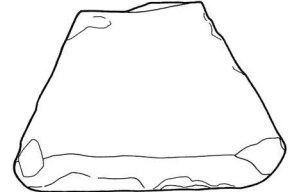
D54-60 (1:2)



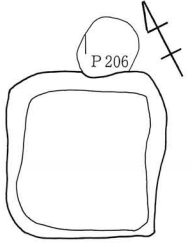
D54-39 (1:4)



D54-133 (1:4)



D54-152 (1:6)



D61



D61 土層説明

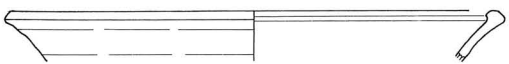
1. 暗褐色土層 (10YR3/3) パミス、ローム粒子を少量含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) パミス、ロームブロック、多量に混入。
3. 褐色土層 (10YR4/4) パミス、ロームブロック、ローム粒子多量に混入。
4. 褐色土層 (10YR4/6) 地山ローム多量に混入。(崩壊層)



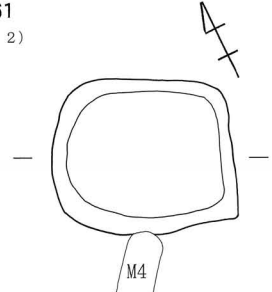
D61-45



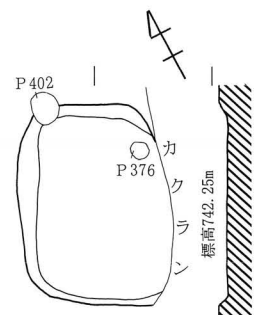
D61-46



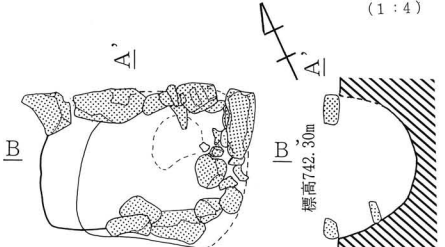
D61-24 (1:4)



D63



D71



D65



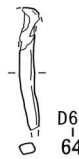
D65-86 (1:2)



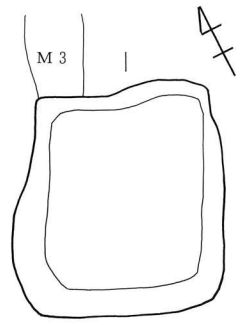
D65-1 (1:4)



D65-63 (1:2)



D65-64 (1:2)



D69

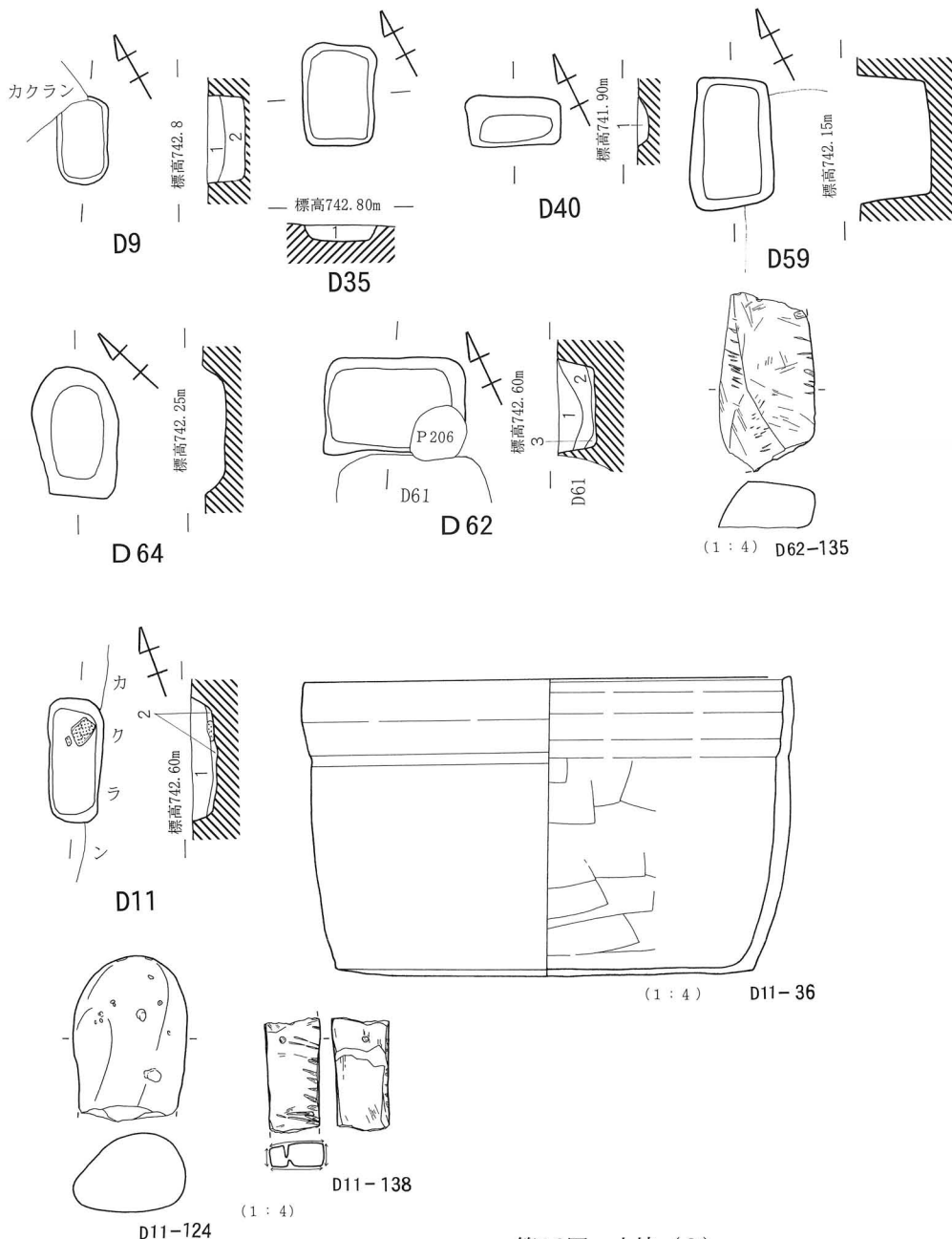


742.25m

0 (1:80) 2m

第15図 土坑 (2)

I C 3 (長方形・長軸/短軸1.5~2・規模(長軸) 3(90~170cm))



- D9 土層説明
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) パミス、ロームブロック多く混入。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) パミス、ロームブロックを含む。
- D11 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3) パミス、ロームブロック多く混入。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロックを少し含む。

- D35 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロックを少量含む。

- D40 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) パミスを微量に含む。

- D61 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3) パミス、ローム粒子を少量含む。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) パミス、ロームブロック、多量に混入。
 3. 褐色土層 (10YR4/4) パミス、ロームブロック、ローム粒子 多量に混入。
 4. 褐色土層 (10YR4/6) 地山ローム多量に混入。(崩壊層)

- D62 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3) パミス、ローム粒子を少量含む。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロックを多く含む。
 3. 褐色土層 (10YR4/6) ローム粒子多く混入。

0 (1:80) 2m

第16図 土坑 (3)

☆D72号土坑

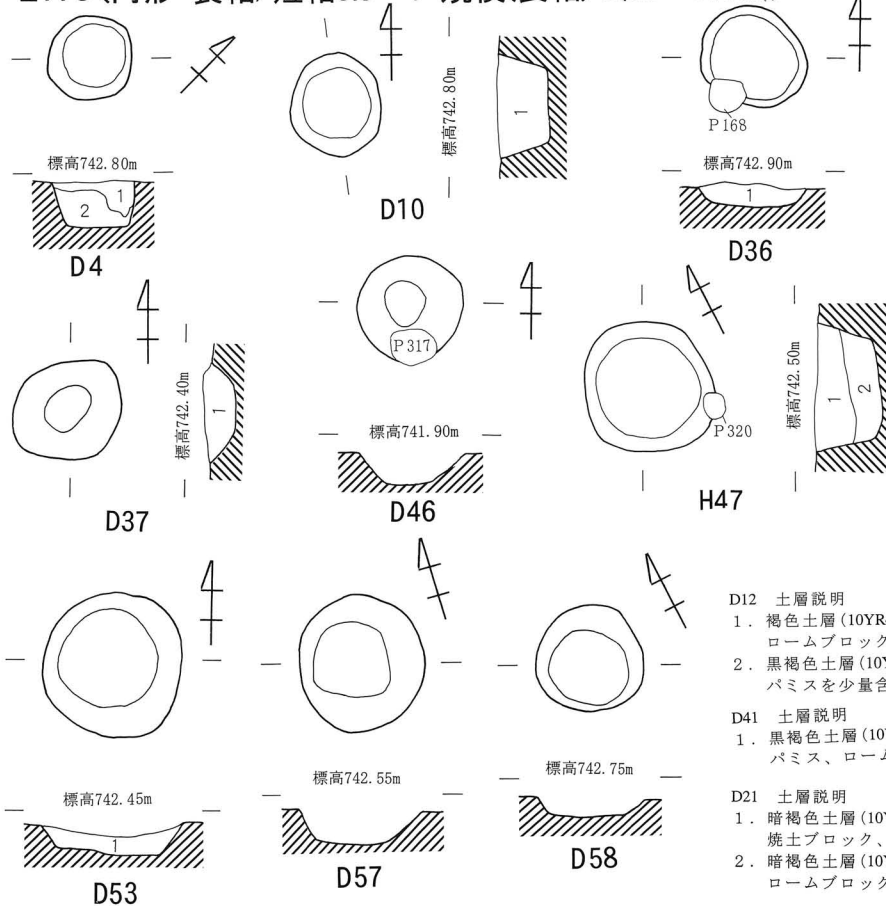
さ10グリッドにあり、西壁を除いてコの字に石が組まれている。規模は長軸0.81m短軸0.67m深さ0.3m、石の内面では幅0.64mを測る。隣接してP 432の同様の石組がある。堀方不明。

(5) 石敷遺構

☆石組 1

う8グリッドにあり、約長軸2.32m短軸2.12mの長方形範囲に礫が平坦に並ぶ。南端は列状に整えている。堀方がないので土坑としなかった。

II A 3 (円形・長軸/短軸0.9~1・規模(長軸) 3(90~170cm))



D4 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 ローム粒子、焼土ブロック、炭化物を含む。
 2. 褐色土層 (10YR4/6)
 ロームブロック、パミス混入。

D10 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 パミス、ロームブロックを少量含む。

D36 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 ロームブロックを少量含む。

D37 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 パミスを微量に含む。

D47 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 パミス、ローム粒子を多く含む。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/4)
 ローム粒子が大理石状に多く混入。

D53 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 ロームブロック多く混入。

D12 土層説明
 1. 褐色土層 (10YR4/6)
 ロームブロック、パミス混入。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 パミスを少量含む。

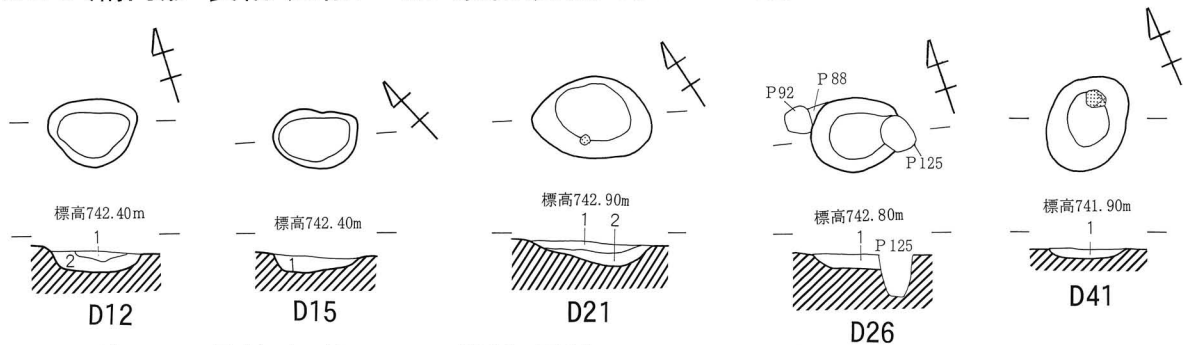
D15 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/4)
 パミスを微量に含む。

D41 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 パミス、ローム粒子を少量含む。

D26 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 砂質。締まりなし。

D21 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/4)
 焼土ブロック、炭化物を多く含む。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 ロームブロック混入。

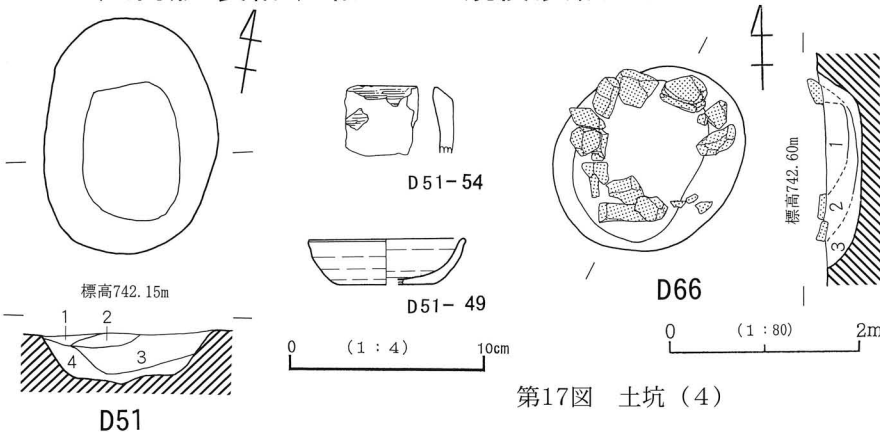
II B 3 (楕円形・長軸/短軸1~1.5・規模(長軸) 3(90~170cm))



D51 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 ロームブロック多く混入。
 2. 褐色土層 (10YR4/6)
 ローム主体。パミスを多く含む。
 3. 暗褐色土層 (10YR3/4)
 ローム粒子、ロームブロック多量。
 パミス少し混入。
 4. 褐色土層 (10YR4/6)
 ローム主体。崩壊層か。

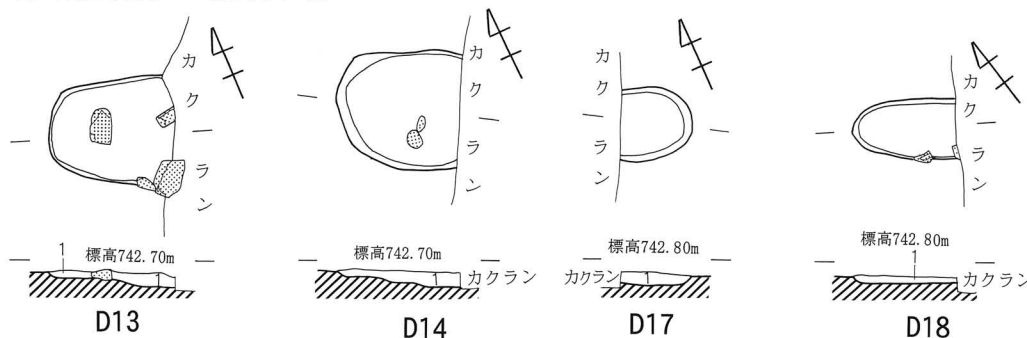
D66 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 パミス含む。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 パミス、ロームブロックわずかに含む。
 3. 褐色土層 (10YR4/6)
 ローム多量に混入。

II B 4 (楕円形・長軸/短軸1~1.5・規模(長軸) 4(170~250cm))



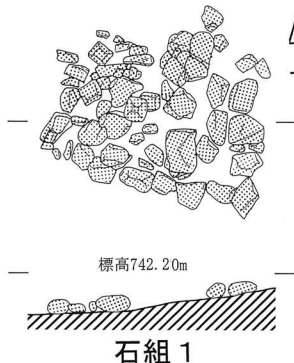
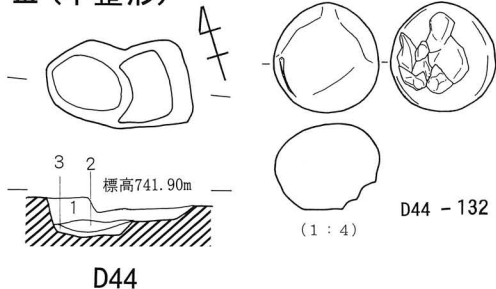
第17図 土坑 (4)

II (楕円形) ・規模不明



- D13 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
黒色土ブロック混入。
- D14 土層説明
1. 褐色土層 (10YR4/4)
パミスを少量含む。
- D17 土層説明
1. 褐色土層 (10YR4/6)
パミスを多く含む。
締まりあり。
- D18 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
パミスを含む。
締まりあり。

III (不整形)



- D44 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
パミスを少量含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
パミス、ロームブロックを少量含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
パミス、ロームブロック、炭化物を
多量に含む。

第18図 土坑 (5)

4. 単独ピット (全体図参照)

(1) 柵列

お〜き3・5・8・9グリッドにありP228・P60・P71・P131・P38・P302・P303・P441は2.16m間隔ほどで南北に直線になっており、柵列とされようか。その西側に掘立柱建物・土坑・ピットが集中している。

(2) ピット群

ピットの集中箇所は大きくは数カ所にある。調査区の北東のあいう4・5グリッドあたりには小型の土坑と、大きいピットが集中している。内耳鍋片が多く出土している。

北西隅には一辺20cm前後の小型の方形ピットが等高線と平行して並んでいる。

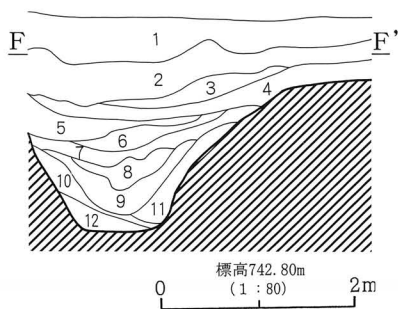
お〜く4〜10グリッドは掘立柱建物とピット、土坑が最も多い。建物が集中していたのであろう。

南側はき〜こ13〜16グリッド、こ〜さ11〜13グリッドに単独ピットが集中している。

5. 南堀と土塁・溝址

調査区の南端には堀が検出された。東西方向に13mを調査し、上幅2.8〜2.88m、深さ1.2〜1.6mを測る。断面逆台形の箱堀で、底面の幅は西に広くなり48〜80cmを測る。

堀を覆っている第3・4層の黒褐色土 (10YR2/3) は炭化物・焼土ブロックを含む。土塁層の崩壊層とみられよう。やや西に寄ったG地点でとらえたセクションには土塁の痕跡がのこり、黒褐色土 (10YR2/3) の黒色土ブロックを含む土の上に、暗褐色土 (10YR3/4) を盛っている様子がわかる。この南堀の北は幅1mのテラスをもち、その内側は3m幅で遺構が検出されず、土塁であったと推測される。



堀 土層説明

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 暗褐色土層 (10YR3/4)
耕作土。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
パミス、炭化物少量含む。 3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
パミス、炭化物、ローム粒子少量含む。 4. 黒褐色土層 (10YR2/3)
パミス、炭化物、ローム粒子、焼土ブロック少量含む。上層に比べやや暗い。 5. 黒褐色土層 (10YR2/3)
パミス、ローム粒子、黒色土ブロック含む。 6. 暗褐色土層 (10YR3/3)
パミス、ローム粒子、黒色土ブロック、炭化物含む。 | <ol style="list-style-type: none"> 7. 暗褐色土層 (10YR3/4)
赤色ロームブロック多く含む。 8. 黒褐色土層 (10YR2/3)
赤色ロームブロック、黒色土ブロック含む。 9. 黒褐色土層 (10YR3/2)
パミス、赤色ロームブロック少量含む。 10. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
地山ロームブロック多く混入。パミス含む。 11. 褐色土層 (10YR4/6)
地山ロームブロック多く混入。 12. 暗褐色土層 (10YR3/3)
上層はローム層状に堆積。 |
|---|---|

第19図 南堀断面図

調査区の東側では削平され、高さはないが土塁の痕跡を残す土層が確認でき、黒褐色土・褐色土・暗褐色土を盛っている。北のCセクション地点で基底幅5.7mを測っている。

第2節 遺物

1. 陶磁器

中世の陶磁器で、舶載品は1の青磁碗と2の白磁皿（15～16C）のみで、他は瀬戸の大窯製品である。灰釉の丸皿が11点、天目茶碗が2点実測された。大窯1の15C末～16C初頭と大窯2の16C前半の産である。これらの大窯製品は遺構に伴うものではなく、調査区の北検出に多く、グリットで見ると北側の東半域に集中するようである。また近世初頭17Cの瀬戸美濃の輪禿皿、近世末の瀬戸・美濃製品がある。

2. 内耳鍋・火鉢・土板

内耳鍋破片の出土は遺構一覧表備考欄に示したようにかなりの遺構数を数えるが、実測個体は9点で、法量のわかるものは3個体である。36・37・41の3個体は内耳が添付されておらず、36は残存からみて内耳の付かない鍋であろう。口径27～28cm、底径23cm前後、器高13.3～16.7cmを測る。同時期とみられる資料は大井城跡（黒岩城跡）にみられ、AⅡ・AⅢに分類されているものと近いようである。黒岩城跡の廃絶時期が16C後半とされている。金井城跡（口径27.7～36cm、器高14.3～19.4cm）、榛名平遺跡（口径28.3～35.9cm、器高12.2～18.9cm）の資料に比べると口径、高さともに小ぶりである。

火鉢はいずれも近世の所産とみられる。

内耳の体部を再利用した土板が2点出土する。

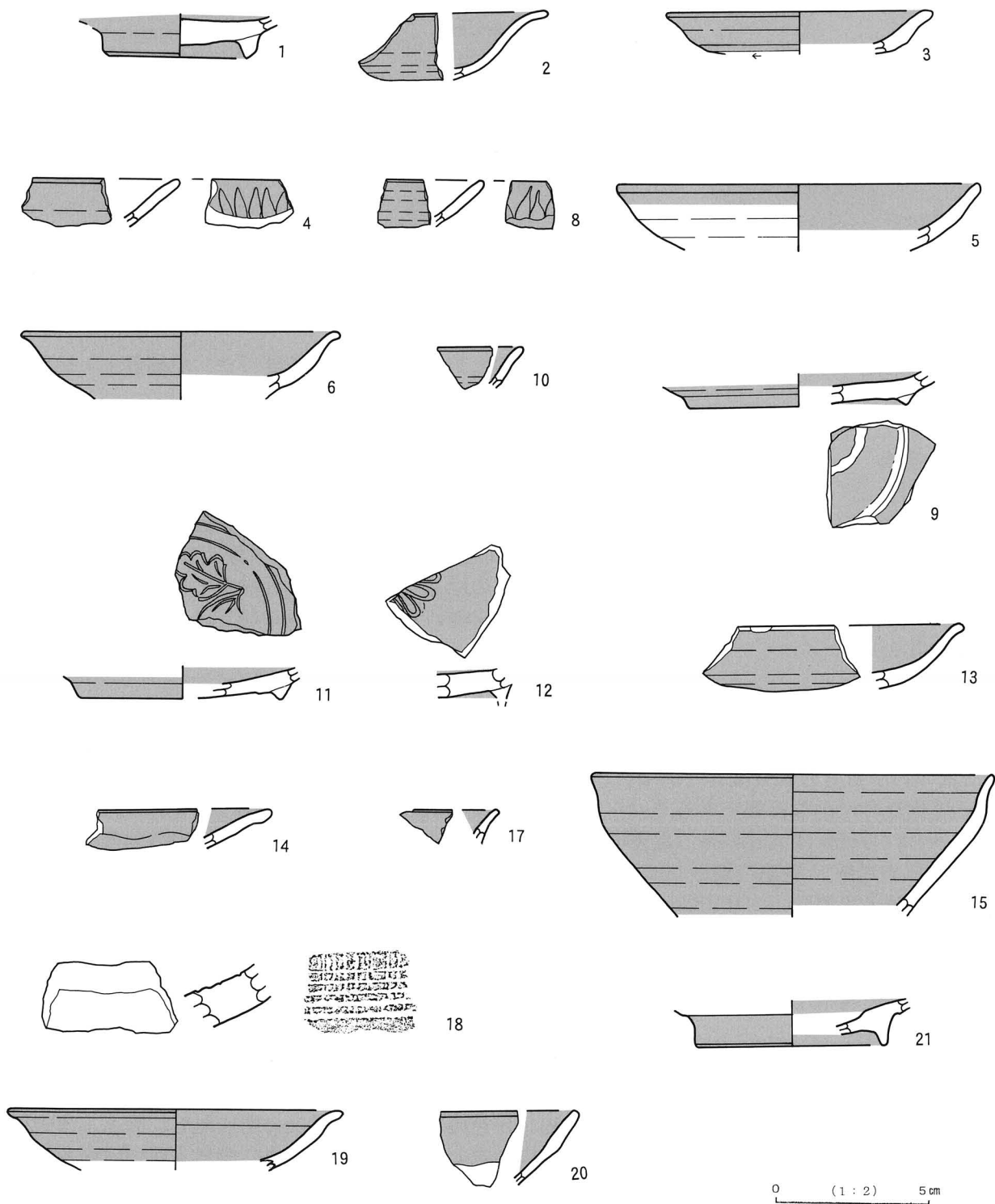
3. かわらけ

かわらけの実測資料は9点で7点が中世、2点は近世とみられる。中世のかわらけは口径8cm前後、器高2.0～2.4cmの小型品である。口縁下部が膨らみを持ち、口縁が端反に開く器形である。黒岩城跡で分類される、A3（小型品、口径6.7～8.6cm、器高1.6～2.6cm）（ロクロ成形、底部回転糸切り、口縁下部で丸みをもって開き、口縁端部は短く引きだされるように外反する。）のかわらけと同様である。

近世のかわらけは口縁が薄く全体に内湾して外に開く器形である。

4. 金属製品

青銅製品と鉄製品がある。青銅製品は60柄縁、62金メッキのキャップ形の小型品、80鞘尻、86飾金具、91・94の煙管、95のベルトの金具がある。柄縁、鞘尻は刀の付属品で、D60号土坑から出土した60の柄縁は刃渡は3.4cmを測る。野馬窪遺跡D216（土坑の規模は1.17×1.0×0.44cm、長方形）

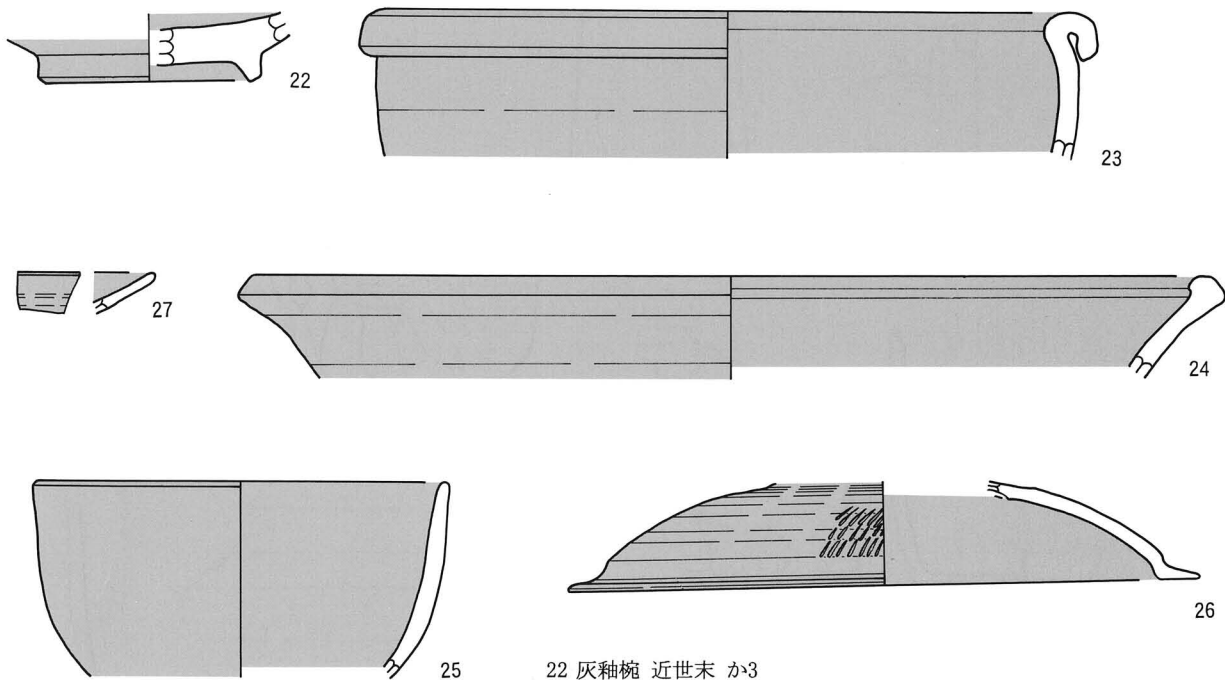


- 1 青磁 碗 龍泉窯 中世D65
- 2 白磁 皿 15C~16C 中国 北検出
- 3 灰釉腰折小皿 15C末~16C初頭 え4
- 4 灰釉丸皿 16C前 う7
- 5 灰釉丸皿 16C前 う7
- 6 灰釉丸皿 15C末~16C初頭 こ16
- 8 灰釉丸皿 16C前 北検出

- 9 灰釉丸皿 16C 北検出
- 10 灰釉丸皿 15C末~16C初頭 北カクラン
- 11 灰釉丸皿 16C前 北検出
- 12 灰釉丸皿 16C 北カクラン
- 13 灰釉丸皿 15C末~16C初頭 北検出
- 14 灰釉輪髹皿 瀬戸美濃 17C前 南検出

- 15 天目茶椀 15C末~16C初頭 北検出
- 17 天目茶椀 15C末~16C 北
- 18 土師質搦鉢 在地中世 17C う8
- 19 鉄釉輪髹皿 17C前 北カクラン
- 20 鉄釉小椀 17C 南検出
- 21 灰釉輪髹皿 17C前 北検出

第20図 陶磁器 (1)



- 22 灰釉碗 近世末 か3
 23 灰釉こね鉢 近世末 か3
 24 錆釉播鉢 18C末～19C前 D61
 25 鉄釉碗 18C末～19C前 す16
 26 錆釉(土鍋)蓋 幕末 北検出
 27 灰釉輪壳皿 唐津 18C初頭 さ15

0 (1:2) 5 cm

第21図 陶磁器 (2)

から出土した小刀は長さ26.5cm刃幅3.0cm厚さ1.1cmである。(1910『野馬窪遺跡Ⅱ・Ⅲ』) 60の柄縁の刀の長さは不明であるが同程度の刀幅の刀が想定される。また北東隅から出土した80の鞘尻は3.5cmの幅を測る。D65付近から出土した金メッキ製の86は板状で丸みをもつ表に彫金となされた破片である。煙管の吸口は真鍮製か銅製で、近世～近代のものと思われ、長さ7.1cmを測る。

鉄製品は角釘、65毛抜、78・85刀子、鉄鎌、火打、角軸がある。最も多いのは角釘で、15点を数える。か4グリッドにあるピットの径19cm深さ37cmのP256からは角釘が7点まとまって出ている。鉄鎌は鎌身が三角形の92と鑿箭の77がある。鎌身長が4cmと5.5cmを測る大型品である。81は鋸(かすがい)形の火打金具であろうか。

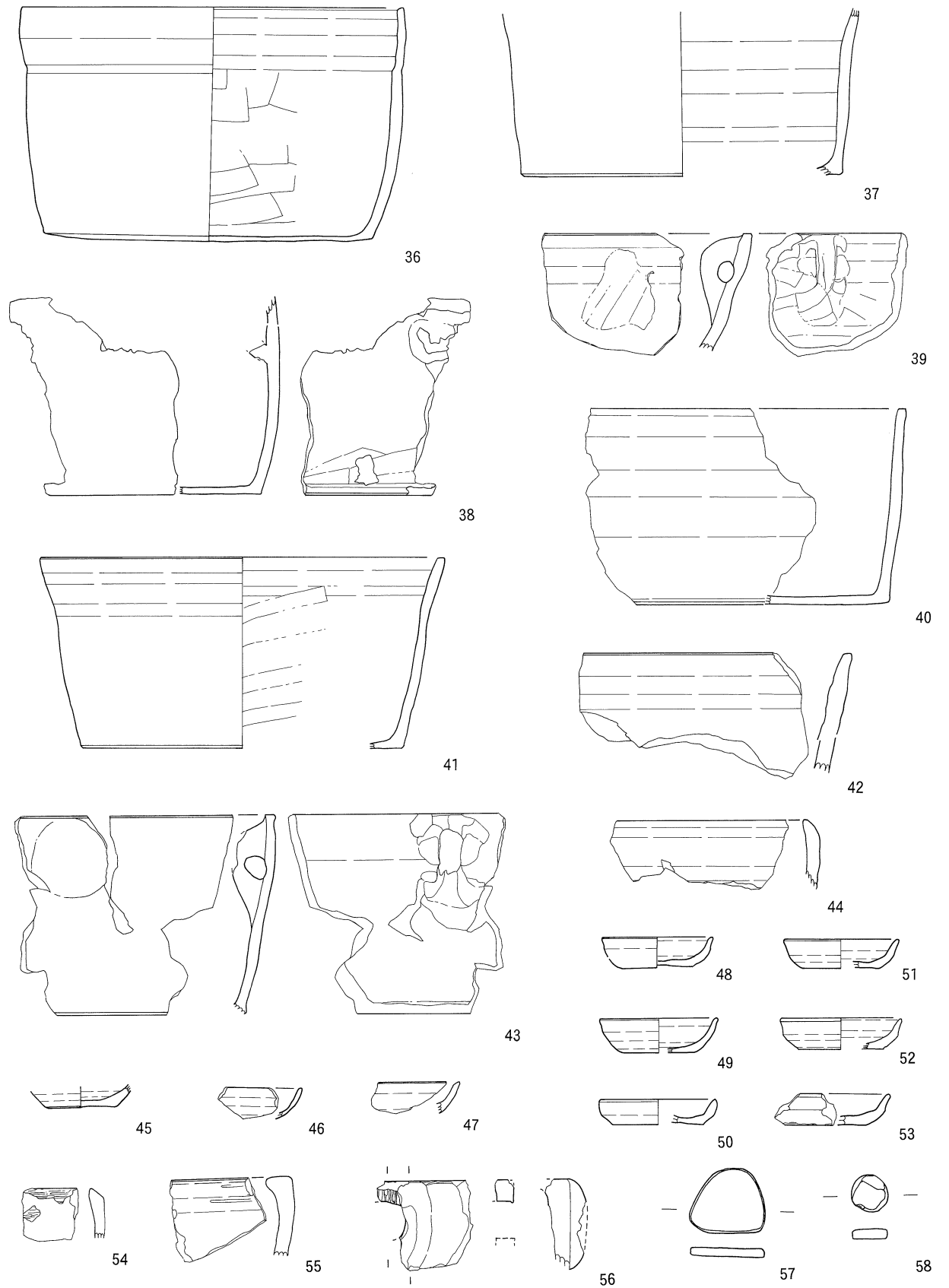
5. 古銭

渡来銭15枚と寛永通寶3枚がある。渡来銭は開元通寶(初鑄年845)唐銭、至道元寶(初鑄年995)～紹聖元寶(初鑄年1094)の北宋銭が8枚、洪武通寶(初鑄年1368)3枚と永樂通寶(1408)2枚の明銭がある。

渡来銭は2カ所の集中しており、一つは北東隅であり、北宋銭が集中する。ピットと土坑群の東で土塁の西下にあたる。他は西の中央入り口にあり、石列が残っていた土塁の南地点である。こちらは明銭が出土している。

6. 石製品

石製品は編物石、軽石製品、砥石、台石、スクレイパー、硯、茶臼、粉挽臼、五輪塔がある。打製石斧が1点みられた。136の硯は砥石に転用されている。141の砥石は刃物を研ぐというより、曲面のミガキに使用しているようである。石臼は茶臼4点、粉挽臼上臼3点、下臼3点がある。いずれも破砕品で、完形はない、石組、石列から出土し、製品としての出土状況はなく、石材として転用され



36 16C D11
 37 16C P419
 38 16C D45
 39 16C D54
 40 16C 1号石列 け13

41 16C う4
 42 16C中 北検出
 43 16C 北検出
 44 15C末 い6 北検出
 45 16C前 D61

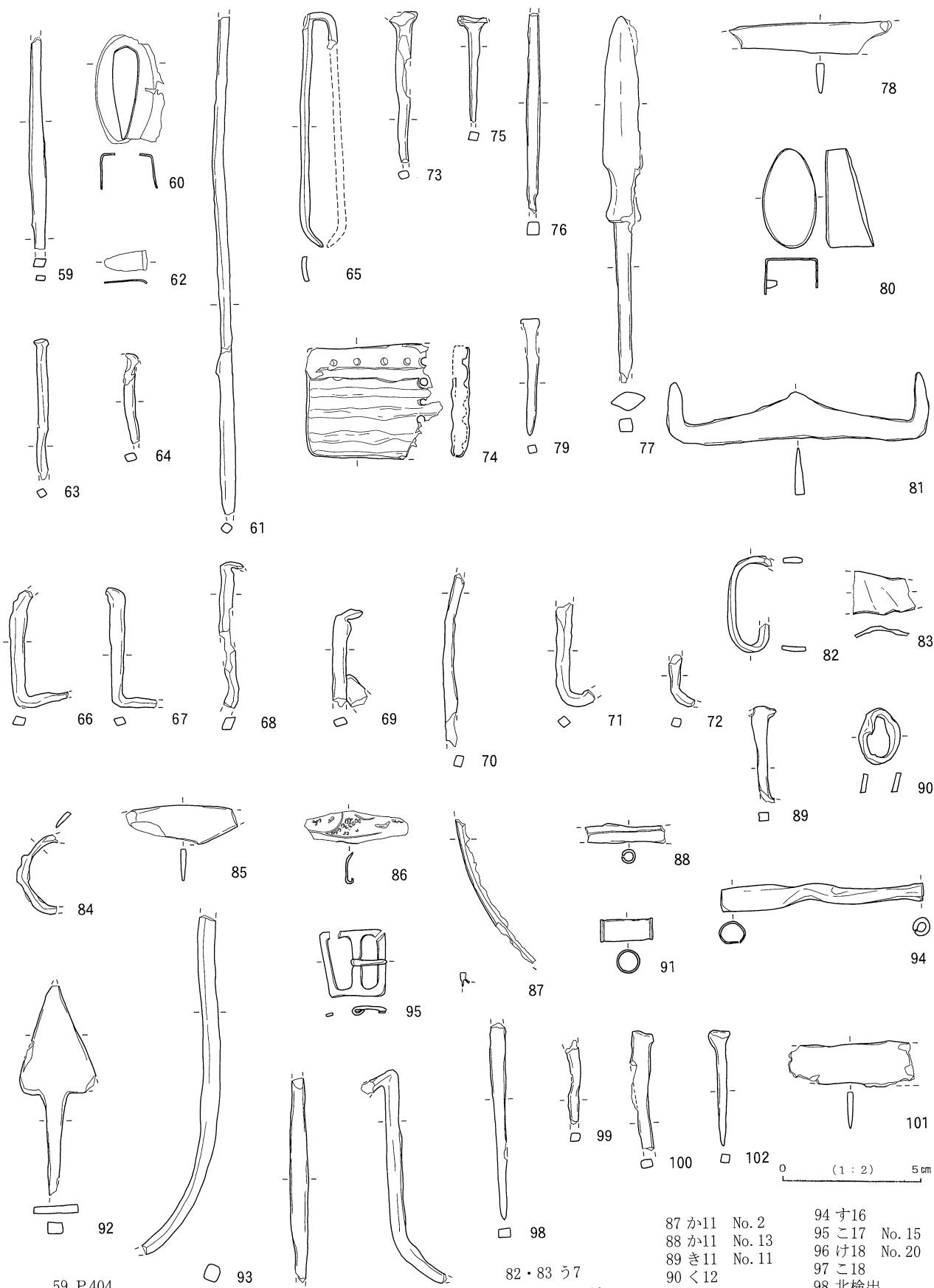
46 近世 D61
 47 16C前 D15
 48 16C前 P426
 49 16C前 D51
 50 近世 <14

51 16C前 し15
 52 16C前 北検出
 53 16C前 北検出
 54 D51
 55 在地近世 け17

56 近世 カクラン
 57 中世 き9
 58 中世 北カクラン

0 (1:4) 10cm

第22図 内耳鍋・火鉢・かわらけ・土板



59 P 404
 60・61 D54
 62 P 427
 63・64 D65
 65 P 178
 66~72 P 256

73 P 261
 74 P 380
 75 南掘9層
 76 北検出
 77 < 4

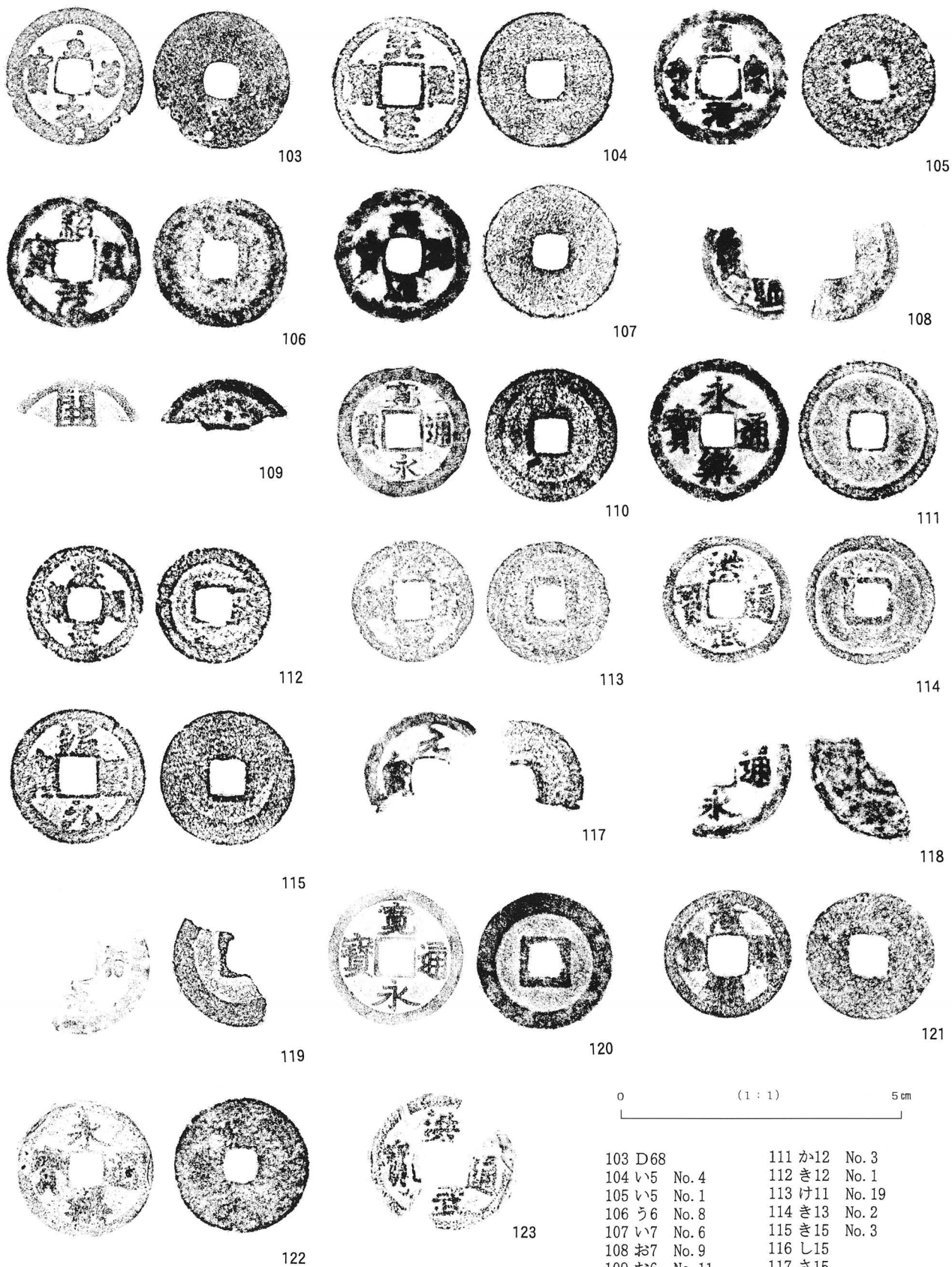
78・79 い5
 80 銅製品 う6 No. 5
 81 う5 No. 7

82・83 う7
 84 お6 No. 10
 85 お8
 86 D65 お10周辺

87 か11 No. 2
 88 か11 No. 13
 89 き11 No. 11
 90 < 12
 91 き13
 92 < 13
 93 こ14

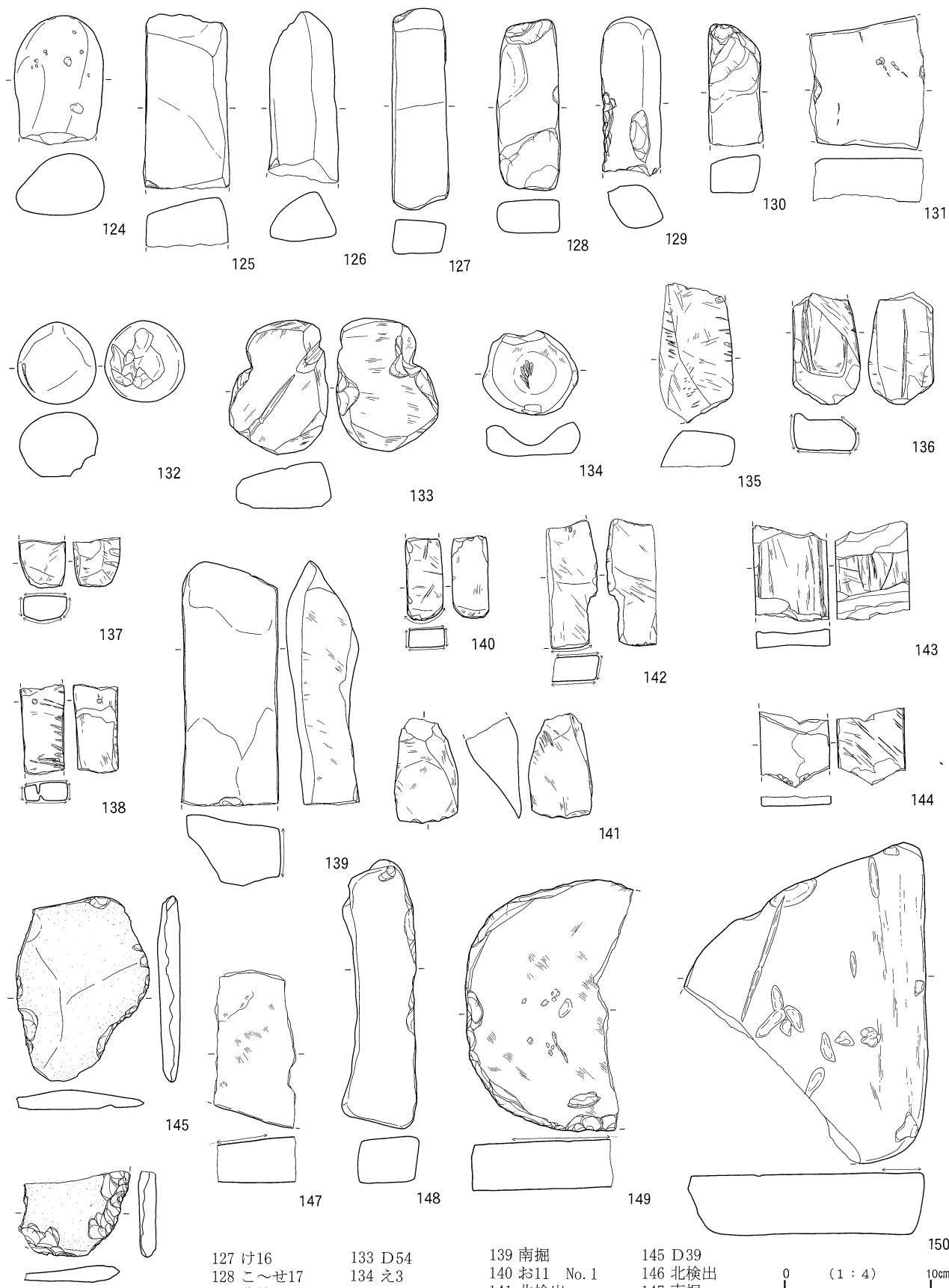
94 す16
 95 こ17 No. 15
 96 け18 No. 20
 97 こ18
 98 北検出
 99 北検出
 100 北検出
 101 北カクラン
 102 北検出

第23図 金属製品



- | | |
|---------------|----------------|
| 103 D68 | 111 か12 No. 3 |
| 104 い5 No. 4 | 112 き12 No. 1 |
| 105 い5 No. 1 | 113 け11 No. 19 |
| 106 う6 No. 8 | 114 き13 No. 2 |
| 107 い7 No. 6 | 115 き15 No. 3 |
| 108 お7 No. 9 | 116 し15 |
| 109 お6 No. 11 | 117 さ15 |
| 110 お11 No. 1 | 118 す16 |

第24図 古銭



124 D11
125 え4
126 お11 No. 1

127 け16
128 こ～せ17
129 北検出
130 北検出
131 カクラン
132 D44

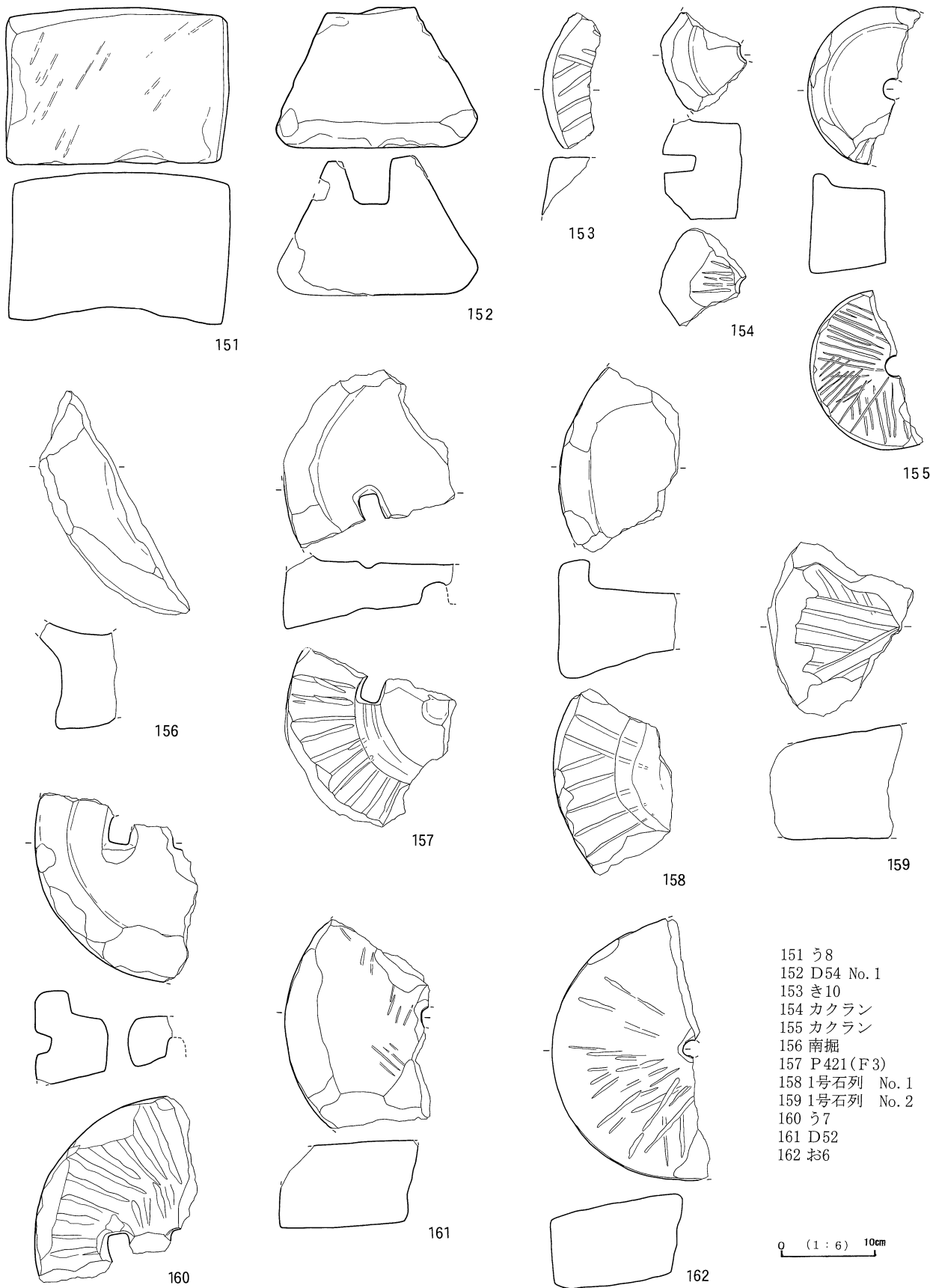
133 D54
134 え3
135 D62
136 い5 No. 2
137 い4
138 D11

139 南掘
140 お11 No. 1
141 北検出
142 北検出
143 こ16 No. 18
144 北検出

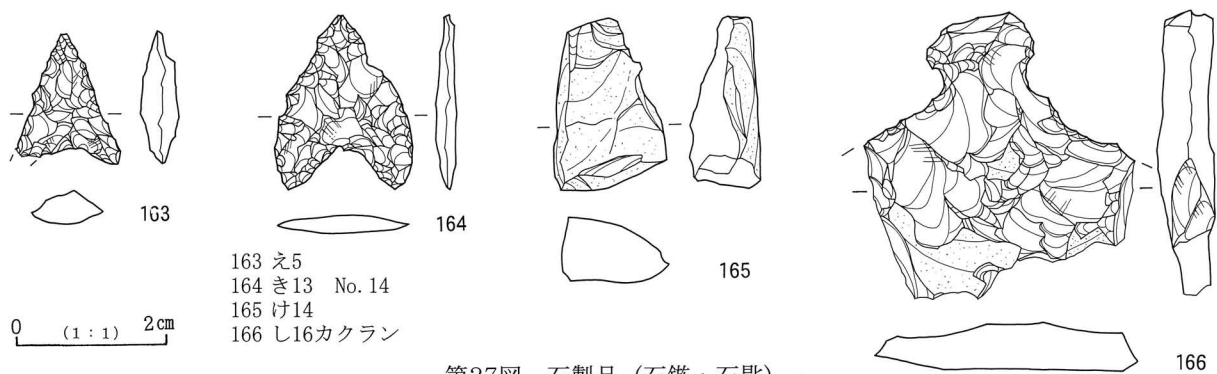
145 D39
146 北検出
147 南掘
148 P11
149 う8
150 カクラン

0 (1:4) 10cm

第25図 石製品 (砥石・磨石・台石他)

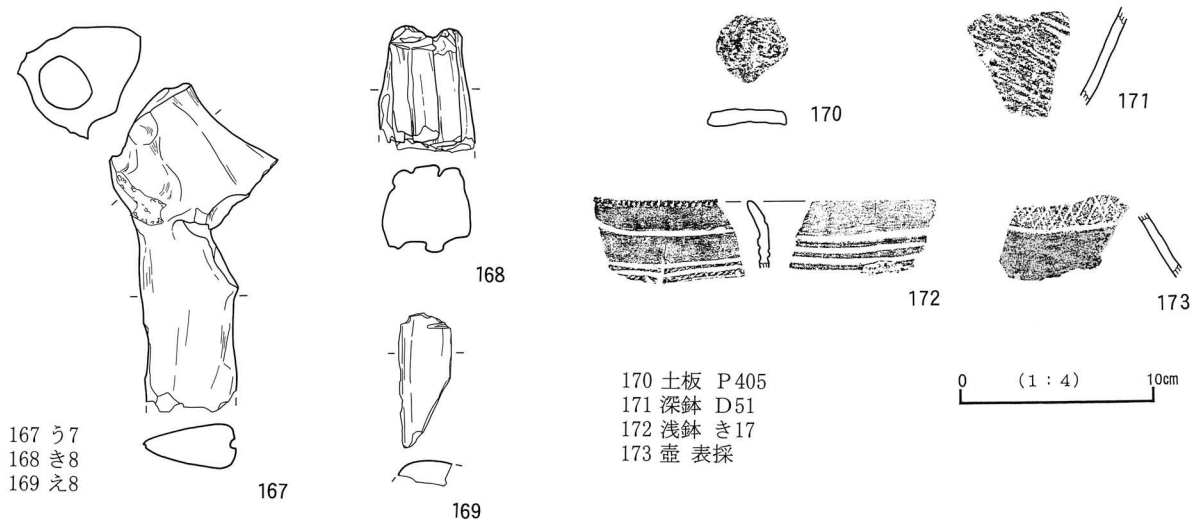


第26図 石製品 (五輪塔・石臼)



163 え5
164 き13 No. 14
165 け14
166 し16カクラン

第27図 石製品 (石鎌・石匙)



167 う7
168 き8
169 え8

170 土板 P405
171 深鉢 D51
172 浅鉢 き17
173 壺 表採

第28図 骨・歯

第29図 中世以前の出土遺物

ている。

五輪塔は火輪と地輪が出土している。

7. 羽口

羽口の破片が3片攪乱より出土する。

8. 骨

グリッドからウマかウシの骨と歯が出土する。耕作土からの出土なので分析はしなかった。

9. 中世以前の遺物

縄文土器が3片、弥生時代後期の赤色塗彩の壺片、黒曜石製の石鎌・石匙が出土する。

第V章 まとめ

白岩城跡は平尾氏の居城と知られ、里古城ともよばれている。伝承では小県郡の依田氏が享徳元年（1452）に佐久に来て平尾氏を名乗ったとされている。当時の佐久では大井持光が永寿王丸を支持し、文安4年（1477）その永寿王丸が関東管領に補せられ、鎌倉公方足利成氏として復職。大井持光は佐久において大きな勢力を持ち、文明16年（1484）村上に大井城を焼かれるまでが大井氏の全盛期であった。

宝徳・享徳（1449～1954）年間小県の依田為頼は大井氏に侵され、大井氏の幕下となった。弟依田為泰は大井氏に従い佐久郡平尾村に移住し、「平尾」氏となった。村上に攻められ大井宗家が滅びた後も芦田の大井家の勢力下にいたようである。

天文12年（1543）武田春信が佐久に侵入、平尾氏は翌天文13年に降伏している。1559年には平尾から一時立ち退き松井田の客将となる。松井田城はその後陥落するが、許されて信玄に仕え、平尾に戻る。天正3年（1575）には平尾大社本殿の再建が平尾守芳によりなされている。（1991 胡桃沢）

天正10年（1582）武田と織田が滅亡した後、徳川家康が信濃国の大半を平定した。佐久郡では依田（芦田）信蕃（のぶしげ）が武田の配下から徳川氏に転じ、11月に岩村田城を攻め落としている。（1993『佐久市志』）白岩城も『三河物語』に「平尾の屋敷城」と記述され、岩村田の城（黒岩城か）とともに平定されている。（1984『大井城関係文献資料集』）

依田信蕃の子康国は父の戦功により松平姓を許され、小諸城主として佐久一郡を支配する。

天正18年（1590）小田原城の落城に伴い、家康の領国を北条の旧領である関東に移した。家康の配下である依田康国の子康信は武蔵・上野国内に三万石を与えられ、群馬の藤岡城に移封された。平尾氏もこれに伴ったので、平尾の地を引き払ったのである。（1993『佐久市志』）白岩城の廃絶はこの時期に求められ、15世紀中頃から16世紀末の150年間、「平尾屋敷城」は存在したことになる。

ここで白岩城跡と同時期とみられる、黒岩城、北山寺遺跡と比較してみることにする。

白岩城跡Ⅲ 掘立柱建物址8棟、竪穴状遺構3棟、土坑45基、単独ピット426個

主な出土遺物

青磁碗 1点（龍泉窯 中世）

白磁皿 1点（15C末～16C）

瀬戸灰小皿（釉丸皿・稜皿） 11点（15C末～16C初頭・16C前半）

遺構に伴わない。グリットからみると北側の東半域から出土。

かわらけ 7点（16C前半）他に破片は北検出とP238から20点、南検出2点と北に多い。

内耳鍋 9点 遺構内破片70点（北東隅・北の土坑群北検出に集中）（16C）

渡来銭 15枚 北宋銭と明銭があり、最も新しいのは永楽通寶（初鑄年1408年）

南・北の東半域から出土

角釘 15点（P256（か4グリット）7点）

鉄鎌 2点（く4・き13グリット）

柄縁 1点（D54、け13グリット）

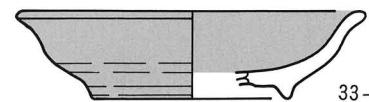
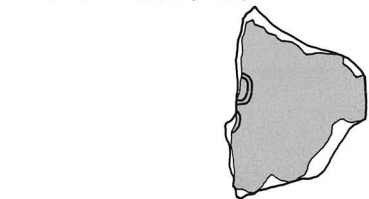
鞘尻 1点（う6グリット）

青銅製 渡金製品（D65付近、お10グリット）

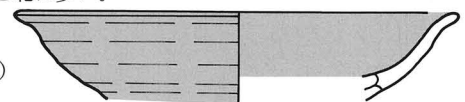
砥石 7点 北検出に多い。

茶臼 4点 再利用されている。

粉挽臼 6点 再利用されている。



33-17



33-21



33-15

0 (1:2) 5cm

第30図 『白岩城跡Ⅰ』
瀬戸灰釉端反皿とかかわらけ

五輪塔 2点

白岩城跡 I (1988年発掘調査) 本調査の東に接続する南北の堀

瀬戸灰釉小皿(端反皿) 2点 (33-17・33-21) (大窯1 15C末~16C初頭)

かわらけ 1点 (33-15)

内耳鍋 4点 (33-29~32)

渡来銭 1点 永楽通寶(初鑄年1408)

鉄製刀子 1点

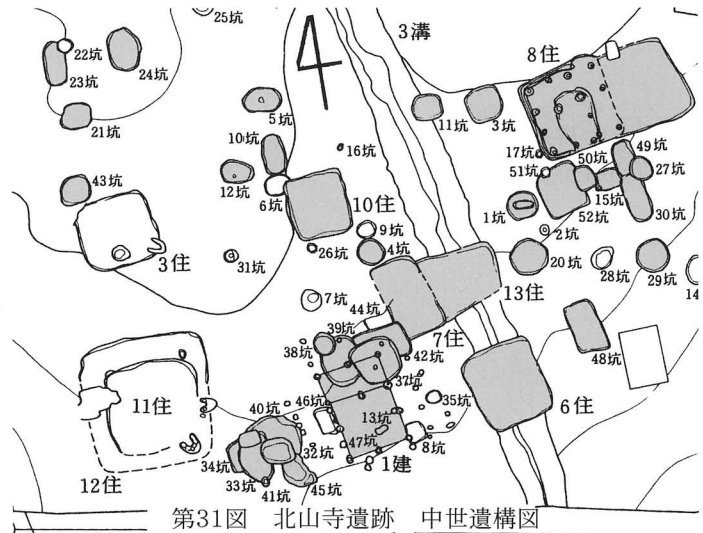
羽口・鉄滓

粉挽臼 7点

石搗鉢・石搗鉢 9点(寶篋印塔転用品あり)

五輪塔 2点

砥石



北山寺遺跡(1988年発掘調査) 竪穴住居址6棟、掘立柱建物址1棟、火葬墓1基、土坑50基、溝1

瀬戸灰釉小皿(端反皿) 1点 瀬戸大窯(16C前半)

かわらけ 2点

内耳 2点

太刀金具 足金物3点・責金1点

刀子 2点

渡来銭 治平元寶(1064)・洪武通寶(1368)・宣徳通寶(1433)

粉挽臼 7点

茶臼 1点

砥石 2点

第31図 北山寺遺跡、中世遺構図

黒岩城跡(1984年発掘調査) 竪穴状遺構54基、土坑285基、掘立柱建物址3棟、溝2本

青磁碗 36点(14~16C) 青磁皿1点(15C)、青白磁瓶子 1点(13C)

白磁壺 5点(14C 2点・15C 3点)、白磁皿11点(15C 3点・16C 8点)

染付碗 1点(15C)

天目茶碗 44点(16C)

灰釉碗 23点(16C前半20点・16C後半3点)、灰釉香炉1点(16C)、卸皿1点(15C)、灰釉弊瓶子1点(15C)、

灰釉片口鉢1点(14C前半)、灰釉折縁鉢 3点(15C)、灰釉小鉢(15C後半)、灰釉小鉢 3点(15C)、

灰釉三足盤 6点(15C)

山茶碗 5点(14C)

灰釉小皿(端反皿・丸皿) 18点(16C前半)

鉄釉稜皿 1点(16C前半)、鉄釉茶壺 1点(15C)、鉄釉茶入 1点(16C) 鉄釉徳利 3点(16C)

常滑甕 137点(14C 6点、15C 4点、16C前半126点、16C後半1点)

常滑鉄釉鉢 2点(16C)

中津川甕 15点(14C)、中津川鉢 1点(14C)

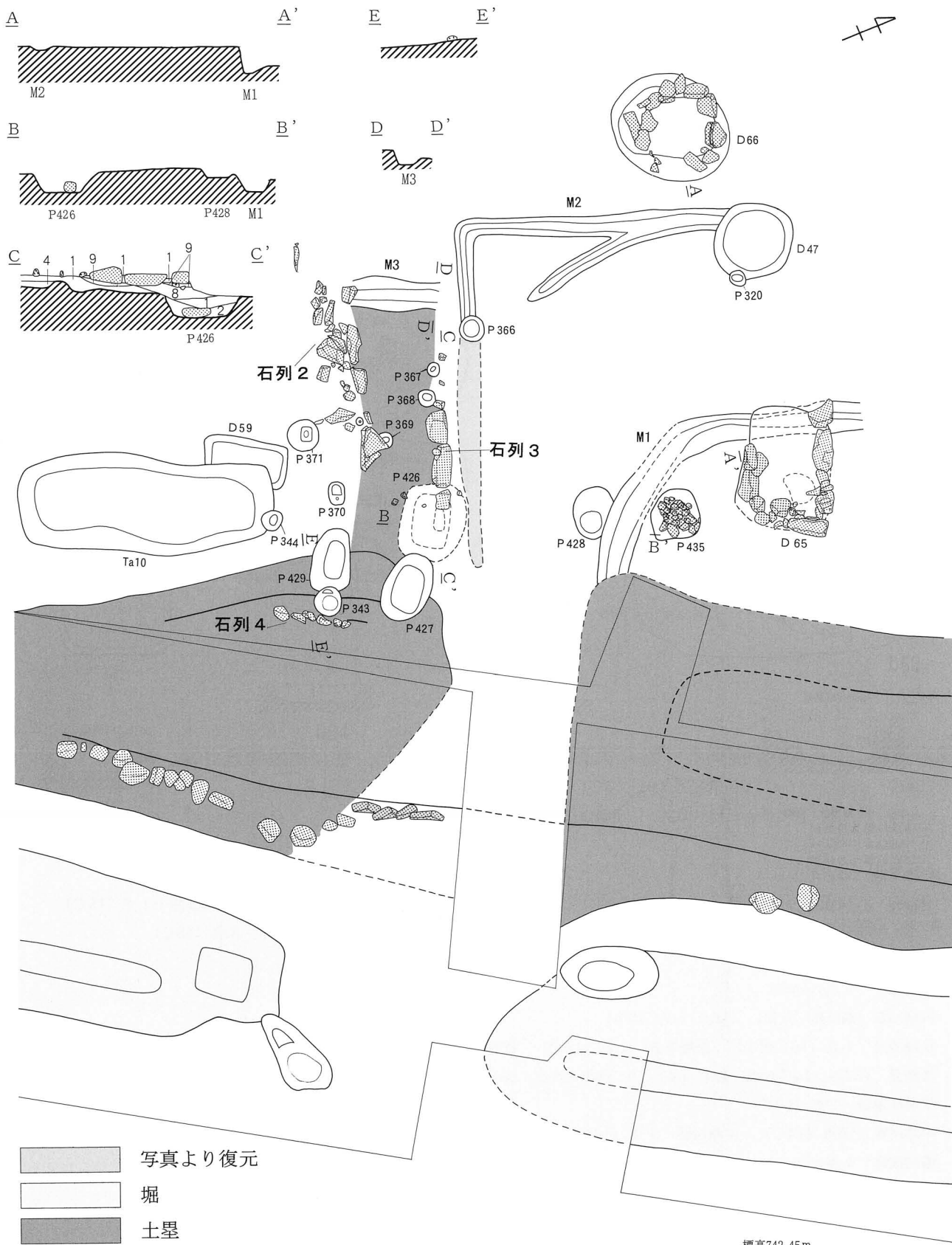
備前搗鉢 1点(16C)

かわらけ 70点(16C)・香炉2点

内耳 11点

粉挽臼75点

茶臼 36点



第32図 白岩城跡Ⅲの虎口

石播鉢・搗き臼 35点

砥石 48点

硯 5点

渡来銭162枚 最も新しいもの 宣徳通寶 (1433)

小柄 6点

羽口・鉄滓

遺構

白岩城跡Ⅲの発掘調査による不十分ではあるが成果を述べる。掘立柱建物址が9棟あり、F1・F3・F8号掘立柱建物址は礎石を伴うこと。竪穴状遺構は、大型土坑に分類されたものを加えても数が少ない。黒岩城跡との比較では竪穴状遺構の少なさが明らかである。竪穴状遺構が工房などの性格をもっているとすれば白岩城跡の今回の調査区では工房的なものはないようである。掘立柱建物址を中心とする建物群が主体である。

土塁と堀については南端に南堀が検出され、堀の上幅3m弱、北側にテラス（武者走）があつて土塁が東西に延びて盛られていたようである。土塁の高まりは削平されてないが堀側にわずかに土塁の痕跡が残り、堀に平行して幅3mほどの帯状に土塁があつたとみられ、遺構が検出されていない。

同じく東端にも土塁の痕跡を示す堆積がわずかに残り、基底幅で5mほどの土塁が南北に築かれている。

南から東にかけて土塁が囲み、東側中央に虎口が設けられている。第32図で想定を含めた虎口の図を作成したが、白岩城跡Ⅰで検出された土橋地点で土塁の途切れ（幅2～4mほど？）があり、その先の細い排水溝から推測するに、幅50cmの溝が西方向に延びて北に曲がっている。北に曲がったこのM1・M2の細溝は平行しており幅3mほどの間には遺構がなく北東隅に至って遺構群がある。これが平尾屋敷城の虎口であろう。

遺物

黒岩城跡の出土遺物と比較してみると、陶磁器・かわらけ・内耳鍋・角釘・小柄・石臼・石播鉢・砥石という構成は類似している。陶磁器類の多種と多量は黒岩城跡が圧倒しているが、瀬戸灰釉小皿・かわらけ・内耳の時代は黒岩城跡の16C代の遺物と類似している。そして、白岩城跡Ⅲ出土品のなかで、瀬戸灰釉小皿とかわらけは高い比率をもっており、館としての性格が窺われる。ただ、白岩城跡では貯蔵を目的としたであろう常滑製の甕がⅠ・Ⅲの調査で、一片も出土しておらず、この遺跡の時代・性格の特徴を語るものか今後の資料を待ちたい。

今回の発掘調査で、

1. 南堀とテラス、土塁の痕跡。
2. 東側土塁の痕跡。
3. 虎口が直線ではなく、ほぼ直角に曲がる。
4. 掘立柱建物址が多い。
5. 竪穴状遺構が少なく工房的なものがない。
6. 北に陶磁器・かわらけが多く出土しており、北西の掘立柱建物址群に関連し、館の中心部であろうか。上面からの検出遺構が多いことから、整地面からすると建て替えられた新しい建物群といえる。南の掘立柱建物址は下面から出土し、古い建物群とみられる。
7. 館の築城時期が15世紀中頃、廃絶の時期が16世紀末とほぼ知れる状況のなかで、遺構・遺物ともに合致しており、このことから中世後期の土着武士、土豪の館の様子が推し量られる。
8. 17Cの瀬戸・美濃製品が残っていることから一部は廃絶後も営みが継続したのであろう。

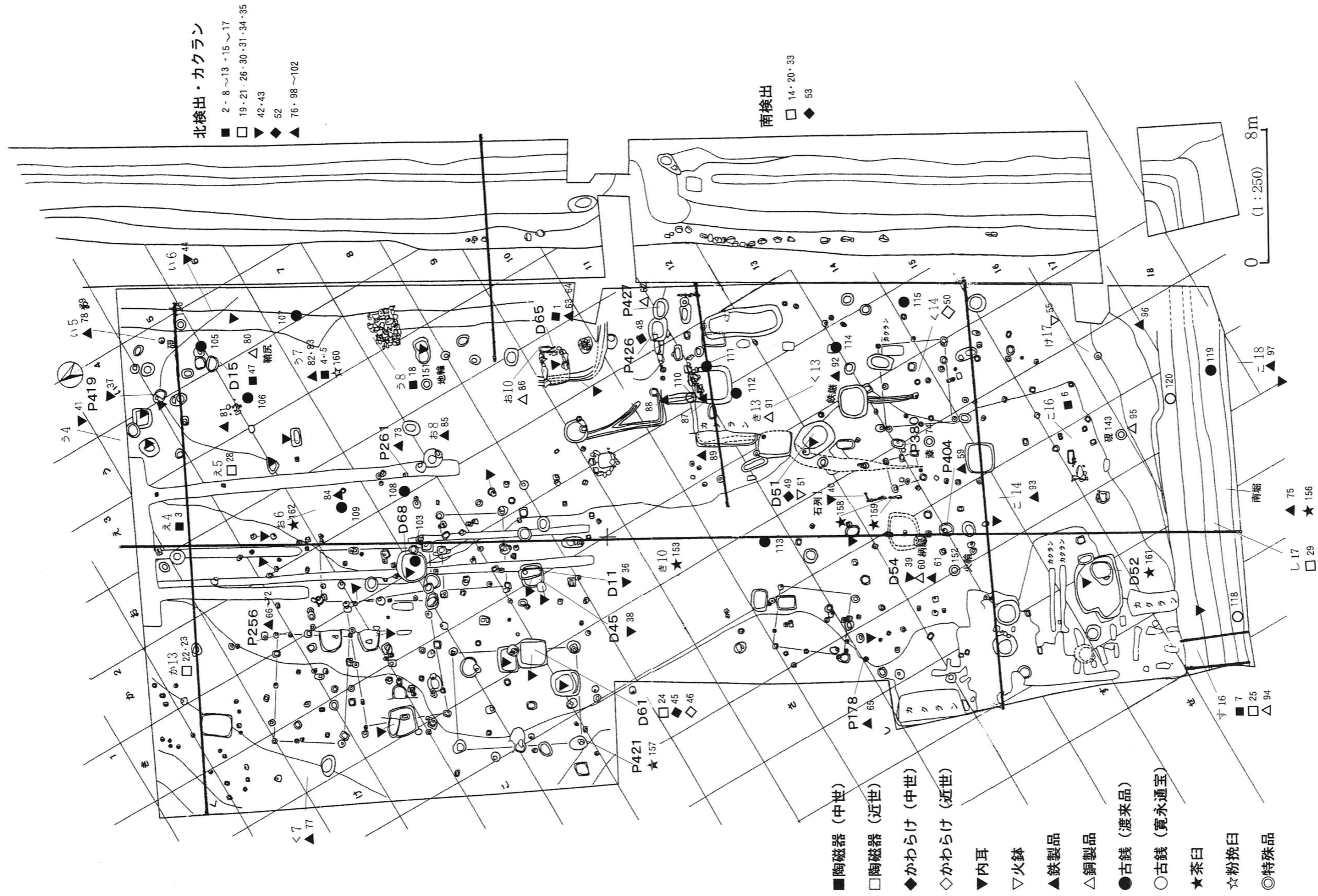
わからなかったこととして整地層が、上面と下面での新旧の遺構の帰属が明確でないことである。明確な時期差を捉えられるはずであるが捉えることができなかった。南側にあった建物が下面で北側

の礎石を持つ建物に移った可能性は指摘できる。

白岩城跡の主郭は東西54m（30間）×南北81m（45間）の長方形を呈する。その主郭の約1/4を調査したことにより、全容とまでいかないが文献や伝承との整合、また一部の様子が分かってきたようである。ただ、一部の調査で断定できないが、15C中頃の遺物が少ないことから、平尾氏が頭初からこの地に館を構えたかは疑問の残るところである。

引用参考文献

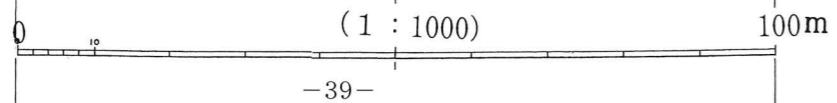
- 1983 長野県教育委員会 『長野県の中世城館跡』
- 1986 佐久市教育委員会 『大井城跡（黒岩城跡）』
- 1991 長野県埋蔵文化財センター 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2』
－佐久市内その2－北山寺遺跡P 352
- 1987 胡桃沢龍吉 『平尾守芳とその一党』
- 1989 佐久市教育委員会 『白岩城跡（里古城）』
- 1991 佐久埋蔵文化財センター 『金井城跡』
瀬戸市歴史民俗資料館 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要X』
- 1992 佐久市志編纂委員会 『佐久市史』 歴史編（三）近世 P 21
- 1993 佐久市志編纂委員会 『佐久市史』 歴史編（二）中世 P 590
- 2010 佐久市教育委員会 『野馬窪遺跡Ⅱ・Ⅲ』



第33図 白岩城跡Ⅲ出土の主たる遺物の分布図



撮影 昭和63年10月15日
 測図 平成元年1月
 昭和63年・平成21年の発掘調査の成果を載せている。



第34図 白岩城跡地形測量図

第1表 白岩城跡Ⅲ遺構一覧表

遺構名	検出位置	時代	形態	規模 (cm・㎡)		主軸方位	カマド炉	柱 穴	備 考	(残) (推定)
				南北長	東西長					
Ta1	し15	中世	不整形	246	336	N - 20° - E	-	-	D52と重複。P409に切られる。	
Ta2~5	欠									
Ta6	き11	中世	-	337	(62)	N - 31° - E	-	-	カクランに切られる。	
Ta7~9	欠									
Ta10	お12	中世	長方形	396	120	N - 24° - E	-	-	D59、P344と新旧不明。	

掘立柱建物址

遺構名	検出位置	様式	桁行×梁間 (間)	桁行×梁間 (m)	桁行柱間 (m)	梁間柱間 (m)	長軸方位	柱穴規模		備 考	(残) (推定)
								短径 (cm)	深さ (cm)		
F1	か5	側柱	2×1	6.4×3.2	3.2	3.2	N - 30° - E	25~78	7~86		
F2	か4	側柱	2×1	4.0×2.48	2.0	2.48	N - 58° - W	20~40	11~66		
F3	く6	総柱	3×2	7.2×5.6	2.6・2.0	3.16・2.4	N - 25° - E	33~88	24~78		
F4	け11	側柱	2×2	4.06×3.6	1.68	1.8	N - 39° - E	23~50	10~57		
F5	け13	側柱	1×1	1.8×1.6	1.8	1.6	N - 15° - E	26~40	8~68		
F6	き14	総柱	2×2	4.8×3.88	2.4	1.94	N - 65° - W	22~34	20~80		
F7	か5	側柱	3×2+縁	7.4×4.8	2.0・1.4	2.4	N - 69° - W	20~48	5~80		
F8	か7	側柱	2×1	4.4×3.6	2.2	3.64	N - 65° - W	38~50	52~67		
F9	か9	側柱	1×1	1.96×1.6	1.96	1.6	N - 60° - W	18~22	6~29		

溝址

遺構名	検出位置	全長 (m)	幅 (cm)	深さ (cm)	備 考	(残) (推定)
M1	お9~お11	(6.00)	48~56	8~39	D65に切られ、P428を切る。	
M2	か10~か11	(6.04)	28~52	4~10	D47、P366に切られる。	
M3	か11	(1.56)	44~64	24~26	D69を切る。	
M4	く14	(2.76)	24~38	18~21	P361に切られ、D63を切る。	
南掘	け17~せ16	(12.55)	280~288	120~160		

土坑

(残) (推定)

遺構名	検出位置	平面形	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	長軸方位	備 考
D 1～D 3	欠						
D 4	し15	円形	96	90	48	N - 15° - E	
D 5～D 8	欠						
D 9	く13	隅丸長方形	98	56	43	N - 28° - E	カクランに切られ、P 400を切る。
D10	き15	円形	105	96	53	N - 1° - W	
D11	き 8	長方形	136	58	28	N - 18° - E	カクランに切られ、D45、P 297を切る。
D12	え 5	楕円形	94	76	24	N - 73° - W	内耳片 2
D13	き 5	-	〈130〉	116	14	N - 68° - W	カクランに切られる。
D14	き 5	-	129	〈126〉	16	N - 23° - E	カクランに切られる。
D15	い 5	楕円形	100	62	17	N - 45° - W	内耳片16
D16	欠						
D17	く 5	-	78	〈72〉	14	N - 25° - E	カクランに切られる。
D 1 8	く 5	楕円形	〈112〉	64	9	N - 53° - W	カクランに切られる。
D19・20	欠						
D21	く 4	楕円形	128	88	25	N - 34° - E	
D22～D25	欠						
D26	く 6	楕円形	90	80	21	N - 73° - W	P 88・92・125に切られ、P 243を切る。
D27・28	欠						
D29	こ 7	方形	78	74	13	N - 74° - W	
D30～D33	欠						
D34	け11	長方形	122	90	29	N - 59° - W	
D35	こ11	長方形	113	80	18	N - 26° - E	
D36	く 6	円形	113	106	28	N - 90°	P 168に切られる。
D37	う 4	円形	110	104	25	N - 90°	
D38	欠						
D39	う 4	方形	118	112	42	N - 63° - W	P 425に切られる。
D40	え 6	長方形	103	56	12	N - 66° - W	鉄滓328g
D41	お 8	楕円形	98	84	9	N - 23° - E	
D42	き 3	長方形	182	128	28	N - 37° - E	
D43	く 5	長方形	170	150	20	N - 71° - W	P 401に切られる。

土坑

(残) (推定)

遺構名	検出位置	平面形	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	長軸方位	備 考
D44	え8	不整形	148	88	41	N - 74° - W	
D45	き8	長方形	136	122	10	N - 67° - W	D11、P297・319、カクランに切られる。
D46	お8	円形	112	106	35	N - 89° - W	P317に切られる。
D47	か10	円形	137	135	72	N - 29° - E	P320に切られ、M2を切る。
D48~D50	欠						
D51	く12	楕円形	248	180	76	N - 9° - W	P25に切られる。
D52	し15	長方形 +張り出し	144	130	51	N - 70° - W	Ta1と重複。
D53	さ14	円形	148	144	39	N - 0°	
D54	こ13	長方形	212	180	59	N - 65° - W	P13・406に切られる。
D55・56	欠						
D57	し13	円形	144	130	42	N - 17° - E	
D58	し14	円形	112	112	24	N - 27° - E	
D59	か12	長方形	142	88	80	N - 28° - E	Ta10と新旧不明。
D60	け7	長方形 +張り出し	170	148	81	N - 24° - E	
D61	く7	方形	174	162	69	N - 26° - E	P206に切られる。近世
D62	く7	長方形	154	104	44	N - 66° - W	P206に切られる。
D63	く13	長方形	192	164	50	N - 66° - W	M4に切られ、P325を切る。
D64	き14	長方形	144	94	25	N - 46° - E	
D65	お10	長方形	216	156	82	N - 66° - W	石組 M1を切る。鉄滓17g
D66	か10	楕円形	212	188	42	N - 28° - E	石組
D67	欠						
D68	か6	方形	178	178	31	N - 30° - E	P123、カクランに切られる。
D69	か11	長方形	244	220	36	N - 29° - E	M3に切られる。
D70	け14	方形	176	170	47	N - 29° - E	
D71	き12	長方形	212	〈160〉	25	N - 30° - E	P376・402に切られ、P377を切る。
D72	さ10	長方形	81	67	30	N - 30° - E	石組
石組1	う8	長方形	232	212	—	N - 74° - W	石組
石列1	け13	—	208	59	—	N - 24° - E	
石列2	か11	—	430	115	—	N - 75° - W	
石列3	か11	—	195	35	—	N - 70° - W	
石列4	お12	—	140	28	—	N - 31° - E	

単独ピット

(残) (推定)

遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考	遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P1	く15	25	21	16	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P47	く3	26	20	3	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	カクランに切られる。
P2	く15	34	27	15	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P48	く3	24	22	35	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P3	け14	20	18	13	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	D70を切る。	P49	か7	50	47	53	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F8)
P4	け14	24	24	20	方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P50	か4	37	31	32	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P5	こ14	29	24	20	長方形	にぶい黄褐色土層(10YR4/3)		P51	く3	26	20	11	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F2)
P6	け14	23	21	15	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P52	く4	21	21	11	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P7	く11	22	20	56	円形	黒褐色土層(10YR3/2)		P53	お4	32	28	17	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P8	こ15	38	36	22	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P54	お7	(34)	(33)	16	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P9	こ16	27	24	5	長方形	褐色土層(10YR4/4)		P55	お5	28	26	27	方形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P10	こ14	34	23	32	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	内耳1	P56	く3	42	40	48	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P11	こ13	34	24	18	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P57	か4	27	26	34	方形	黒褐色土層(10YR2/2)	(F2)
P12	け12	38	28	7	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P58	え4	(23)	(21)	18	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。
P13	こ13	40	26	14	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	D54を切る。	P59	お5	30	29	60	方形	黒褐色土層(10YR2/2)	内耳1
P14	こ16	34	24	8	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P60	お5	46	(33)	33	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	カクランに切られる。
P15	こ16	75	38	9	長方形	褐色土層(10YR4/6)		P61	き4	39	30	22	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F2)
P16	欠							P62	く4	53	36	14	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P17	し13	27	27	8	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	カクランに切られる。	P63	く6	26	21	31	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P18	こ14	36	27	19	長方形	褐色土層(10YR4/4)		P64	お5	32	30	68	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	内耳1
P19	さ13	38	28	20	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P65	お5	30	28	25	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P20	し13	30	23	9	長方形	—		P66	か5	48	34	7	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F1)P90に切られる。
P21	こ12	24	24	32	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P67	き6	61	53	86	楕円形	1.暗褐色土層(10YR3/4) 2.褐色土層(10YR2/3)	(F1)
P22	し14	37	30	14	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P68	き5	46	40	28	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F2)P252を切る。
P23	し14	39	26	19	長方形	—		P69	か5	54	38	70	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P24	こ14	46	26	16	楕円形	褐色土層(10YR4/4)		P70	お5	20	18	36	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P25	く12	40	32	33	楕円形	褐色土層(10YR4/4)	D51を切る。	P71	か5	34	22	35	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P26	く13	20	20	7	方形	褐色土層(10YR4/6)		P72	く5	34	33	34	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P27	さ13	(32)	31	23	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。	P73	お6	26	25	26	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F1)
P28	け12	27	25	11	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	P407を切る。	P74	お6	20	17	29	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P29	さ13	39	24	51	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)		P75	き5	40	36	28	方形	黒褐色土層(10YR2/2)	(F2)P253・254を切る。
P30	さ13	31	27	47	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P76	か5	28	28	64	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P31	き2	18	17	47	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P77	き4	28	23	17	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F2)
P32	か7	46	30	43	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P78	け5	28	24	29	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P33	か9	52	52	72	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P79	き5	29	25	5	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P34	く8	26	24	9	方形	黒褐色土層(10YR2/2)		P80	き5	34	31	38	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F7)
P35	く2	22	22	46	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P81	し12	58	58	48	円形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	
P36	き7	33	26	9	長方形	—		P82	け6	40	28	72	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P37	か6	22	20	36	方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P83	き5	40	39	19	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P38	か6	24	22	47	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P84	く5	32	29	26	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P39	か6	18	16	26	長方形	黒褐色土層(10YR2/2)		P85	き5	58	35	74	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P40	か6	34	(21)	31	長方形	黒褐色土層(10YR2/2)	P41と新旧不明。	P86	く5	39	38	35	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P41	か6	29	(25)	53	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	P40と新旧不明。	P87	く6	43	42	64	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P42	か2	22	16	6	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P88	く6	24	20	13	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	D26、P92を切る。
P43	く6	45	37	5	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F7)	P89	さ14	21	15	18	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P44	か4	30	25	24	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P90	か5	44	32	26	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P66を切る。
P45	か2	27	22	17	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)		P91	き6	19	19	26	方形	黒褐色土層(10YR2/2)	内耳1
P46	お7	(68)	(57)	37	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	カクランに切られる。	P92	く6	30	(28)	63	—	黒褐色土層(10YR3/2)	P88に切れ、D26を切る。

単独ピット

〈残〉 (推定)

遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考	遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P93	け16	26	22	25	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P139	お5	(27)	(21)	12	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。
P94	け16	27	27	17	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P140	き4	30	28	14	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P95	け15	27	26	22	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P141	き6	67	55	15	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	内耳1
P96	こ16	25	23	13	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P142	お3	62	51	22	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P97	こ16	18	(16)	13	—	暗褐色土層(10YR3/4)	P98に切られる。	P143	え6	27	23	9	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P98	こ16	23	20	14	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	P97を切る。	P144	く3	30	26	45	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P99	け15	18	16	14	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P145	く2	30	24	11	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P100	こ14	30	25	28	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P146	く3	21	19	38	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P101	け13	22	20	19	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P147	え5	27	22	16	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。
P102	け14	19	15	16	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P148	欠						
P103	さ13	29	20	8	長方形	黒褐色土層(10YR2/2)		P149	き2	22	18	17	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P104	さ13	20	19	—	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P150	き2	18	17	3	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P105	け12	23	23	12	方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P151	き2	18	14	27	長方形	—	
P106	か10	33	30	11	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P152	き3	22	22	9	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P107	か10	20	18	8	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F9)	P153	か7	53	(43)	62	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P416、カクランに切られる。
P108	か9	24	19	6	長方形	褐色土層(10YR4/4)	(F9)	P154	け6	53	42	27	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P109	か9	34	22	29	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F9)	P155	け6	30	29	7	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P110	き9	24	20	9	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F9)	P156	け6	30	28	20	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P111	き9	30	28	8	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P157	こ7	32	28	27	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P112	き9	26	22	41	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P158	こ7	34	26	27	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P113	き9	25	24	5	方形	黒褐色土層(10YR2/2)		P159	こ7	22	20	13	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P114	欠							P160	こ7	32	22	20	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P115	か8	37	22	81	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	P310を切る。鉄?	P161	け7	30	28	12	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P116	か8	27	27	10	方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P162	け6	57	48	42	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/4)	(F3)
P117	き8	61	50	67	不整形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F8)P437を切る。	P163	欠						
P118	き8	34	22	58	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P164	け8	42	38	47	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P119	か7	34	20	12	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P165	け8	34	31	25	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P120	く8	34	30	58	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P166	く8	28	26	54	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P121	き7	30	20	27	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P167	け7	41	35	54	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P122	か7	38	32	10	長方形	にぶい黄褐色土層(10YR4/3)	カクランに切られる。	P168	く7	40	36	44	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	D36を切る。
P123	か7	52	51	24	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	D68を切る。	P169	く7	17	14	33	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P124	き7	38	34	73	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	P283を切る。	P170	く7	30	30	52	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P125	く6	39	36	46	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	D26を切る。	P171	き12	28	25	26	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P126	く5	36	32	34	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P272を切る。	P172	き12	52	51	16	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P127	く6	38	35	67	方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P173	こ11	21	21	27	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P128	く6	30	26	7	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P174	こ11	26	23	58	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P129	き4	24	18	17	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P175	こ12	36	34	47	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	一辺26cmの方形柱痕あり。
P130	か6	48	48	9	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F1)	P176	こ11	45	41	41	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P131	か6	22	16	35	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P177	こ11	34	30	50	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F4)
P132	か5	24	22	58	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P178	き12	24	23	47	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P133	か5	34	28	73	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F7)	P179	き12	56	50	73	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P134	き5	27	23	23	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F2)	P180	き12	22	18	23	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	内耳1
P135	く4	37	33	14	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P181	こ12	60	58	15	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P136	く4	41	40	67	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F2)	P182	こ10	33	29	13	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P137	お5	36	30	38	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P183	こ11	37	22	67	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P138	お5	23	22	29	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P184	こ11	33	28	41	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	

単独ピット

(残) (推定)

遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考	遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P185	こ11	24	23	25	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P230	え3	43	32	67	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P186	こ11	23	23	33	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F4)	P231	う4	53	50	14	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	内耳1
P187	こ11	20	17	20	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	P210を切る。	P232	う5	50	38	48	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P188	け11	34	32	48	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F4)	P233	う5	103	65	25	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P189	さ12	24	22	8	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P234	い5	75	55	27	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P190	さ11	25	24	35	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F4)P203を切る。	P235	い5	65	60	31	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P191	こ12	52	45	15	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F4)	P236	い5	35	30	44	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P192	け10	20	19	46	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P237	い5	70	44	12	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P193	さ12	47	40	40	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P238	い4	55	50	16	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	かわらけ 16C前
P194	こ11	22	22	48	方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P239	か5	50	38	53	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P438を切る。
P195	さ11	52	32	43	楕円形	褐色土層(10YR4/4)		P240	欠						
P196	こ12	30	(27)	39	円形	褐色土層(10YR4/4)	(F4)	P241	け6	40	35	80	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P197	こ12	46	41	57	楕円形	暗褐色土層(10YR2/3)	(F4)	P242	け6	50	40	64	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F3)
P198	こ12	24	23	41	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P243	<6	44	40	50	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F7)D26に切られる。
P199	さ11	24	19	36	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P244	え8	50	48	30	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P200	こ12	24	20	51	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P245	お9	100	83	30	楕円形	褐色土層(10YR4/6)	
P201	け10	22	22	58	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P246	え9	60	42	66	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.褐色土層(10YR4/6) 3.暗褐色土層(10YR3/4)	
P202	さ11	20	18	10	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P247	え9	80	63	24	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P203	さ11	52	(50)	10	—	褐色土層(10YR4/4)	(F4)P190に切られる。	P248	<4	20	18	14	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F2)
P204	こ8	44	34	56	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P249	<4	25	25	14	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P205	け8	66	66	72	円形	1.暗褐色土層(10YR3/3) 2.褐色土層(10YR4/4) 3.暗褐色土層(10YR3/4)	(F3)	P250	<4	30	20	11	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P206	<7	68	59	58	楕円形	1.暗褐色土層(10YR3/3) 2.褐色土層(10YR4/4)	(F3)D61・62を切る。	P251	き5	30	15	24	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P207	け7	55	45	59	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F3)	P252	き5	28	26	20	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P68に切られる。
P208	け7	66	49	60	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F3)	P253	き5	23	23	33	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P75に切られる。
P209	け8	33	24	38	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P254	き5	18	18	32	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P75に切られる。
P210	こ11	33	30	58	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	P187に切られる。	P255	か5	30	30	62	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P211	こ12	39	30	51	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P256	か4	19	18	37	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P212	こ11	25	25	41	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P257	欠						
P213	か3	40	38	50	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P258	お6	33	30	29	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P214	か2	33	20	30	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P259	お7	25	23	32	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P215	か3	20	18	15	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P260	お7	40	33	25	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P216	き2	25	21	5	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	P399に切られる。	P261	お7	28	25	55	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P217	き3	20	20	29	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P262	か7	25	18	21	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P218	き3	20	20	7	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P263	か7	48	40	26	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P219	き3	20	18	15	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P264	か5	43	40	62	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P220	き3	20	18	48	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P265	き5	33	33	50	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F7)
P221	き3	23	18	17	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P266	き5	45	38	66	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F2)
P222	き4	35	30	39	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P267	き5	18	15	23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P223	き4	35	30	52	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F2)	P268	<5	30	20	40	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F7)
P224	<5	58	48	17	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P269	<5	25	23	12	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F7)
P225	<5	40	38	72	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F2)	P270	き6	28	20	19	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P226	け6	43	33	66	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F3・7)	P271	き6	15	13	29	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P227	き5	30	23	19	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P272	<6	27	25	13	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P126に切られる。
P228	お4	40	38	112	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P273	<6	25	23	16	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P229	お4	85	85	37	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P274	<6	52	36	38	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	

単独ピット

(残) (推定)

遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考	遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P275	く6	49	48	58	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F3)	P321	か13	30	20	66	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P276	く6	35	33	13	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P322	き14	33	24	16	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P277	き6	48	40	42	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P323	き14	24	22	56	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P278	き6	45	35	80	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F7)	P324	き13	68	55	26	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P279	き6	26	25	13	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P325	く14	50	(35)	16	—	暗褐色土層(10YR3/3)	D63に切られる。
P280	欠							P326	き14	34	24	56	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P281	き7	28	23	9	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P327	く14	50	48	12	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P282	き7	40	38	60	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F8)	P328	く14	34	30	68	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P283	き7	38	35	36	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P124に切られる。	P329	く14	30	28	59	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P284	く7	61	50	43	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P330	く15	24	22	14	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P285	き7	30	30	33	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P331	く15	26	22	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F6)
P286	欠							P332	く15	33	30	28	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P287	き8	44	40	58	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F8)	P333	く15	42	40	64	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P288	く8	28	25	23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P334	く15	20	18	24	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P289	く8	50	38	2	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P335	く15	45	25	59	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P290	欠							P336	く16	40	29	58	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P291	く8	35	33	23	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P337	く16	58	46	28	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P292	く9	33	25	33	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P338	く15	38	36	47	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P293	く8	50	45	61	方形	1.暗褐色土層(10YR3/3) 2.暗褐色土層(10YR3/4)		P339	く15	33	33	43	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P294	き9	130	65	58	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	P441に切られる。	P340	く16	18	18	20	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P295	き9	25	15	41	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P341	く16	33	30	69	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P296	か9	35	28	59	長方形	褐色土層(10YR4/4)		P342	け17	40	35	119	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P297	き8	23	20	43	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D11に切られ、D45を切る。	P343	お12	50	50	84	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P429を切る。
P298	き8	40	25	40	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P344	か12	38	35	56	円形	にぶい黄褐色土層(10YR4/3)	Ta10と新旧不明。
P299	き8	28	25	48	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P345	か13	30	30	55	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P300	き8	30	18	21	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	P301を切る。	P346	か13	28	28	43	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P301	き8	18	10	33	—	黒褐色土層(10YR2/3)	P300に切られる。	P347	か14	50	35	59	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P302	き8	30	25	44	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P348	か14	30	30	38	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P303	き8	25	25	46	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P349	か14	75	63	38	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P304	き8	85	58	21	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)		P350	け15	68	56	52	楕円形	—	
P305	き8	90	70	13	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)		P351	き15	35	33	105	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P306	き8	28	25	40	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P352	く15	46	40	74	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F6)
P307	き8	55	45	6	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P353	け15	30	25	53	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P308	か8	38	38	45	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P354	け15	40	30	39	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P309	か8	63	48	56	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	(F8)	P355	け15	30	25	79	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P310	か8	45	43	68	円形	1.暗褐色土層(10YR3/3) 2.褐色土層(10YR4/4)	P115に切られる。内耳1	P356	け14	32	28	64	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P311	か8	43	38	39	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P357	く15	38	30	45	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P312	か8	30	28	32	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P358	く14	35	32	52	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P313	か8	40	25	19	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P359	く14	32	26	80	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P314	か7	45	35	33	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P315に切られる。	P360	く14	38	21	92	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P315	か7	28	(15)	28	—	暗褐色土層(10YR3/3)	P314を切る。	P361	く14	33	33	89	方形	—	M4を切る。
P316	か7	45	45	52	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F8)	P362	け14	48	36	8	楕円形	褐色土層(10YR4/4)	
P317	お8	48	38	39	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D46を切る。	P363	け14	45	26	—	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P318	い5	83	73	32	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P364	け14	18	18	49	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P319	く8	18	15	22	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D45を切る。	P365	欠						
P320	か10	30	23	11	楕円形	—	D47を切る。	P366	か11	48	45	28	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	M2を切る。

単独ピット

(残) (推定)

遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考	遺構名	出土位置	出土位置			平面形	覆土	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P367	か11	23	23	31	円形	-									
P368	か11	30	30	74	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P412	欠						
P369	か11	30	28	78	円形	-		P413	い5	76	60	18	楕円形	灰黄褐色土層(10YR4/2)	
P370	か12	38	28	55	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P414	か3	66	66	16	不整形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P371	か12	55	55	56	円形	暗褐色土層(10YR3/4)		P415	か6	80	72	27	円形	1.褐色土層(10YR4/6) 2.黒褐色土層(10YR2/2)	
P372	き11	28	25	24	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P416	か7	72	(52)	11	-	暗褐色土層(10YR3/3)	(F1)カクランに切られ、P153を切る。
P373	き11	28	24	54	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P417	き7	60	48	34	楕円形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.黒褐色土層(10YR2/3) 3.黒褐色土層(10YR2/3)	(F7)P418・434を切る。
P374	欠							P418	き7	88	85	26	円形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.黒褐色土層(10YR2/2)	P417に切られる。
P375	く11	30	30	3	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P419	い5	90	66	74	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3) 3.黒褐色土層(10YR2/3) 4.褐色土層(10YR4/4)	内耳9
P376	き12	20	18	4	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	D71を切る。	P420	こ7	94	68	24	楕円形	褐色土層(10YR4/4)	(F3)
P377	く12	160	63	17	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	D71に切られる。	P421	こ7	94	80	78	楕円形	褐色土層(10YR4/6)	(F3)
P378	く13	34	25	53	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P422	け6	76	66	57	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR2/2) 3.黒褐色土層(10YR2/3) 4.暗褐色土層(10YR3/4)	(F3)
P379	く14	38	34	69	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F6)	P423	け7	146	88	69	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F3)カクランに切られる。
P380	く14	85	53	30	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	鉄滓55g	P424	こ10	74	60	42	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	
P381	け13	36	26	10	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F5)	P425	う4	84	78	14	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D39を切る。
P382	け13	40	38	43	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P426	お11	140	112	54	楕円形	1.暗褐色土層(10YR3/4) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	P427を切る。
P383	く12	60	50	66	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P427	お12	(114)	84	42	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	P426に切られる。
P384	く13	33	25	32	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P428	お11	92	(66)	19	-	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.褐色土層(10YR4/4)	M1に切られる。
P385	く13	54	42	56	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P429	お12	(106)	76	47	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P343に切られる。
P386	け14	35	33	68	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P430	し13	80	(60)	12	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	カクランに切られる。
P387	け13	25	23	70	方形	褐色土層(10YR4/4)		P431	欠						
P388	こ13	50	45	25	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P432	こ16	94	64	-	長方形	-	
P389	け14	25	25	22	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P433	く15	125	68	57	楕円形	-	
P390	け13	30	24	26	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P434	き6	104	78	24	楕円形	1.暗褐色土層(10YR3/3) 2.黒褐色土層(10YR2/2)	(F1)P417に切られる。
P391	け14	40	40	50	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P435	お10	88	88	-	円形	-	
P392	さ12	30	30	37	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P436	け13	48	34	68	楕円形	-	(F5)
P393	き6	24	14	9	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P437	き8	50	40	55	楕円形	-	P117に切られる。
P394	か6	20	18	6	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P438	か5	38	(25)	-	-	-	P239に切られる。
P395	か6	(28)	(27)	40	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。	P439	か4	28	25	55	楕円形	-	
P396	く14	34	32	68	円形	-	(F6)	P440	こ13	35	33	29	方形	-	
P397	き14	65	63	33	円形	-		P441	き9	25	25	30	円形	-	P294を切る。
P398	欠														
P399	き2	25	22	14	長方形	-	P216を切る。								
P400	く13	43	38	56	楕円形	-	D9に切られる。								
P401	き5	54	30	58	長方形	-	(F7)D43を切る。								
P402	く12	32	26	36	楕円形	-	D71を切る。								
P403	き11	88	48	23	楕円形	-									
P404	こ13	80	76	45	円形	1.暗褐色土層(10YR3/4) 2.暗褐色土層(10YR3/3) 3.暗褐色土層(10YR3/3)									
P405	こ14	84	68	43	楕円形	1.暗褐色土層(10YR3/4) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	縄文1 土師1								
P406	こ13	70	64	34	円形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	D54を切る。								
P407	け12	80	(64)	23	楕円形	褐色土層(10YR4/4)	P28に切られる。 内耳1								
P408	け12	80	74	26	円形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.暗褐色土層(10YR3/4)									
P409	さ15	98	54	26	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	内耳1								
P410	さ15	52	43	22	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)									
P411	欠														

第2表 白岩城跡Ⅲ出土遺物一覽表

(残) (推定)

通番	番号	種類	器種	法		量 (cm)		調整		文	様	外	面	備	考	出土位置
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	(g)	内	面							
1	1	青磁	碗	-	5.0	(1.4)	-	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉				完全実測 底部2/3 龍泉窯 中世	龍泉窯	D 6 5	
2	2	白磁	皿	-	-	-	-	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉				破片実測 口縁破片 15C~16C	中国	北検出	
3	3	陶器	灰釉腰折小皿	(8.6)	-	(1.4)	-	ロクロナデ→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ				回転実測 口縁1/6 大窯1 15C末~16C初頭	大窯1	え 4	
4	4	陶器	灰釉丸皿	-	-	-	-	ロクロナデ→割画文(ヘラ彫)→施釉	ロクロナデ→施釉				破片実測 口縁破片 16C前	大窯2	う 7	
5	5	陶器	灰釉丸皿	(11.8)	-	(2.2)	-	ロクロナデ→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→施釉 (灰釉)				回転実測 口縁1/10 大窯2 16C前	大窯2	う 7	
6	6	陶器	灰釉丸皿	(10.5)	-	(2.2)	-	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉				回転実測 口縁1/8 大窯1 15C末~16C初頭	大窯1	こ 1 6	
7	7	陶器	灰釉丸皿	-	-	-	-	施釉	ロクロナデ→下部ケズリ→上部施釉				図なし 口縁一部 大窯 16C	大窯	す 1 6	
8	8	陶器	灰釉丸皿	-	-	-	-	ロクロナデ→ヘラによる割画文→施釉(灰釉)	ロクロナデ→施釉 (灰釉)				破片実測 口縁破片 16C前	大窯2	北検出	
9	9	陶器	灰釉丸皿	-	(7.0)	(1.1)	-	ロクロナデ→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→高台貼付→施釉 (灰釉)				回転実測 底部1/7 大窯2 16C 底部外面に重ね焼痕あり	大窯2	北検出	
10	10	陶器	灰釉丸皿	-	-	-	-	ロクロナデ→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→施釉 (灰釉)				破片実測 口縁破片 15C末~16C初頭	大窯1	北カクラン	
11	11	陶器	灰釉丸皿	-	(6.6)	(1.1)	-	ロクロナデ→ヘラによる割画文→施釉(灰釉)	ロクロナデ→高台貼付→施釉 (灰釉)				回転実測 底部1/4 大窯2 16C前	大窯2	北検出	
12	12	陶器	灰釉丸皿	-	-	-	-	ロクロナデ→印花文→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→高台貼付→施釉 (灰釉)				破片実測 底部破片 16C	大窯2	北カクラン	
13	13	陶器	灰釉丸皿	-	-	-	-	ロクロナデ→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→施釉 (灰釉)				破片実測 口縁破片 15C末~16C初頭	大窯1	北検出	
14	14	陶器	灰釉輪壳皿	-	-	-	-	ロクロナデ→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)				破片実測 口縁破片 17C前	瀬戸美濃	南検出	
15	15	陶器	天目茶碗	(13.2)	-	(4.7)	-	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)				回転実測 口縁1/8 大窯1 15C末~16C初頭	大窯1	北検出	
16	16	陶器	天目茶碗	-	-	-	-	施釉	下部ケズリ→上部施釉				図なし 口縁一部 大窯 15C末~16C初頭	大窯	北検出	
17	17	陶器	天目茶碗	-	-	-	-	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)				破片実測 口縁破片 15C末~16C	大窯	北	
18	18	土師 瓦器	播鉢	-	-	-	-	播目	ヨコナデ				破片実測 拓本 在地 中世	在地	う 8	
19	19	陶器	鉄釉輪壳皿	(11.0)	-	(2.0)	-	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)				回転実測 口縁1/8 瀬戸美濃 17C前	瀬戸美濃	北カクラン	
20	20	陶器	鉄釉小碗	-	-	-	-	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)				破片実測 口縁破片 17C	瀬戸美濃	南検出	
21	21	陶器	灰釉輪壳皿	-	(6.2)	(1.5)	-	ロクロナデ→施釉 (長石釉)	ロクロナデ→高台貼付				回転実測 底部1/4 瀬戸美濃 17C前	瀬戸美濃	北検出	
22	22	陶器	灰釉碗	-	(6.0)	(1.8)	-	ロクロナデ→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→底部回転系切り→高台貼付→施釉				回転実測 底部1/5 瀬戸美濃 近世末	瀬戸美濃	か 3	
23	23	陶器	灰釉こね鉢	(19.6)	-	(3.9)	-	ロクロナデ→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→施釉 (灰釉)				回転実測 口縁1/10 瀬戸美濃 近世末	瀬戸美濃	か 3	
24	24	陶器	錆釉播鉢	(26.2)	-	(2.7)	-	ロクロナデ→施釉 (錆釉)	ロクロナデ→施釉 (錆釉)				回転実測 口縁1/16 前山 18C末~19C前	前山	D 6 1	
25	25	陶器	鉄釉碗	(11.0)	-	(5.2)	-	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)				回転実測 口縁1/6 前山 18C末~19C前	前山	す 1 6	
26	26	陶器	錆釉 (土鍋)蓋	(16.8)	-	(2.7)	-	ロクロナデ→施釉 (鉄釉)	ロクロナデ→鋸戸→施釉 (錆釉)				回転実測 口縁1/12 前山 幕末	前山	北検出	
27	27	陶器	灰釉輪壳皿	-	-	-	-	ロクロナデ→施釉 (灰釉)	ロクロナデ→施釉 (灰釉)				破片実測 口縁破片 18C初頭	唐津	さ 1 5	
28	28	陶器	灰釉碗	-	-	-	-	施釉	下部ケズリ→上部施釉				図なし 口縁一部 瀬戸美濃 近世末	瀬戸美濃	え 5	
29	29	陶器	灰釉碗	-	-	-	-	施釉	施釉				図なし 口縁一部 瀬戸美濃 近世末	瀬戸美濃	し 1 7	
30	30	陶器	灰釉碗	-	-	-	-	施釉	施釉				図なし 口縁一部 瀬戸美濃 近世末	瀬戸美濃	北検出	
31	31	陶器	灰釉こね鉢	-	-	-	-	施釉	施釉				図なし 口縁一部 瀬戸美濃 近世末	瀬戸美濃	北検出	

(残) (推定)

通番番号	種類	器種	法量 (cm)		内面	調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)		器高(厚)	(g)		
32	陶器	灰釉鉢	-	-	施釉	施釉	口縁一部 瀬戸美濃	カクラン	
33	陶器	灰釉碗	-	-	施釉	口クロナデ→施釉	口縁一部 瀬戸美濃	南検出	
34	陶器	陶胎碗	-	-	施釉	施釉	口縁一部 伊万里	北検出	
35	磁器	染付碗	-	-	施釉	施文 施釉	口縁一部 伊万里	北検出	

内耳

通番番号	種類	器種	法量 (cm)		内面	調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)		器高(厚)	(g)		
36	土師質器	内耳	27.0	23.0	16.7	口クロナデ→下半部ヘラナデ	口縁3/4 底部3/4	D11	
37	土師質器	内耳	-	(22.4)	(11.7)	ナデ	底部1/4 16C	P419	
38	土師質器	内耳	-	-	-	ヨコナデ→耳貼付	底部1/8 16C	D45	
39	土師質器	内耳	-	-	-	口クロナデ→ナデ	口縁破片 16C	D54	
40	土師質器	内耳	-	-	-	口クロナデ	口縁→底部1/8 16C	1号石列 け13	
41	土師質器	内耳	(28.2)	(22.6)	13.3	口クロナデ→胴部ナデ	口縁1/3 底部1/4 16C	う4	
42	土師質器	内耳	-	-	-	口クロナデ→胴部ナデ	口縁1/8 16C中	北検出	
43	土師質器	内耳	-	-	-	口クロナデ→ナデ	口縁1/6 底部1/8 16C	北検出	
44	土師質器	内耳	-	-	-	口クロナデ	口縁1/5 15C末	う6 北検出	

かわらけ

通番番号	種類	器種	法量 (cm)		内面	調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)		器高(厚)	(g)		
45	土師質器	かわらけ	-	(5.0)	(1.6)	口クロナデ→底部回転系切り	底部1/2 16C前	D61	
46	土師質器	かわらけ	-	-	-	口クロナデ	口縁破片 近世	D61	
47	土師質器	かわらけ	-	-	-	口クロナデ	口縁破片 16C前	D15	
48	土師質器	かわらけ	(7.8)	5.0	2.2	口クロナデ→底部回転系切り	完全実測 口縁1/3 底部2/3 内外面煤付着 16C前	P426	
49	土師質器	かわらけ	(8.3)	(5.2)	2.4	口クロナデ→底部回転系切り	回転実測 口縁→底部1/2 16C前	D51	
50	土師質器	かわらけ	-	-	-	口クロナデ	破片実測 近世	く14	
51	土師質器	かわらけ	(8.0)	(4.4)	2.0	口クロナデ→底部回転系切り	回転実測 口縁→底部1/4 16C前	し15	
52	土師質器	かわらけ	(8.5)	(6.0)	2.1	口クロナデ→底部回転系切り	回転実測 口縁一部 底部 1/3 16C前	北検出	
53	土師質器	かわらけ	-	-	-	口クロナデ→底部ナデ	破片実測 16C前	北検出	

火鉢

通番番号	種類	器種	法量 (cm)		内面	調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)		器高(厚)	(g)		
54	土師質器	火鉢	-	-	-	ヨコナデ	口縁破片	D51	
55	土師質器	火鉢	-	-	-	口クロナデ→ミガキ 摩滅	口縁破片 在地近世	け17	
56	土師質器	火鉢	-	-	-	ナデ	口縁破片 近世	カクラン	

通番 番号	種類 土師質 土器 土師窯 土器	器種 土板 土板	法		口径(長)	底径(幅)	量 (cm)		(g)	内面	外面	備考	出土位置
			最大長	最大幅			器高(厚)	最大厚					
57	1	土板	4.6	5.3	0.6							内耳の二次利用 中世	き9
58	2	土板	2.7	2.5	0.8							内耳の二次利用 中世	北カクラン

通番 番号	種類	器種	法		最大長	最大幅	量 (cm)		(g)	備考	出土位置
			最大長	最大幅			器高(厚)	最大厚			
59	1	鉄製品	7.6	0.6	0.5	0.6	0.5	6.85		上下部欠損	P 404
60	2	銅製品	4.0	2.5	1.3	4.0	1.3	6.55		欠損と変形あり	D 54
61	3	鉄製品	17.8	0.6	0.6	17.8	0.6	10.90		上下部欠損	D 54
62	4	銅製品	1.6	0.7	0.05	1.6	0.05	0.18		周囲欠損	P 427
63	5	鉄製品	5.1	0.5	0.5	5.1	0.5	1.85		下部欠損	D 65
64	6	鉄製品	3.2	0.5	0.4	3.2	0.4	1.09		上下部欠損	D 65
65	7	鉄製品	8.5	1.4	0.9	8.5	0.9	9.36		片側欠損	P 178
66	8-1	鉄製品	4.2	0.6	0.9	4.2	0.9	3.41		上下部欠損	P 256
67	8-2	鉄製品	4.3	0.7	0.9	4.3	0.9	3.36		下部欠損	P 256
68	8-3	鉄製品	5.2	0.9	0.5	5.2	0.5	2.83		欠損部あり	P 256
69	8-4	鉄製品	3.5	1.2	0.8	3.5	0.8	3.12		下部欠損、不明遺物付着	P 256
70	8-5	鉄製品	6.2	0.5	0.5	6.2	0.5	2.91		上下部欠損	P 256
71	8-6	鉄製品	3.7	1.5	0.5	3.7	0.5	2.31		上下部欠損	P 256
72	8-7	鉄製品	1.9	0.9	0.4	1.9	0.4	0.55		上下部欠損	P 256
73	9	鉄製品	5.5	0.9	0.5	5.5	0.5	2.52		欠損部あり	P 261
74	10	漆製品	4.1	4.9	0.7	4.1	0.7	2.46			P 380
75	11	鉄製品	3.8	1.0	0.4	3.8	0.4	1.75		下部欠損	南掘9層
76	12	鉄製品	7.2	0.5	0.5	7.2	0.5	4.75		上下部欠損	北検出
77	13	鉄製品	13.1	1.3	1.0	13.1	1.0	24.30		鎌身部・茎部欠損	く4
78	14	鉄製品	5.8	1.1	0.3	5.8	0.3	4.89		両側欠損	い5
79	15	鉄製品	4.2	0.7	0.5	4.2	0.5	1.84		一部欠損	い5
80	16	銅製品	3.5	1.9	1.7	3.5	1.7	6.42		内面に突起あり	う6 No.5
81	17	鉄製品	9.4	2.5	0.6	9.4	0.6	16.21			う5 No.7
82	18-1	鉄製品	3.5	1.6	0.8	3.5	0.8	3.58		右部分欠損	う7
83	18-2	鉄製品	2.3	1.6	0.1	2.3	0.1	1.34		両側欠損	う7
84	19	鉄製品	2.8	1.4	0.7	2.8	0.7	2.00		環状か?	お6 No.10
85	20	鉄製品	4.0	1.4	0.4	4.0	0.4	3.78		両側欠損	お8
86	21	銅製品	3.7	1.1	0.3	3.7	0.3	1.13		線刻文様あり 周囲欠損	D 65 お10周辺
87	22	鉄製品	5.9	0.4	0.7	5.9	0.7	2.04		環状の縁部分	か11 No.2

(残) (推定)

通番	番号	種類	器種	法			量 (cm)	備考	出土位置
				最大長	最大幅	最大厚			
88	23	鉄製品	管	(2.9)	0.7	0.7	(1.77)	両側欠損	か11 No.13
89	24	鉄製品	角釘	(3.5)	0.9	0.4	(1.84)	下部欠損	き11 No.11
90	25	鉛	?	2.1	1.5	0.7	6.87	鉄ではない	く12
91	26	銅製品	?	1.9	0.8	0.8	1.93	環状 径0.8	き13
92	27	鉄製品	鏃	(7.5)	2.8	0.45	(18.90)	基部欠損	く13
93	28	鉄製品	角軸	(12.1)	2.8	0.7	(17.07)	上下部欠損	こ14
94	29	銅製品	煙管	7.3	1.0	1.2	7.01		す16
95	30	銅製品	帯金具	2.4	2.4	0.35	1.70		こ17 No.15
96	31	鉄製品	角軸	(7.3)	0.7	0.5	(9.71)	上下部欠損	け18 No.20
97	32	鉄製品	角釘	(7.6)	0.4	0.4	(10.45)	上下部欠損	こ18
98	33	鉄製品	角釘	(7.0)	0.6	0.5	(4.77)	頭部欠損	北検出
99	34	鉄製品	角釘	(3.0)	0.5	0.3	(0.97)	頭部・先端部欠損	北検出
100	35	鉄製品	角釘	(4.3)	0.8	0.6	(2.71)	先端部欠損	北検出
101	36	鉄製品	刀子	(4.5)	1.6	0.4	(6.22)	両端部欠損	北カクラン
102	37	鉄製品	角釘	4.1	0.8	0.4	1.64		北検出
古銭									
通番	番号	種類	器種	法			量 (cm)	備考	出土位置
				最大長	最大幅	最大厚			
103	1	青銅製品	古銭	2.4	2.4		3.24	至道元宝(初鑄年995)	D 6 8
104	2	青銅製品	古銭	2.4	2.4		2.76	天聖元宝(初鑄年1023)	い5 No.4
105	3	青銅製品	古銭	2.3	2.3		2.29	熙寧元宝(初鑄年1068)	い5 No.1
106	4	青銅製品	古銭	2.4	2.3		1.93	紹聖元宝(初鑄年1094)	う6 No.8
107	5	青銅製品	古銭	2.4	2.4		3.27	元祐通宝(初鑄年1086)	い7 No.6
108	6	青銅製品	古銭	-	-		0.58	〇〇通宝	お7 No.9
109	7	青銅製品	古銭	-	-		0.65	開〇通宝(初鑄年845)	お6 No.11
110	8	青銅製品	古銭	2.3	2.3		2.38	寛永通宝	お11 No.1
111	9	青銅製品	古銭	2.4	2.4		3.17	永樂通宝(初鑄年1408)	か12 No.3
112	10	青銅製品	古銭	2.0	2.0		2.81	洪武通宝(初鑄年1368)	き12 No.1
113	11	青銅製品	古銭	2.1	2.1		2.04	〇〇〇〇	け11 No.19
114	12	青銅製品	古銭	-	-		2.60	洪武通宝(初鑄年1368)	き13 No.2
115	13	青銅製品	古銭	2.3	2.3		3.11	紹聖元宝(初鑄年1094)	き15 No.3
116	14	青銅製品	古銭	-	-		-	〇〇〇〇	し15
117	15	青銅製品	古銭	-	-		0.85	元〇〇宝	さ15

通番番号	種類	器種	法			量 (cm)	備考	出土位置
			最大長	最大幅	最大厚			
118	青銅製品	古銭	-	-	-	1.12	○永通〇	す16
119	青銅製品	古銭	-	-	-	1.06	祥符元宝(初鑄年1009)	こ18 No.17
120	青銅製品	古銭	2.4	2.4	-	3.24	寛永通宝	こ17 No.16
121	青銅製品	古銭	2.2	2.2	-	1.83	元祐通宝?(初鑄年1086)	表探
122	青銅製品	古銭	2.4	2.4	-	2.53	永楽通宝(初鑄年1048)	カクラン
123	青銅製品	古銭	-	-	-	1.79	洪武通宝(初鑄年1368) 細片にて図版なし	カクラン

石製品

通番番号	種類	器種	法			量 (cm)	備考	出土位置
			最大長	最大幅	最大厚			
124	石器	支脚石?	(9.1)	(6.3)	(4.3)	(248.03)	被熱あり(正裏黒化) 下部欠損 正面に敲打様の痕 安山岩	D11
125	石器	編物石	(12.4)	(6.1)	(3.7)	(483.53)	被熱なし 下部部~裏面欠損 安山岩	え4
126	石器	編物石	(12.1)	(5.0)	(4.1)	(264.80)	被熱なし 下部欠損 安山岩	お11
127	石器	編物石	14.2	3.9	2.4	216.62	被熱なし 安山岩	け16
128	石器	編物石	12.1	4.5	2.3	219.71	被熱あり(正裏黒化) 剥離は古い段階のものと思われる 裏面に磨面有り	こ~せ17
129	石器	編物石	(11.3)	(4.3)	(3.1)	(224.90)	被熱あり(上部部~裏面・左側黒化) 下部欠損 抉りのための剥離か	北検出
130	石器	編物石	(8.7)	(3.8)	(2.8)	(157.29)	被熱なし 下部欠損上部部は敲打痕か	北検出
131	石器	編物石	(9.5)	(8.0)	(3.2)	(474.56)	被熱なし 両側欠損 裏面に剥離痕あり	カクラン
132	石器	軽石製品	5.8	5.5	4.5	67.88	被熱なし 正面に条痕 裏面に加工痕 磨石	D44
133	石器	軽石製品	9.5	7.0	3.2	88.87	被熱なし 全体にすり整形 正面に条痕 磨石	D54
134	石器	軽石製品	(5.9)	6.7	2.2	(29.14)	被熱なし 一部欠損 凹中に条痕 凹深5.5 凹深1.5 凹石	え3
135	石器	砥石	(9.9)	(5.2)	(2.5)	(141.81)	被熱あり (全体に黒化) 上部・左側~裏面欠損 砥面数3(正面に幅のある条痕、左側に深さのある条痕)凝灰岩	D62
136	石器	硯	(8.0)	(4.6)	(2.5)	(129.71)	被熱あり(正面~両側黒化) 上部欠損 砥面数3(右側と裏面に溝状の条痕) 砥石転用 凝灰岩	い5 No.2
137	石器	砥石	(3.4)	(3.3)	(2.0)	(29.82)	被熱なし 上部欠損 砥面数4(裏面に幅のある条痕) 凝灰岩	い4
138	石器	砥石	(6.3)	(3.1)	(1.7)	(46.72)	被熱なし 上下部欠損 砥面数4(正面、左側に幅のある条痕)両面から穿孔 孔径0.3 0.35 凝灰岩	D11
139	石器	磨石	(17.2)	(7.0)	(4.6)	(923.64)	被熱あり?(正面 褐色部分あり) 下部欠損 右側すり顕著 安山岩	南堀
140	石器	砥石	(5.9)	(2.5)	(1.6)	(37.81)	被熱なし 上部欠損 砥面数5(正面に条痕) 凝灰岩	お11
141	石器	砥石	(7.4)	(4.5)	(3.5)	(97.15)	被熱なし 上部欠損 砥面数4(裏面に条痕) 凝灰岩	北検出
142	石器	砥石	(9.0)	(3.5)	(1.7)	(55.17)	被熱あり 上部~左側欠損 砥面数4(4面とも条痕あり)上部部は穿孔痕あり 凝灰岩	北検出
143	石器	硯	(7.0)	(5.1)	(1.2)	(64.76)	被熱なし 上・下部~裏面欠損 裏面に擦痕顕著 粘板岩	こ16 No.18
144	石器	硯	(5.4)	(4.7)	(0.7)	(23.24)	被熱なし 正面剥落 裏面に条痕のこる 朱付着? 粘板岩	北検出
145	石器	スクレイパー	13.0	9.3	1.5	251.23	被熱あり(黒褐色の部分あり) 正裏とも自然面 周囲の剥離面は使用痕か? 安山岩	D39
146	石器	打製石斧	(6.1)	(7.7)	(1.2)	(68.03)	被熱なし 上部~左側欠損 正面自然面 安山岩	北検出
147	石器	編物石	(11.1)	(5.8)	(3.1)	(374.44)	被熱あり(正面上~下側面黒化)下側面を残し、周囲欠損、正面に滑らかな面 安山岩	南堀

(残) (推定)

通番 番号	種類	器種	法量 (cm)		備考	出土位置	
			最大長	最大幅			
148	石器	編物石	19.0	5.3	506.33	P11	
149	石器	合石	(17.7)	(11.9)	(1.330)	う8	
150	石器	合石	(22.7)	(17.0)	(2.480)	カクラン	
151	石器	五輪鏝 (地輪)	16.7	23.5	10.480	う8	
152	石器	五輪鏝 (火輪)	15.0	21.2	(2.490)	D54 No.1	
153	石器	茶臼(下臼)	(14.6)	(6.1)	(305.42)	き10	
154	石器	茶臼(上臼)	(10.5)	(9.2)	(841.22)	カクラン	
155	石器	茶臼(上臼)	(16.9)	(11.8)	(2.150)	カクラン	
156	石器	茶臼 (下臼台部)	(23.9)	(15.8)	(2.290)	南掘	
157	石器	粉挽臼 (上臼)	(19.2)	(18.2)	(2.240)	P 421(F 3)	
158	石器	粉挽臼 (上臼)	(19.7)	(12.7)	(2.730)	1号石列 No.1	
159	石器	粉挽臼 (下臼)	(18.7)	(15.2)	(3.110)	1号石列 No.2	
160	石器	粉挽臼 (上臼)	(20.3)	(17.2)	(3.080)	う7	
161	石器	粉挽臼 (下臼)	(22.4)	(15.9)	(3.500)	D52	
162	石器	粉挽臼 (下臼)	(28.1)	(16.6)	(4.290)	お6	
163	石器	石鏝	(1.8)	(1.3)	(0.63)	え5	
164	石器	石鏝	2.3	1.8	0.80	き13 No.14	
165	石器	剥片	2.3	1.5	2.95	け14	
166	石器	石匙	(3.8)	(3.5)	(7.74)	し16カクラン	
骨							
通番 番号	種類	器種	法量 (cm)		備考	出土位置	
			最大長	最大幅			
167	骨		(8.7)	4.4	(11.88)	う7	
168	骨		3.4	2.5	(11.40)	き8	
169	骨		(3.5)	(1.4)	(1.64)	え8	
縄文・弥生土器							
通番 番号	種類	器種	法量 (cm)		調整・文様 内面 外面	備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)			
170	縄文	土板	4.3	4.1	0.9		P 405
171	縄文	深鉢	-	-	-	ナデ	D51
172	縄文	浅鉢	-	-	-	ミガキ→沈線	拓本
173	弥生	壺	-	-	-	ミガキ→赤彩 ヘラ描沈線 ヘラ描格子文	拓本



白岩城跡Ⅲ 遠景（北より）



白岩城跡Ⅲ 全景（西より）



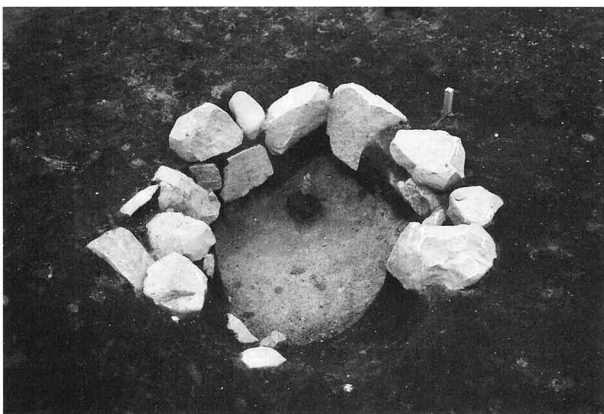
白岩城跡Ⅲ 虎口付近 (西より)



D65 完掘 (西より)



D65 堀方、P435 (西より)



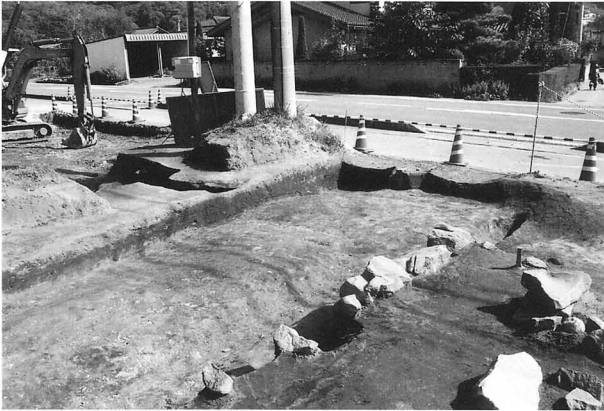
D66 完掘 (東より)



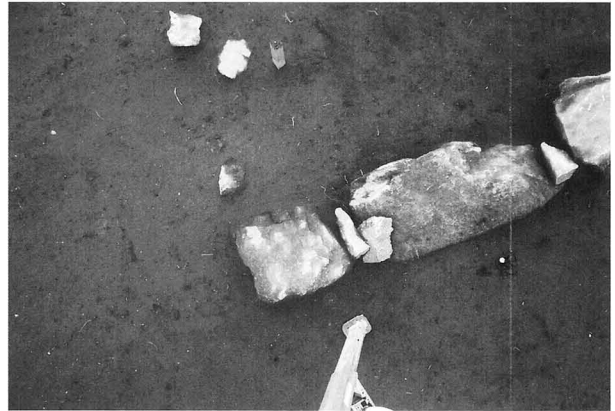
D66 堀方、D47 完掘 (西より)



お・か11グリッド 土塁裾石列2~4 (西より)



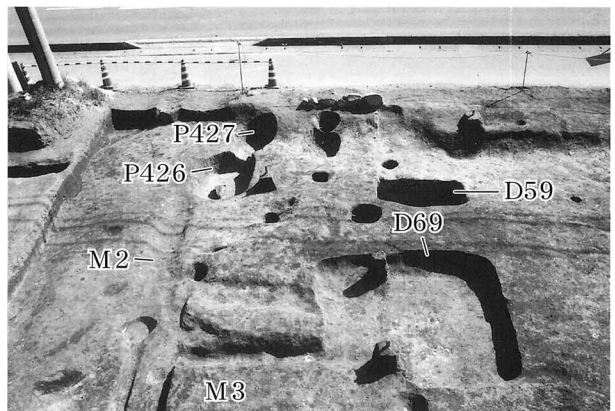
お・か11グリッド 土塁裾石列3 (北西より)



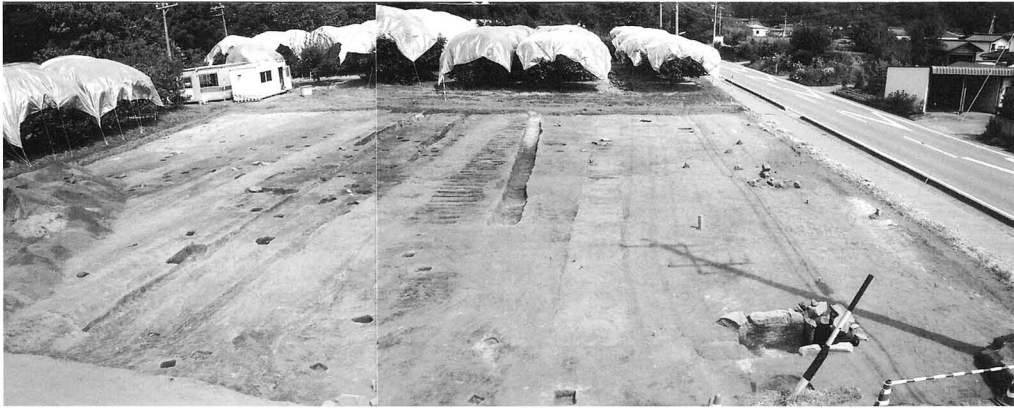
お11グリッド 土塁裾石列3 (北より)



か11グリッド 南側土塁裾石列2 (南より)



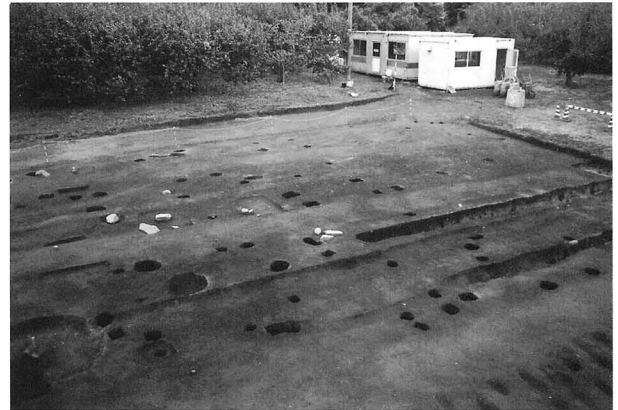
D59・D69、P426・P427、M2・M3 完掘 (西より)



北区全景（南より）



北区南西部（東より）



北区北西部（南東より）



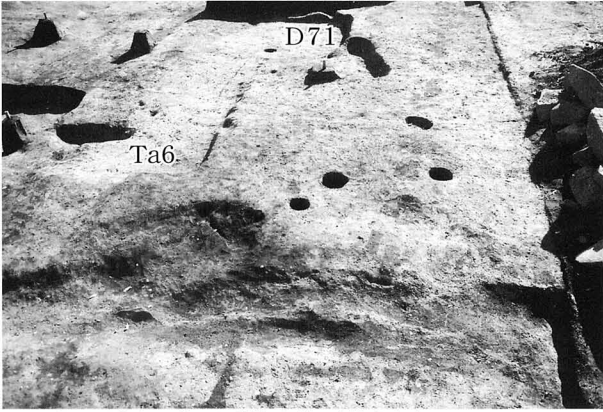
北区全景（北より）



北区東側（西より）



D41・D44・石組1 完掘（南より）



き11グリッド石列除去後（北より）



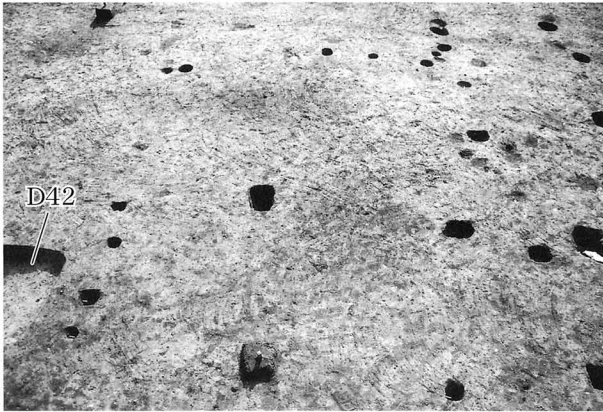
南区南東部（北西より）



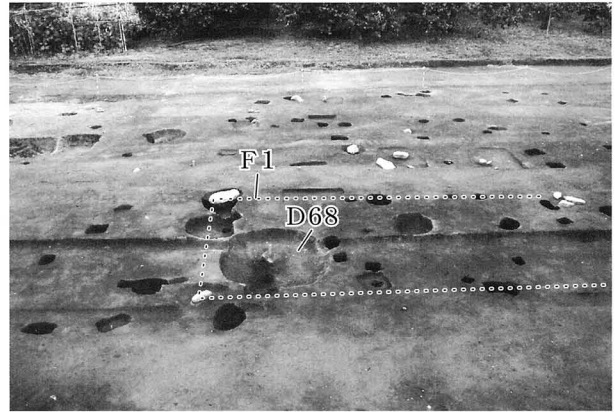
南区東部（西より）



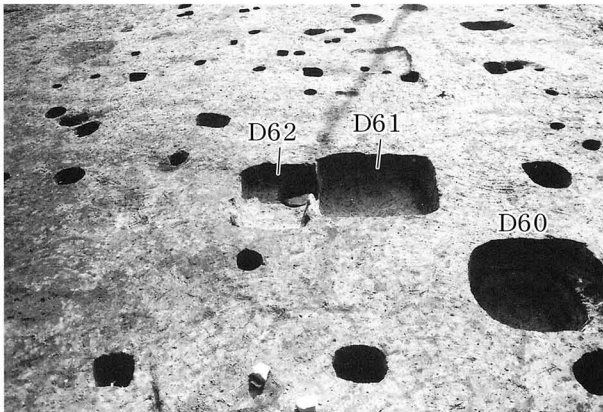
南区南西部（北より）



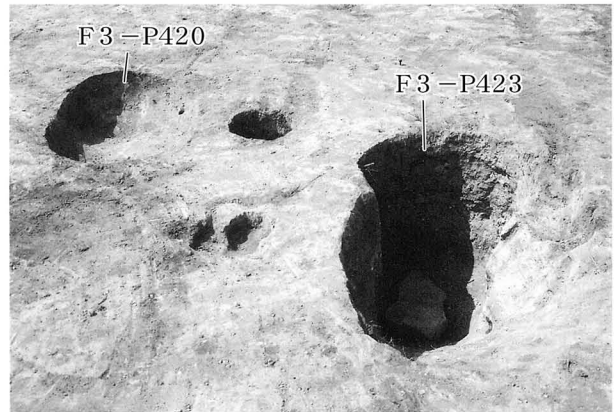
F2 完掘（西より）



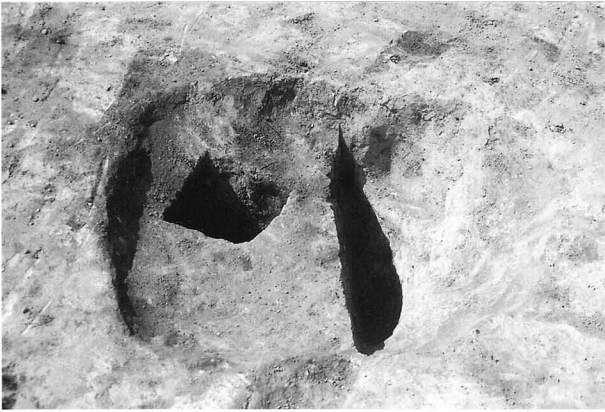
F1、D68 完掘（東より）



F3、D60～D62 完掘（西より）



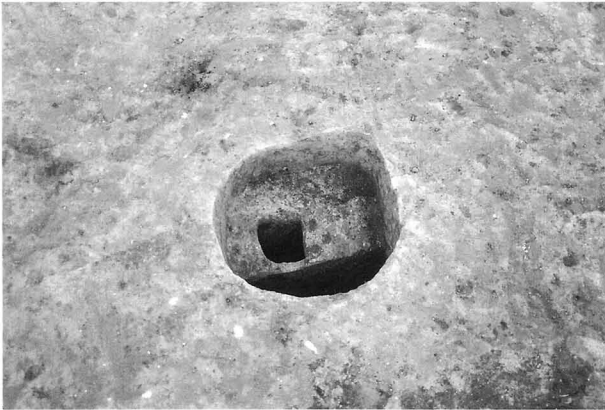
F3-P420・P423 完掘（南東より）



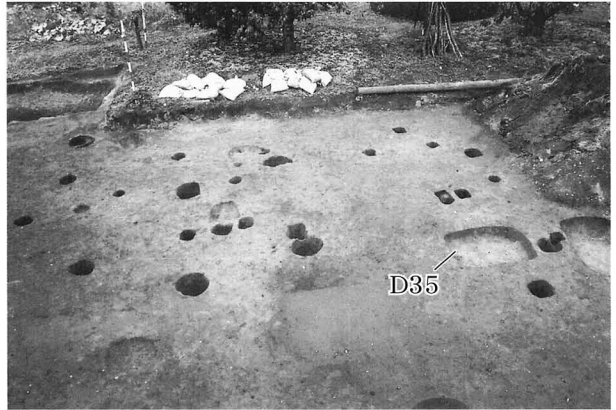
F3-P421 柱痕 (東より)



F3-P421 遺物出土状況 (北より)



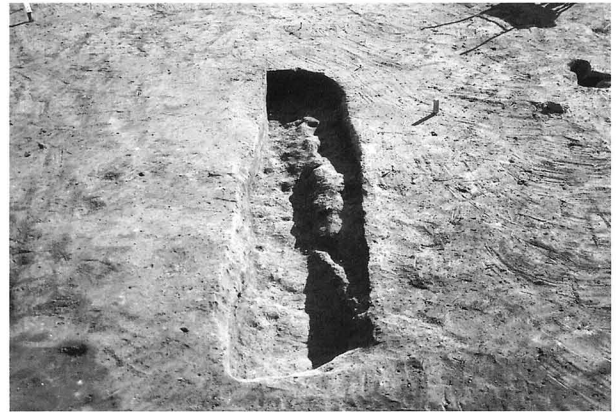
F3-P205 柱痕 (南より)



F4 完掘 (東より)



Ta6 完掘 (北より)



Ta6 堀方 (北より)



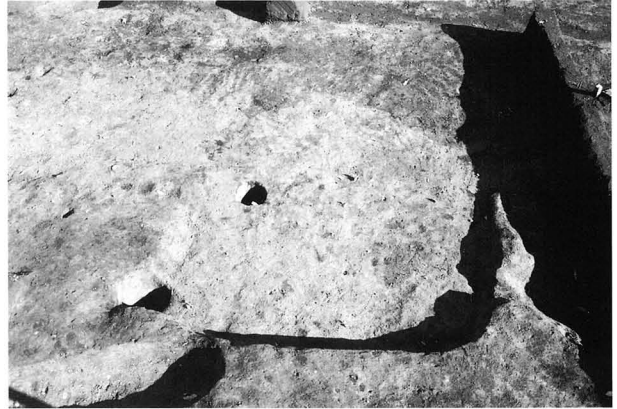
Ta6・Ta10・D59・D69 完掘 (北より)



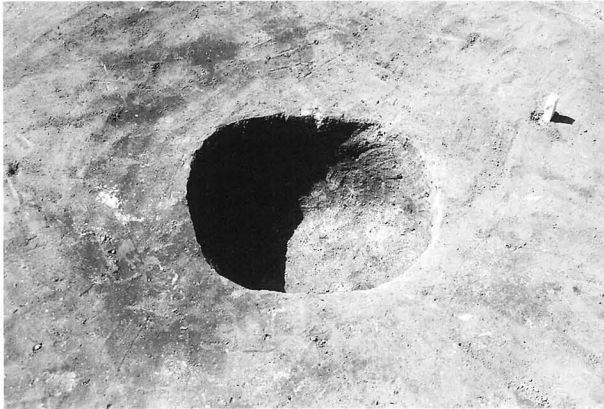
D69 完掘 (南より)



D70 完掘 (西より)



D71 完掘 (西より)



D4 完掘 (北東より)



D9 完掘 (北より)



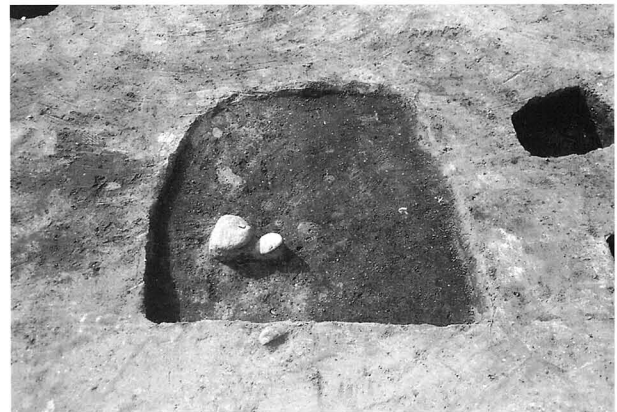
D10 完掘 (西より)



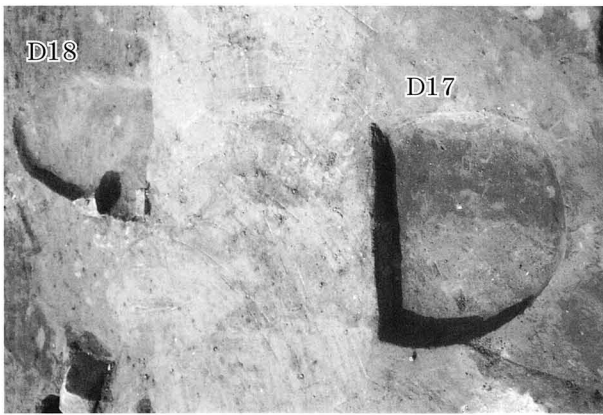
D11 完掘 (南より)



D13 完掘 (東より)



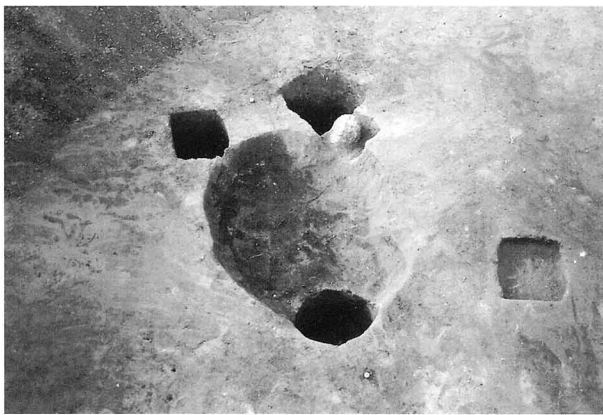
D14 完掘 (東より)



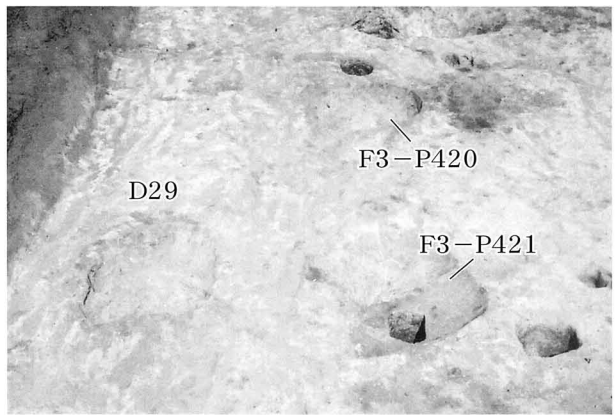
D17・D18 完掘 (南より)



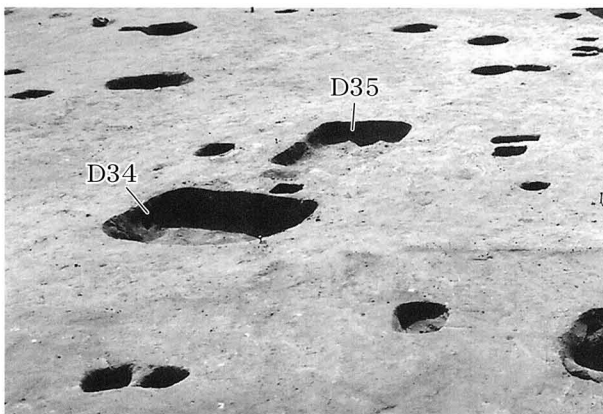
D21 完掘 (南東より)



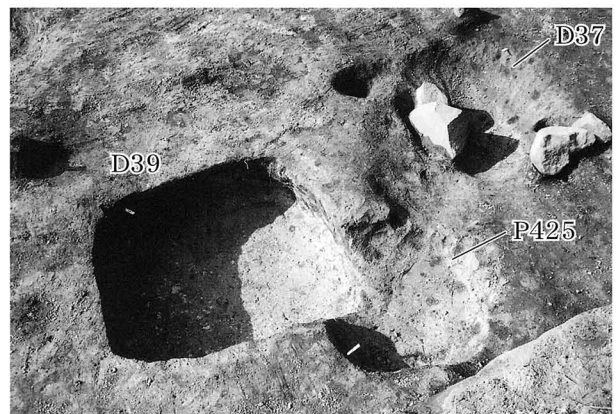
D26 完掘 (東より)



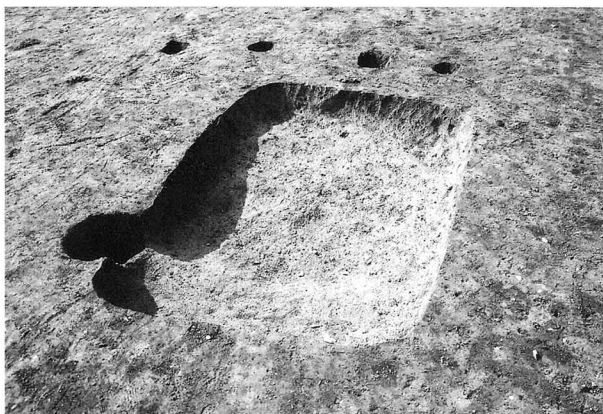
D29、F3-P420・P421 完掘 (南より)



D34・D35 完掘 (北より)



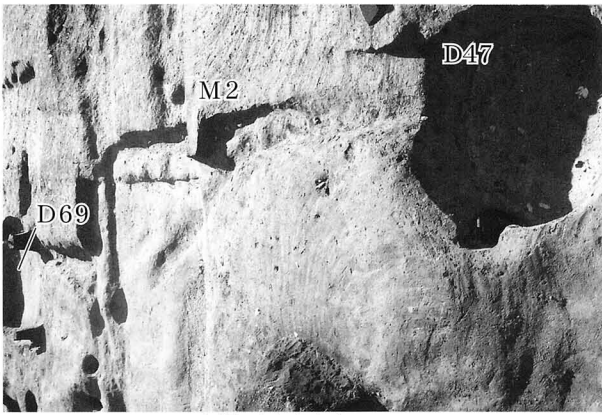
D37・D39、P425 完掘 (北より)



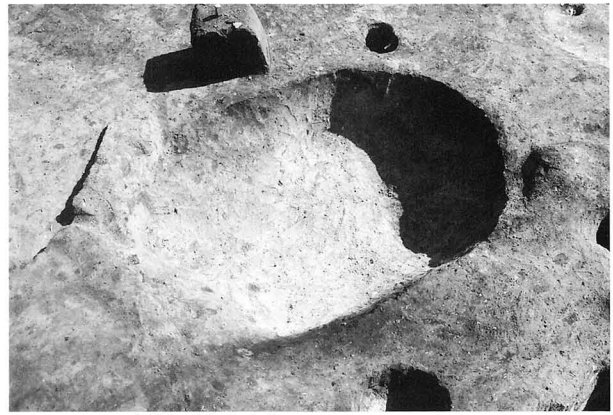
D42 完掘 (北より)



D42・D43、北区全景 (北より)



D47、M2 完掘（東より）



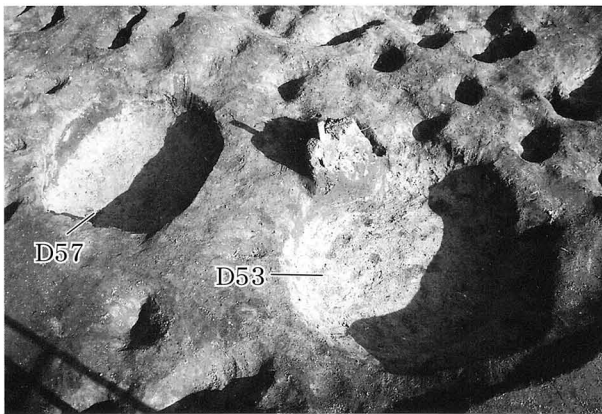
D51 完掘（東より）



D52 礫出土状況（北より）



D52 完掘（北より）



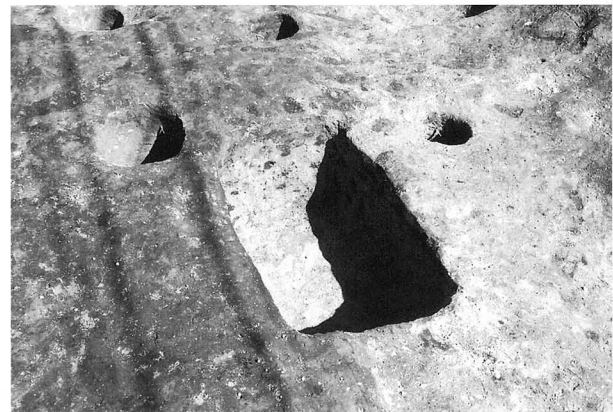
D53・D57 完掘（南より）



D54 完掘（南より）



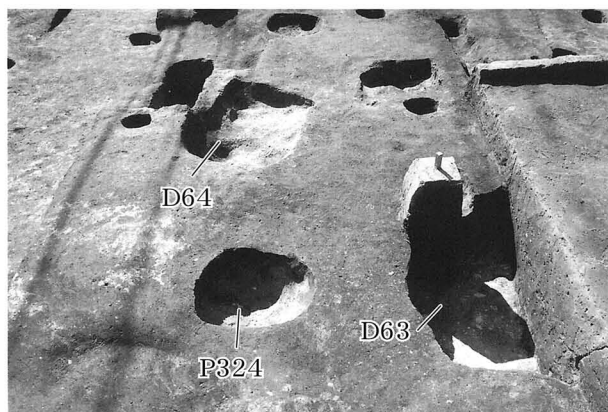
D54 完掘、石列1（北西より）



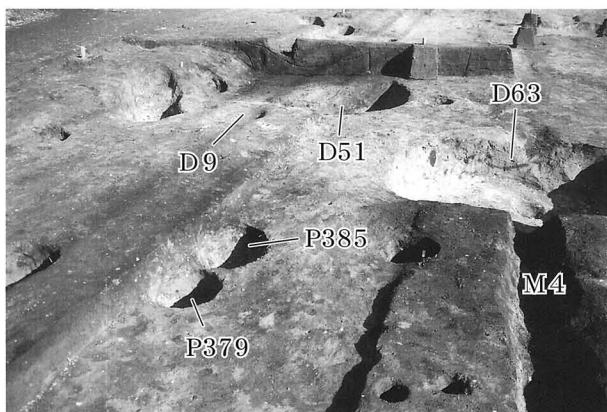
D59 完掘（南より）



D60 完掘 (東より)



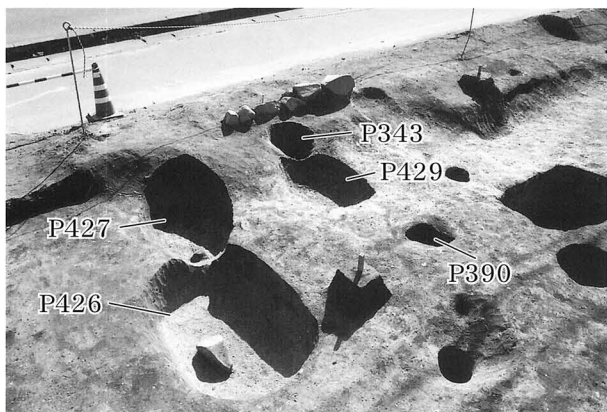
D63・D64、P324 完掘 (北より)



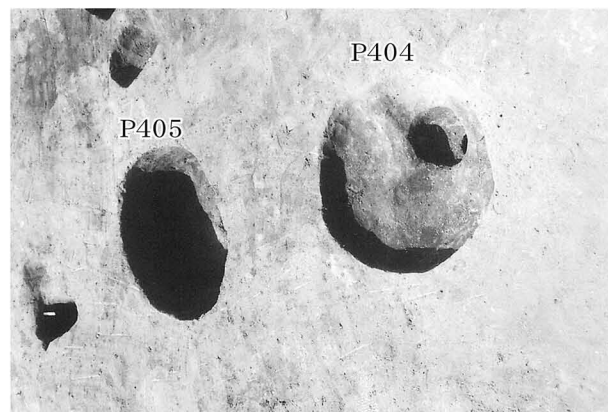
D9・D51・D63、M4、H6、P379・P385 完掘 (南より)



F4、こ11～さ13グリッド ピット群 (東より)



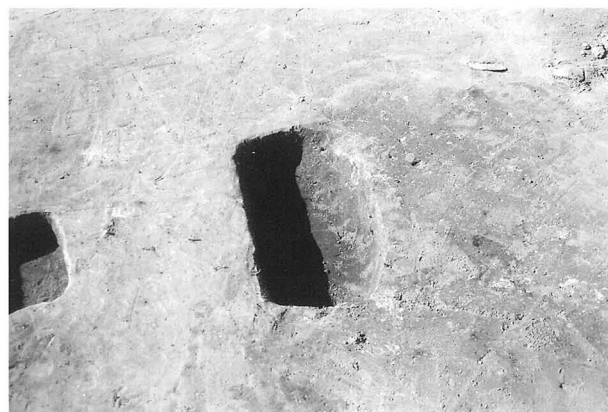
P343・P390・P426・P427・P429 完掘 (北より)



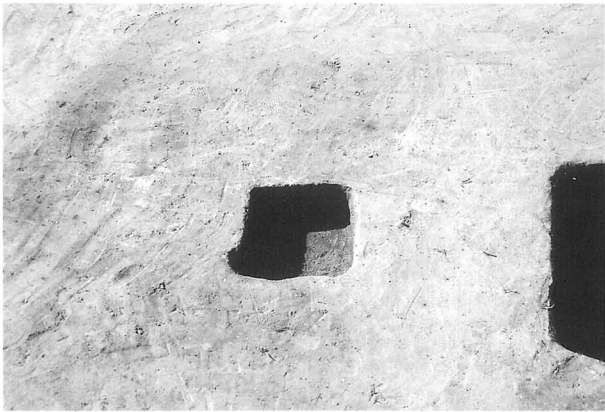
P404・P405 完掘 (東より)



P408 完掘 (北より)



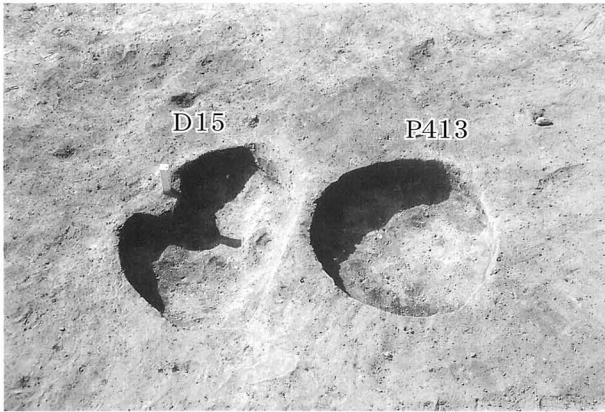
P409 完掘 (北より)



P410 完掘 (北より)



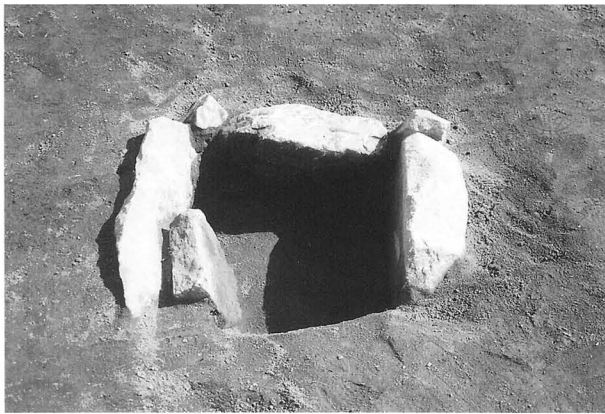
D12 完掘 (東より)



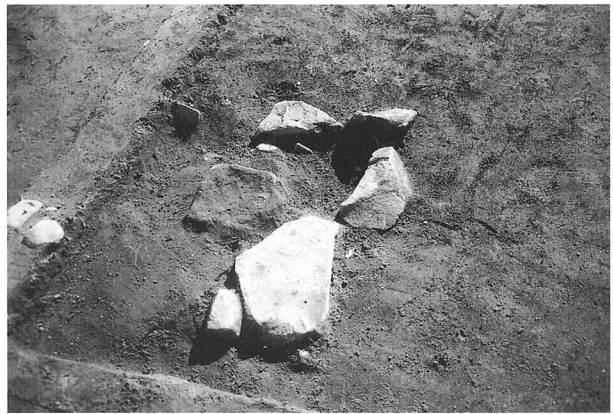
D15・P413 完掘 (東より)



P414 完掘 (東より)



D72 完掘 (西より)



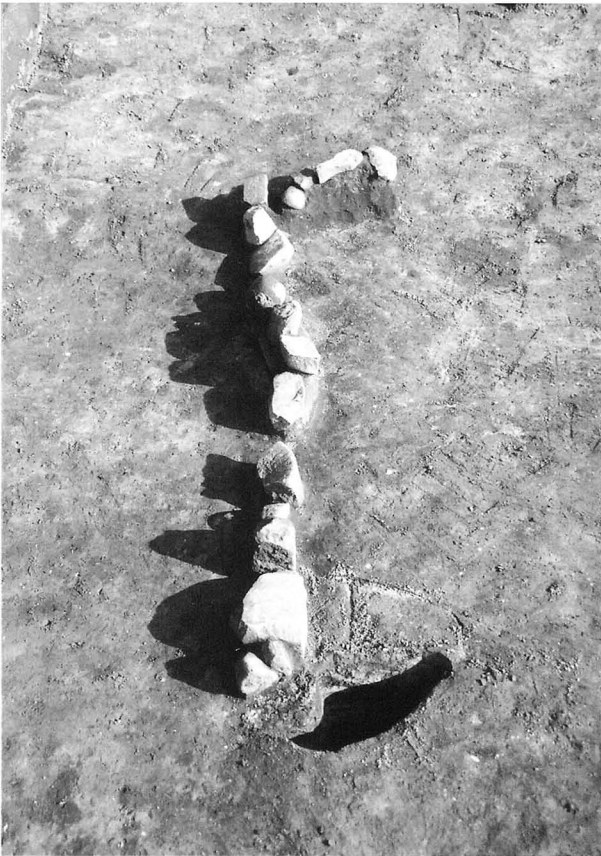
P432 完掘 (北より)



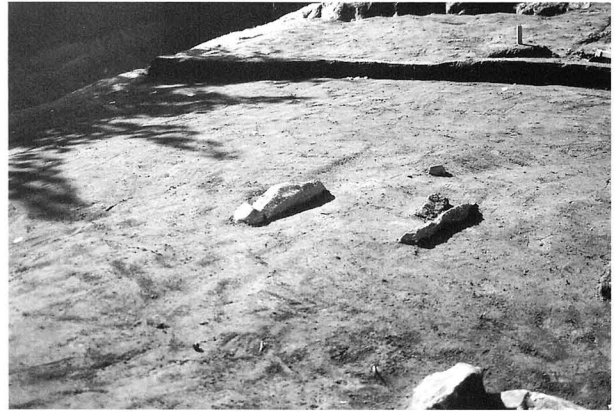
P435 完掘 (東より)



石組1 完掘 (西より)



石列1 (南より)



こ16グリッド (東より)



さ13グリッド (南東より) ※写真のみ



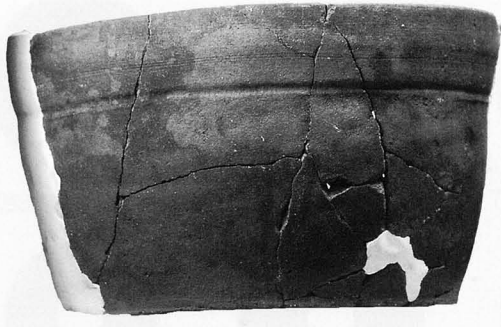
東土墨北側 (南より)



石列4 (お12グリッド、北より)



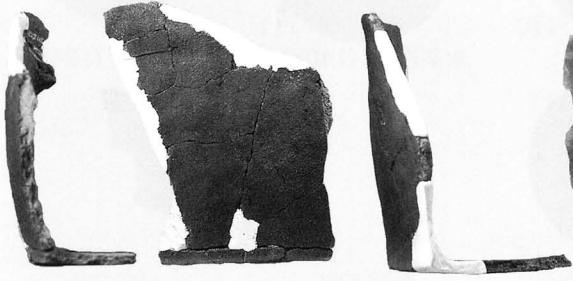
南堀 完掘 (東より)



36



37



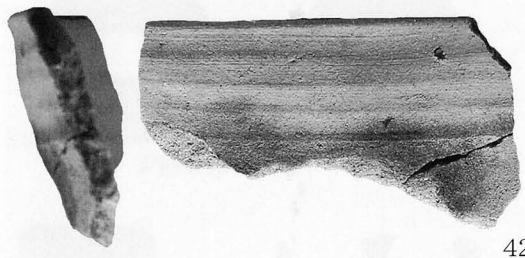
38



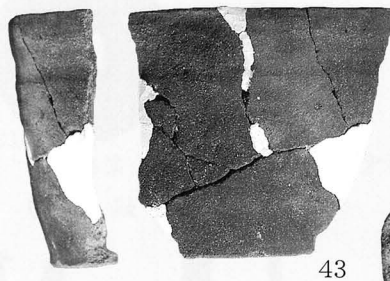
40



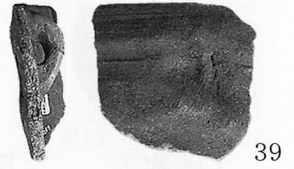
41



42



43



39



44

内 耳



54



55



56

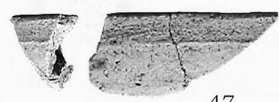
火 鉢



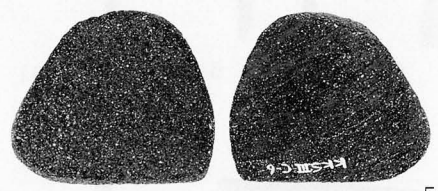
45



46



47



57



48



49



58

土 板



50

からわけ (1:2)



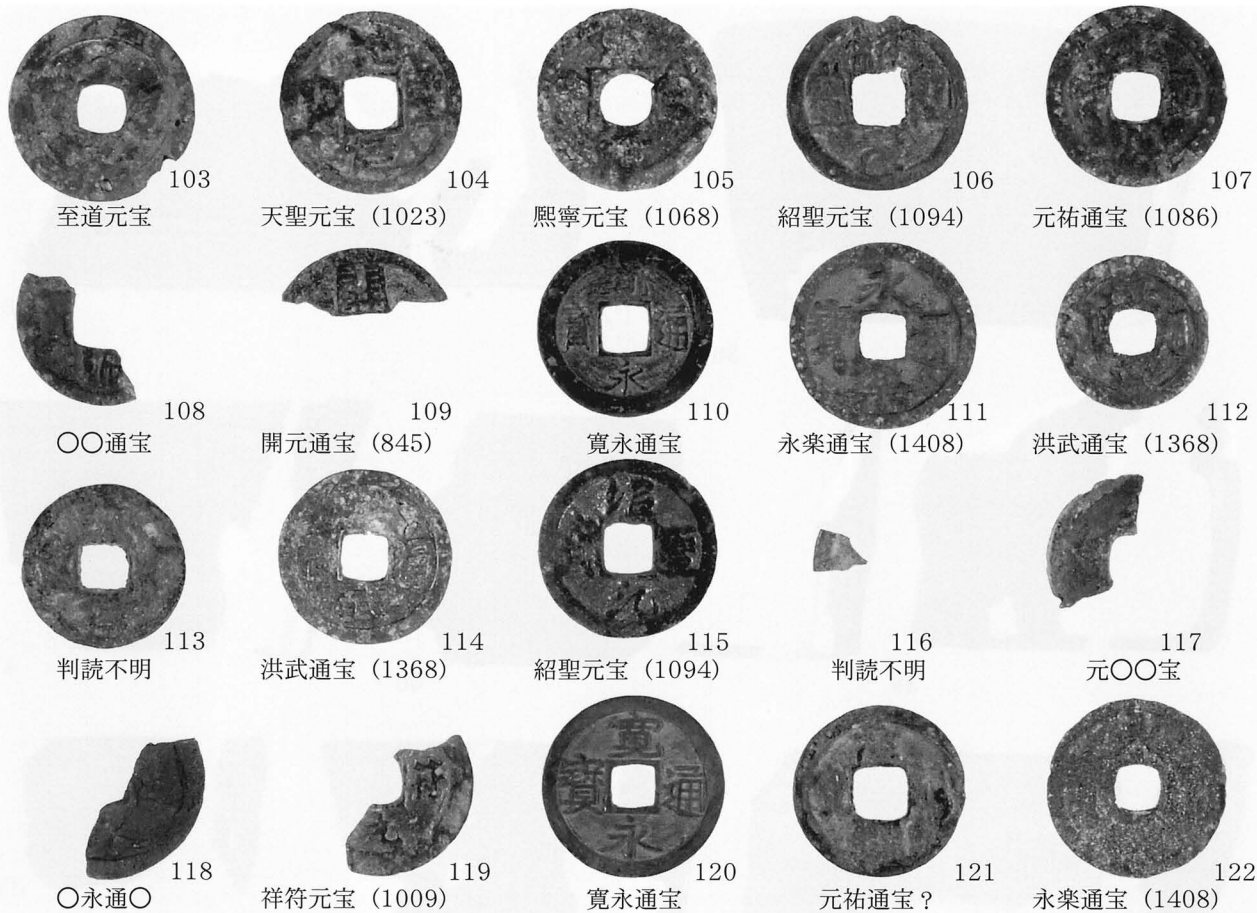
51



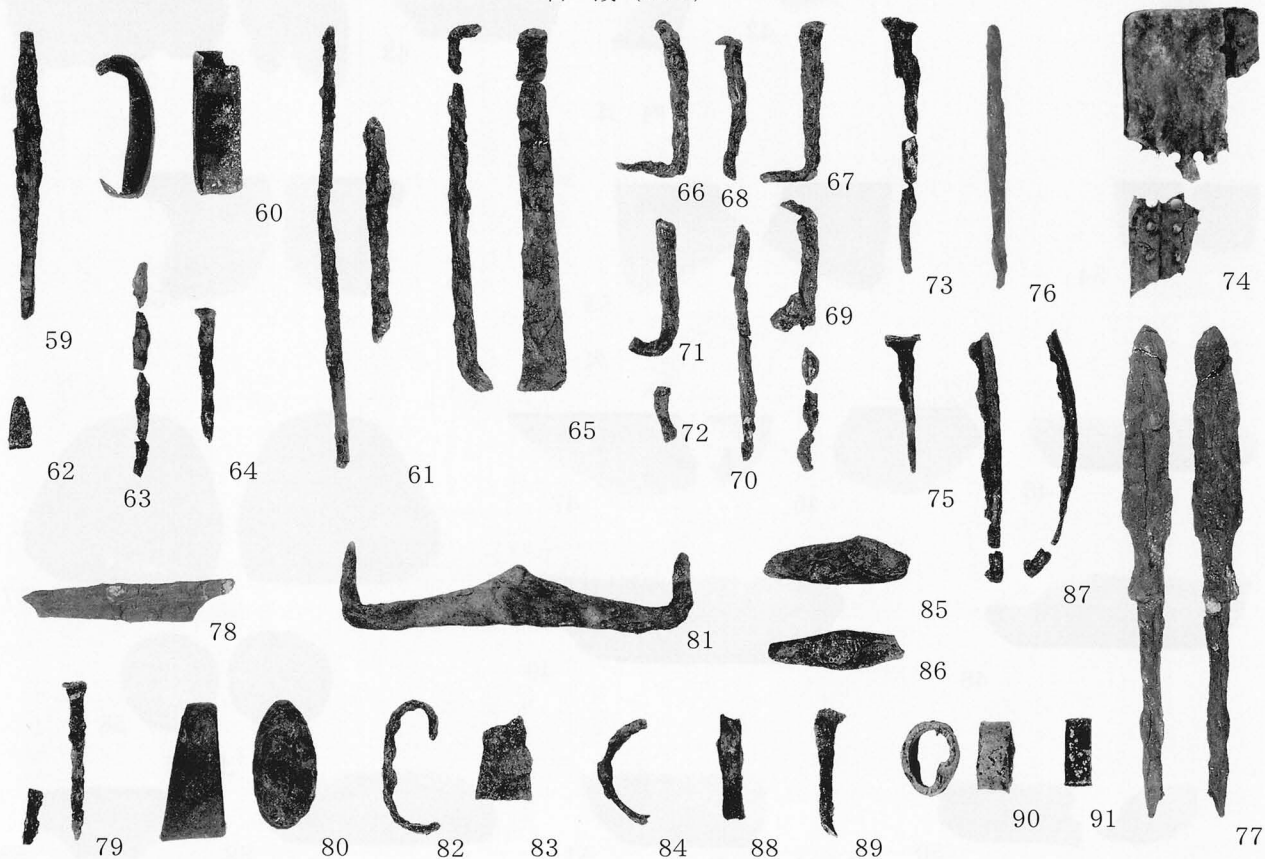
52



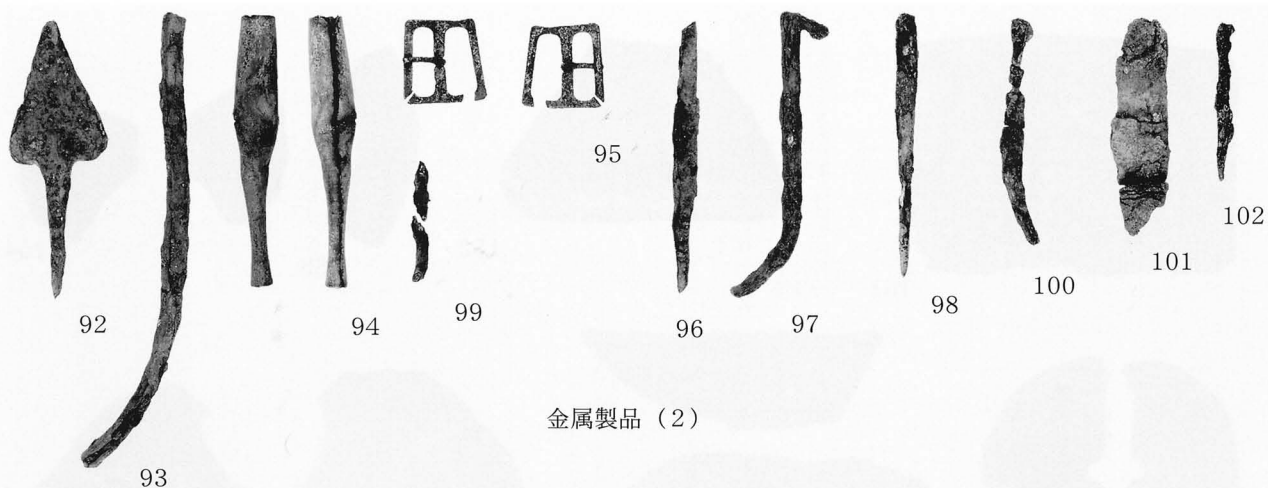
53



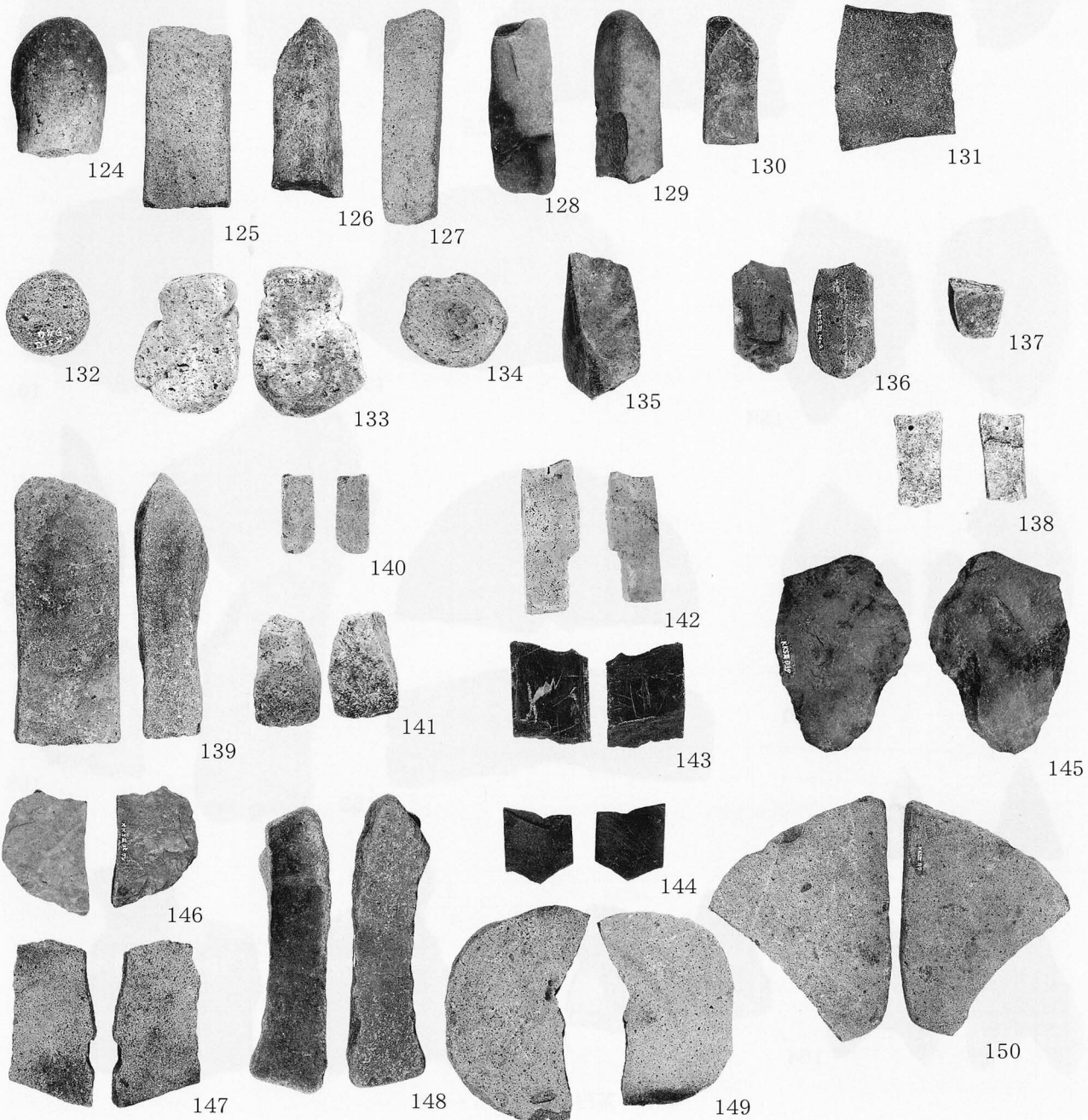
古 銭 (1 : 1)



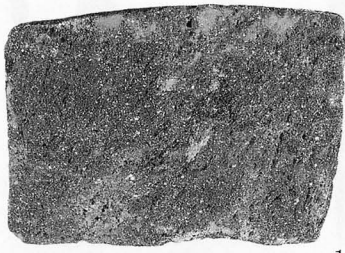
金属製品 (1) (1 : 2)



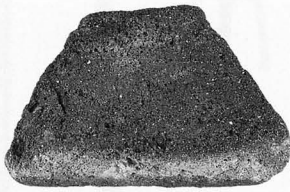
金属製品 (2)



編物石・磨石・砥石・硯石



151



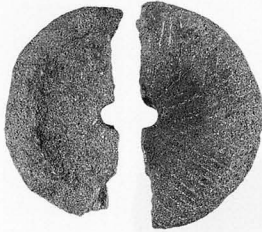
152



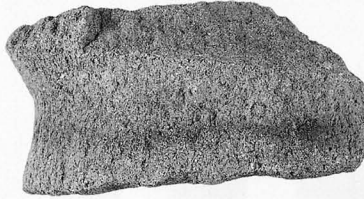
153



154



155



156



157



158



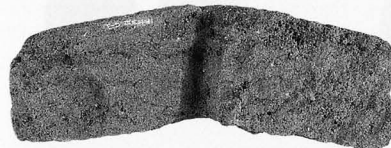
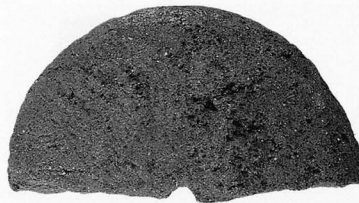
159



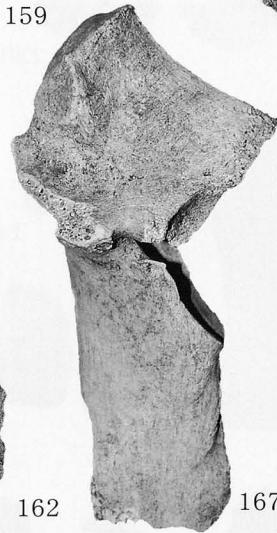
161



160



162



167



169



168



163



164



165



166

骨

台石・茶臼・粉挽き臼・石鎌

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第198集

白岩城跡Ⅲ

2012年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

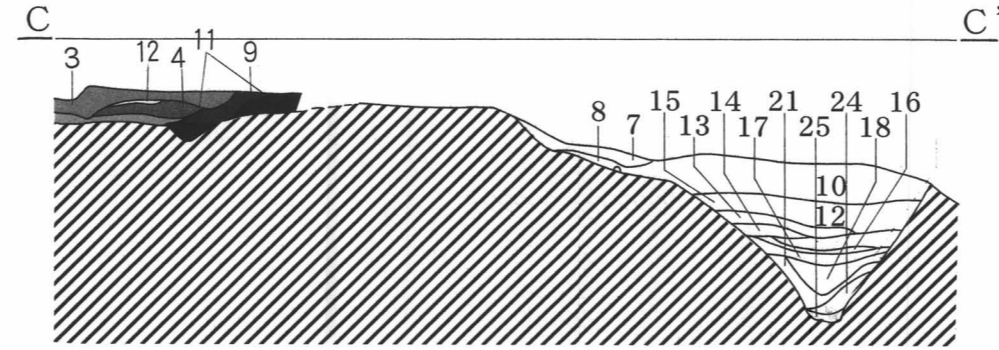
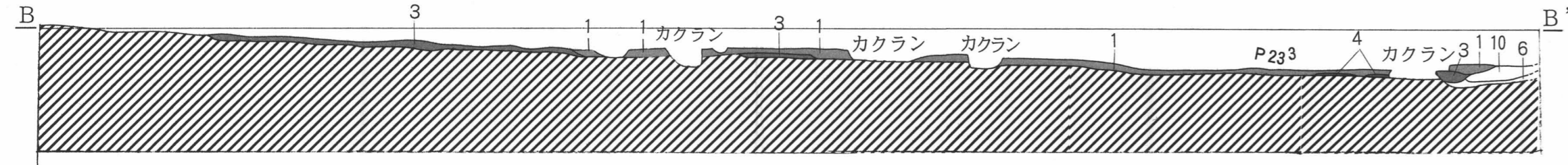
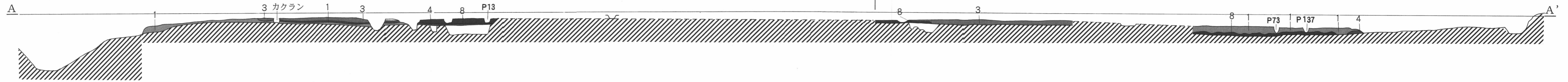
TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク株式会社

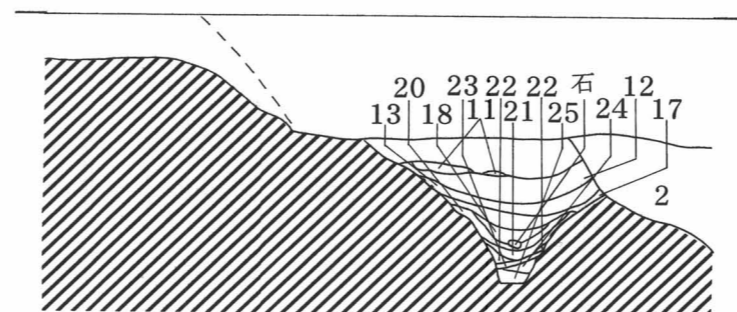
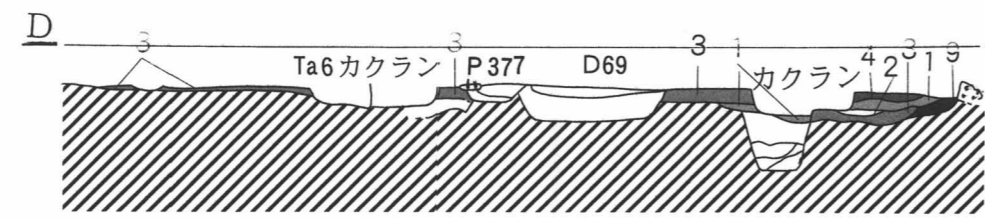
報告書抄録

ふりがな	しらいわじょうせきさん
書名	白岩城跡Ⅲ
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第197集
編著者名	森泉かよ子
編集機関	佐久市教育委員会
発行年月日	20120331
郵便番号	3850006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
ふりがな	しらいわじょうせき
遺跡名	白岩城跡
ふりがな	ながのけんさくしかみひらお
遺跡所在地	長野県佐久市上平尾
遺跡番号	佐久市 67
北緯	36° - 17' - 7" (世界測地系)
東経	138° - 30' (世界測地系)
調査期間	20090902 - 20091030
調査面積	1,720㎡
調査原因	店舗新築
種別	中世城館跡
主な時代	中世 (15C後半~16C)
遺跡の概要	散布地-縄文-遺物-土器片3-石器4 館跡-中世-掘立柱建物址9+竪穴状遺構3+土杭45+石組1+溝4+石列4+堀 +ピット426-瀬戸灰釉小皿+かわらけ+内耳+茶臼+粉挽臼+渡来銭+刀金具
特記事項	白岩城跡の築かれたのが15世紀中頃で、廃絶が16世紀末と伝承されていたが、出土遺物の大窯製品・かわらけ・内耳などからは15世紀末~16世紀の年代が得られた。礎石のある掘立柱建物址・ピット群の集中箇所や堀と土塁など館跡の様相が判明した。

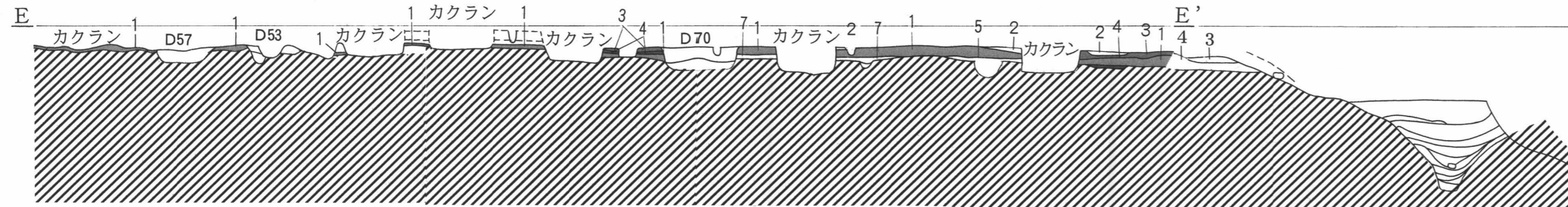
付図 1



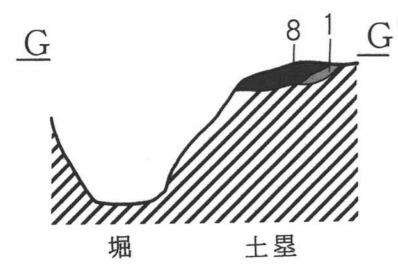
(白岩城跡 I)



(白岩城跡 I)



(白岩城跡 I)



標高 742.80m
(1:100) 4m

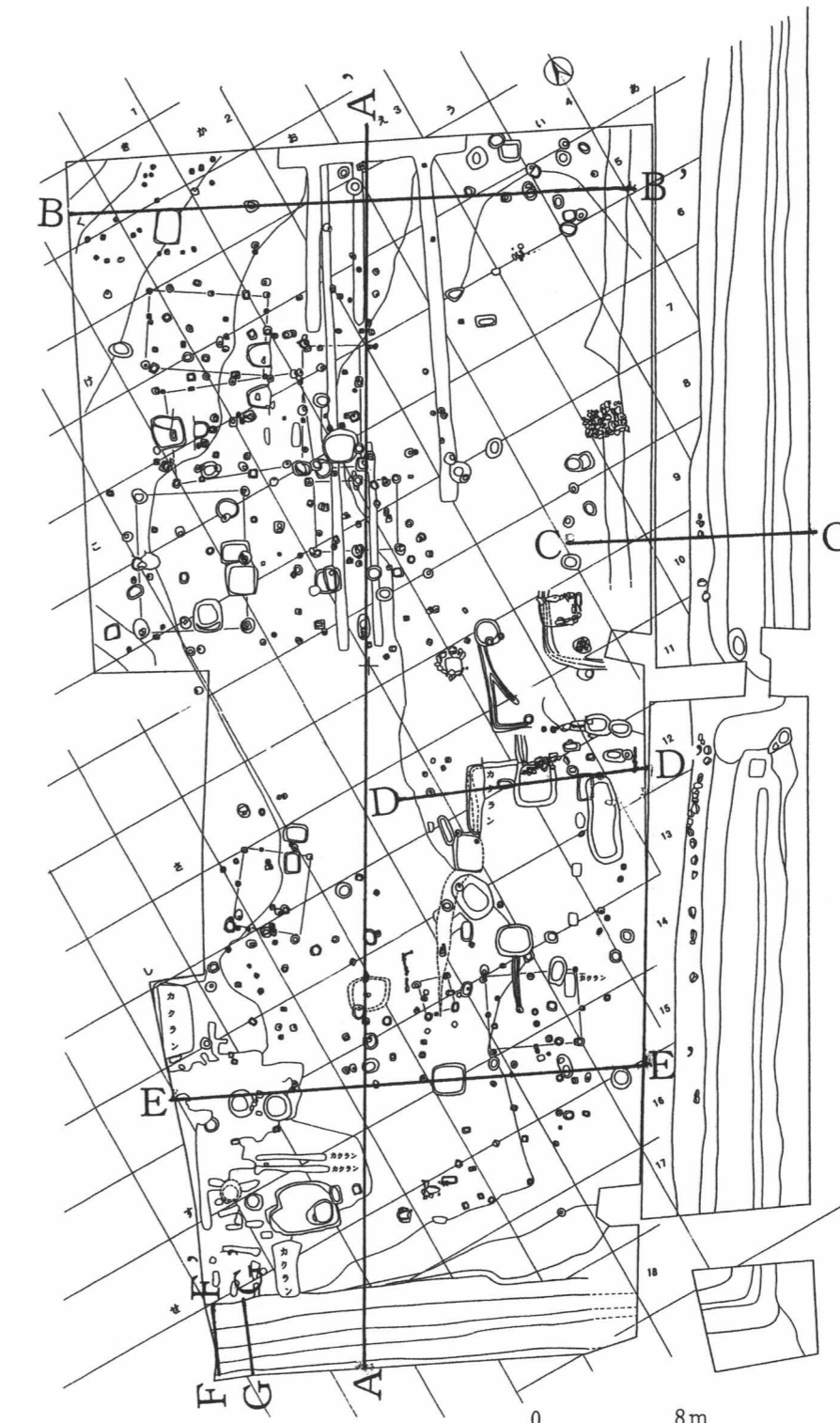
- 1層
- 3層
- 4層
- 8層
- 9層
- 11層

白岩城跡Ⅲ整地層土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/3)
炭化物粒子含む。ところにより、ロームブロック層状に含む。運物を含み整地層。黒褐色土層を微量含む。
2. 黒褐色土層(10YR4/4)
ローム多量に混入。
3. 暗褐色土層(10YR3/3)
ローム粒子、ロームブロック、パミス、炭化物を含む。
4. 暗褐色土層(10YR3/4)
ローム粒子多く含む。整地層。
5. 黒褐色土層(10YR2/3)
層状にローム含む。締まりあり。
6. 褐色土層(10YR4/4)
地山のローム混入。
7. 黒褐色土層(10YR2/2)
地山黒色土含む。
8. 暗褐色土層(10YR3/4)
ロームブロック多量に含む。パミス、炭化物を含む。
9. 褐色土層(10YR4/4)
層状にローム含む。土層層。
10. 暗褐色土層(10YR3/4)
パミス、ローム粒子含む。(土層層)
11. 黒褐色土層(10YR2/3)
パミス微量を含む。土層層。
12. 暗褐色土層(10YR3/3)
粘土ブロック少量混入。

白岩城跡 I 掘土層説明 (報告書から転載)

1. 耕作土。
2. 安原用水路建設による擾乱。
3. 黒褐色土層
粘性弱し。パミス、スコリア(極小～小粒)を微量含む。
4. 黒褐色土層
粘性弱し。パミス(中～小粒)・スコリア(極小～小粒)を微量含む。
5. 黒褐色土層
粘性やや弱し。パミス・スコリア(極小～小粒)を微量含む。
6. 黒褐色土層
粘性やや弱し。ローム粒子を少量、パミス・スコリア(極小～小粒)を微量含む。
7. 黒褐色土層
粘性弱し。砂礫・パミス(極小～中粒)を少量含む。(土層の崩落土)
8. 黒褐色土層
粘性弱し。パミス・スコリア(極小～小粒)を微量含む。(土層の崩落土)
9. 黒褐色土層
粘性弱し。パミス・スコリア(極小～小粒)を微量含む。(土層の崩落土)
10. 黒褐色土層
粘性弱し。パミス・スコリア(極小～小粒)を微量含む。(土層の崩落土)
11. 黒褐色土層
粘性弱し。パミス(小～中粒)と砂礫を少量含む。
12. 黒褐色土層
粘性弱し。パミス(小～中粒)と砂礫・ローム粒子を少量含む。
13. 褐色土層
粘性弱し。砂礫・ローム粒子を多量に含む。
14. 暗褐色土層
粘性弱し。砂礫・小礫、ローム粒子を多量に含む。
15. 黒褐色土層
粘性弱し。砂礫・ローム粒子を少量含む。
16. 暗褐色土層
粘性弱し。パミス(極小～中粒)・砂礫・ローム粒子を少量含む。
17. 黄褐色土層
粘性弱し。ローム粒子を多量に、パミス(極小～中粒)・砂礫を少量含む。
18. 黒褐色土層
粘性やや強し。ローム粒子・砂礫を微量に含む。
19. 褐色土層
粘性弱し。ローム粒子・パミス極大以下・スコリア小粒を多量に、炭土粒子・炭化物粒子を微量含む。
20. 黄褐色土層
粘性やや弱し。ローム粒子を多量に、パミス中粒・スコリア小粒を少量、焼土ブロック・炭化物粒子を微量。
21. 黄褐色土層
粘性弱し。ローム粒子を多量に、パミス(小～中粒)・砂礫・炭土粒子を少量含む。
22. 黄褐色土層
粘性弱し。ローム粒子を多量に、パミス(小～中粒)を少量含む。
23. 黄褐色土層
粘性やや強し。ローム粒子を多量に、パミス(極小～中粒)を少量含む。(壁崩落土)
24. 灰褐色土層
粘性やや弱し。ローム粒子を多量に、パミス(極小～中粒)を少量含む。(壁崩落土)
25. 褐色土層
粘性やや強し。ローム粒子を多量に、パミス(極小～中粒)を少量含む。



付図 1 白岩城跡Ⅲ横断面図

